

講義内容の概要

(シラバス)

2015 (H27) 年度

高知短期大学

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 法学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | A0010 | 担当教員 | 小林 直三 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7183 (研究室) |
| | E-mail | | | | | k-naozo@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 法学の総論的な部分を、特に公法（憲法、行政法、刑法、国際法）の視座から学んでいきます。これから法学を学んでいきたい方はもちろんのこと、経済・経営学などを中心に学びたい方も、法学のエッセンスを身につけるために、ぜひ、受講してください。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。 |
| 達成目標 | (1)法学及び公法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)法的思考ができるようになる。 (3)実際の問題を法的に分析できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション（講義の概要や進め方などの説明） 第2回 法とは何か？ 第3回 司法制度概説 第4回 憲法概説 第5回 憲法概説 第6回 憲法概説 第7回 法学と地域 第8回 道州制と民主主義 第9回 行政法概説 第10回 行政法概説 第11回 個人情報保護と情報公開 第12回 刑法概説 第13回 刑法概説 第14回 国際法におけるトピックス 第15回 全体のまとめ |
| 履修上の注意 | 私語は厳禁です。 |
| 教科書 | 『地域に関する法的研究』小林直三・根岸忠・薄井信行編、新日本法規出版（2015年） |
| 参考書 | 『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社（2014年） 『憲法実感！ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社（2014年） 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社（2013年） |
| 成績評価方法 | 期末の試験（100%）で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあ るかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評 価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 法学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | A0020 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 本講義では総論、私法及び社会法に焦点をあてて、われわれの日常生活にどのように法がかかわるかを見ていくこととしたい。 |
| 授業の進め方 | パワーポイントを用いながら授業を進めていく。 |
| 達成目標 | (1)法とは何かを理解できるようになる。 (2)具体的な場面で法がどのようにかかわっているかを理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 はじめに、法とはなにか 第2回 法源 第3回 法の解釈 第4回 法の歴史 第5回 契約とは何か(1)契約の成立 第6回 契約とは何か(2)契約の種類(1) 第7回 契約とは何か(3)契約の種類(2) 第8回 家族と法(1)親族 第9回 家族と法(2)婚姻、扶養 第10回 家族と法(3)成年後見制度 第11回 消費者と法(1) 第12回 消費者と法(2) 第13回 会社と法 第14回 雇用と法 第15回 社会保障と法 |
| 履修上の注意 | 本講義は法学科目の基礎となる科目であるので、他の法学科目と履修するにあたっては、すでに本講義を履修しているか、少なくとも本講義と他の法学科目を並行して履修することが望ましい。また、法学 と並行して履修すれば、さらに理解が深まる。 |
| 教科書 | 『プライマリー法学憲法 第2版』石川明、永井博史、皆川治廣編、不磨書房(平成22年) とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してほしい。 |
| 参考書 | 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(平成27年) |
| 成績評価方法 | 筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%) |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 経済学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | A0030 | 担当教員 | 大井 方子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7189 (研究室) |
| | E-mail | | | | | oimasako@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 需要と供給という経済学の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。 |
| 授業の進め方 | 講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。 |
| 達成目標 | (1) 市場における需要と供給の作用により、価格や取引量がどのように変化するのか理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入しない方がいいとはどういうことか、理解できるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合とはどういう場合かを知ることができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 はじめに 第2回 市場1:需要と供給 第3回 市場2:均衡価格と取引量 第4回 市場3:環境の変化と価格と取引量 第5回 弾力性とその応用:豊作貧乏と生産調整 第6回 市場の効率性1:需要と供給再考 第7回 市場の効率性2:余剰分析 第8回 市場介入1:参入規制 第9回 市場介入2:税(1) 第10回 市場介入3:税(2) 第11回 市場介入4:補助金 第12回 市場介入5:販売量規制と価格規制 第13回 市場介入6:国際貿易 第14回 市場の失敗:政府が市場に介入した方がいい場合 第15回 おわりに |
| 履修上の注意 | 積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。 |
| 教科書 | 『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年) |
| 参考書 | 『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年) |
| 成績評価方法 | 学期末試験の成績を基本に(80%)、受講態度(20%)を加味して評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 経済学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | A0040 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7191 (研究室) |
| | E-mail | | | | | hosoi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 国民所得、GDP、経済成長といった基本用語を整理しながら、経済学の基本的な考え方を提示し、検討していきます。同時に当面する問題としてアベノミクスの行方、長期の視点から見た日本経済の課題として高齢化・人口減少の問題を取り上げ、みなさんとともに考えていきます。 |
| 授業の進め方 | 講義の形で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。ビデオも可能な限り活用します。 |
| 達成目標 | (1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)高齢化・人口減少が生み出す問題とそれに対する備えについて、深い関心を持ち、いくつかの基本的な側面を理解できるようになる。 (3)経済成長と豊かさとの関係について、深い関心をもって考えられるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 概ね次のように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。またいくつかテーマを絞って受講生の間で議論することも考えています。 第1回 オリエンテーション - 危機の時代と経済学 第2回 経済成長と暮らし 国民の所得とは？ 第3回 経済成長と暮らし 成長の生む要因は？ 第4回 経済成長と暮らし 経済成長と豊かさ 第5回 経済成長と暮らし 豊かさの国際比較について 第6回 経済成長と暮らし 豊かになるとはどういうことか？ 第7回 中間復習 第8回 高齢化・人口減社会 何が問題か？ 第9回 高齢化・人口減社会 なぜ止められないか？ 第10回 高齢化・人口減社会への備え 公的年金は頼れるか？ 第11回 高齢化・人口減社会への備え 貯金は頼りになるか？ 第12回 不況の経済学 なぜ不況が続くのか？ 第13回 不況の経済学 なぜ失業が減らないのか？ 第14回 不況の経済学 対策として何ができるのか？ 第15回 総復習 以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。 |
| 履修上の注意 | 積極的に参加する姿勢が求められます。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。 |
| 教科書 | 特に指定しません |
| 参考書 | 講義の中で適宜指示します。 |
| 成績評価方法 | 試験の成績を基本に(60%)、授業への参加の姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 情報処理 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | A0050 | 担当教員 | 増井 広二 | 所属 | ブレインソフトサービス |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットの基礎とセキュリティを学習し、ワードで文章の作成、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。 |
| 授業の進め方 | 情報演習室内における講義と実習。 |
| 達成目標 | (1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) ワードで基本的な文章を作成できるようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションが出来るようになる |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 拡張書式・スタイルの設定 第7回 表の作成 第8回 段落・タブ・箇条書き 第9回 画像の処理(画像処理ソフト) 第10回 画像・ワードアートの操作 第11回 差し込み印刷 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーション・テーマの変更 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。 |
| 教科書 | 授業内でプリント配布。 |
| 参考書 | Web教材を授業内で使用します。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 情報処理 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | A0060 | 担当教員 | 増井 広二 | 所属 | ブレインソフトサービス |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業では、Excelを使用して表計算ソフトの操作方法と、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。 |
| 授業の進め方 | 情報演習室内における講義と実習。 |
| 達成目標 | (1) 表計算ソフト (Excel) の基本操作が出来るようになる (2) 計算式、関数を理解する (3) データの処理が出来るようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションが出来るようになる |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 表計算ソフトの基礎 第2回 セルの操作 ワークシートの操作 第3回 セルの書式 罫線 第4回 計算式・関数1 (数値関数) 第5回 関数2 (文字関数) 第6回 関数3 (制御関数) 第7回 データの処理1 (ソート他 検索と選択) 第8回 データの処理2 (集計 テーマ 条件付き書式 スタイル) 第9回 画像 図形とワードアート SmartArt 第10回 グラフ 第11回 マクロとツールボックス 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーション・テーマの変更 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。 |
| 教科書 | 授業内でプリント配布。 |
| 参考書 | Web教材を授業内で使用します。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|---------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 英語（初級）A | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0080 | 担当教員 | 福江 満子 | 所属 | 高知県立大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------------------|---------------|-------------------|----------|-------------------|-------------|---------|----------|---------|-------------------|-------------|----------|---------|---------|-------------|------------|---------|-----------|---------|-------------------|----------|----------|------------|------------|------------|---------------|-------------------|-------------|-------------|----------|
| 授業概要 (テーマ等) | テキストに沿って基本的文法事項を学習し、英語を理解し活用できる基礎的な力を身につけ、簡単な英語の文章が読めるようになることを目的とします。 知識を実践に生かせるようにするため、テキスト付属のCDを活用して音読や口頭練習を行い、使える英語の習得を目指します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | 高校時代、英語の自信が持てなかった方、数十年間英語と縁がなかった方に配慮して繰り返し復習することで知識の定着を図っていきます。 ペアワークを多用し、相手と上手くコミュニケーションをとる練習をしていきます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成目標 | (1)中学、高校時代に習った文法項目を復習、整理する。 (2)英語を話す、聞く、読む、書くという4技能に関して基礎力をつける。 (3)さらに英語力を伸ばすことができるような学習方法を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <table border="0"> <tr> <td>第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介</td> <td>第16回 名詞、冠詞、数詞</td> </tr> <tr> <td>第2回 be動詞(現在形・過去形)</td> <td>第17回 代名詞</td> </tr> <tr> <td>第3回 一般動詞(現在形・過去形)</td> <td>第18回 形容詞、副詞</td> </tr> <tr> <td>第4回 未来形</td> <td>第19回 前置詞</td> </tr> <tr> <td>第5回 進行形</td> <td>第20回 第16回から19回の復習</td> </tr> <tr> <td>第6回 これまでの復習</td> <td>第21回 接続詞</td> </tr> <tr> <td>第7回 助動詞</td> <td>第22回 比較</td> </tr> <tr> <td>第8回 能動態・受動態</td> <td>第23回 関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 動名詞</td> <td>第24回 関係副詞</td> </tr> <tr> <td>第10回 分詞</td> <td>第25回 第21回から24回の復習</td> </tr> <tr> <td>第11回 不定詞</td> <td>第26回 仮定法</td> </tr> <tr> <td>第12回 現在完了形</td> <td>第27回 音読・暗唱</td> </tr> <tr> <td>第13回 過去完了形</td> <td>第28回 英語の文章を読む</td> </tr> <tr> <td>第14回 第7回から13回のまとめ</td> <td>第29回 後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第15回 前半の総復習</td> <td>第30回 総復習</td> </tr> </table> | 第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介 | 第16回 名詞、冠詞、数詞 | 第2回 be動詞(現在形・過去形) | 第17回 代名詞 | 第3回 一般動詞(現在形・過去形) | 第18回 形容詞、副詞 | 第4回 未来形 | 第19回 前置詞 | 第5回 進行形 | 第20回 第16回から19回の復習 | 第6回 これまでの復習 | 第21回 接続詞 | 第7回 助動詞 | 第22回 比較 | 第8回 能動態・受動態 | 第23回 関係代名詞 | 第9回 動名詞 | 第24回 関係副詞 | 第10回 分詞 | 第25回 第21回から24回の復習 | 第11回 不定詞 | 第26回 仮定法 | 第12回 現在完了形 | 第27回 音読・暗唱 | 第13回 過去完了形 | 第28回 英語の文章を読む | 第14回 第7回から13回のまとめ | 第29回 後半のまとめ | 第15回 前半の総復習 | 第30回 総復習 |
| 第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介 | 第16回 名詞、冠詞、数詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 be動詞(現在形・過去形) | 第17回 代名詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 一般動詞(現在形・過去形) | 第18回 形容詞、副詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 未来形 | 第19回 前置詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 進行形 | 第20回 第16回から19回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 これまでの復習 | 第21回 接続詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 助動詞 | 第22回 比較 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 能動態・受動態 | 第23回 関係代名詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回 動名詞 | 第24回 関係副詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 分詞 | 第25回 第21回から24回の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 不定詞 | 第26回 仮定法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 現在完了形 | 第27回 音読・暗唱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 過去完了形 | 第28回 英語の文章を読む | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 第7回から13回のまとめ | 第29回 後半のまとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 前半の総復習 | 第30回 総復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | 英語は楽しく学ぶことが大事です。なによりクラスへの積極的参加を重視します。 初級のクラスですので、英語の基礎力のある方は、別クラスを受講してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 『English Grammar: Onward&Upward』芝垣茂、奥田良二、川口格昭 他著、セングージラーニング株式会社(2010年発行) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 高校の時使用していた英文法の本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 授業に取り組む姿勢と授業中の発表(20%)、試験(80%)から総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 英語（初級）B | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0090 | 担当教員 | 岡崎 薫 | 所属 | 元高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | |
|---|---|---|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 高校までに学習した英文法の復習と英文読解の演習 | | |
| 授業の進め方 | 文法事項の解説と、学生による演習（英文解釈と文法問題）と発表 | | |
| 達成目標 | (1) 基本的な英単語、英熟語が理解できる (2) 正しい英語の発音ができる (3) 英文法の重要事項が理解できる (4) 辞書があれば普通の英文が読めるようになること | | |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 第1回 オリエンテーション () 第2回 動詞について () 第3回 名詞について () 第4回 代名詞について () 第5回 辞書の使い方 () 第6回 形容詞について () 第7回 冠詞について () 第8回 副詞について () 第9回 前置について () 第10回 助動詞について () 第11回 接続詞について () 第12回 比較について () 第13回 時制について () 第14回 完了形などについて () 第15回 まとめ () </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 第16回 オリエンテーション () 第17回 動詞について () 第18回 名詞について () 第19回 代名詞について () 第20回 辞書の使い方 () 第21回 形容詞について () 第22回 冠詞について () 第23回 副詞について () 第24回 前置について () 第25回 助動詞について () 第26回 接続詞について () 第27回 比較について () 第28回 時制について () 第29回 完了形などについて () 第30回 まとめ () </td> </tr> </table> | 第1回 オリエンテーション () 第2回 動詞について () 第3回 名詞について () 第4回 代名詞について () 第5回 辞書の使い方 () 第6回 形容詞について () 第7回 冠詞について () 第8回 副詞について () 第9回 前置について () 第10回 助動詞について () 第11回 接続詞について () 第12回 比較について () 第13回 時制について () 第14回 完了形などについて () 第15回 まとめ () | 第16回 オリエンテーション () 第17回 動詞について () 第18回 名詞について () 第19回 代名詞について () 第20回 辞書の使い方 () 第21回 形容詞について () 第22回 冠詞について () 第23回 副詞について () 第24回 前置について () 第25回 助動詞について () 第26回 接続詞について () 第27回 比較について () 第28回 時制について () 第29回 完了形などについて () 第30回 まとめ () |
| 第1回 オリエンテーション () 第2回 動詞について () 第3回 名詞について () 第4回 代名詞について () 第5回 辞書の使い方 () 第6回 形容詞について () 第7回 冠詞について () 第8回 副詞について () 第9回 前置について () 第10回 助動詞について () 第11回 接続詞について () 第12回 比較について () 第13回 時制について () 第14回 完了形などについて () 第15回 まとめ () | 第16回 オリエンテーション () 第17回 動詞について () 第18回 名詞について () 第19回 代名詞について () 第20回 辞書の使い方 () 第21回 形容詞について () 第22回 冠詞について () 第23回 副詞について () 第24回 前置について () 第25回 助動詞について () 第26回 接続詞について () 第27回 比較について () 第28回 時制について () 第29回 完了形などについて () 第30回 まとめ () | | |
| 履修上の注意 | | | |
| 教科書 | 『英文法から学ぶ英作と読解』（南雲堂） | | |
| 参考書 | | | |
| 成績評価方法 | 試験（65%）授業への参加姿勢（35%）などから総合的に評価する | | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 英語（中級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0100 | 担当教員 | 奥村 訓代 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 苦手意識の英語を、決まり文句を覚えることで克服する。 英語耳を鍛え、TOEIC等にも備える。 |
| 授業の進め方 | 基本は講義によって進めます。毎回復習テストを行い、定着を確認しながらすぐフィードバックでき、気軽に質問できる環境を設定します。講義の流れは、予復習し易いようにテキストに添って毎回同程度の進度で行います |
| 達成目標 | (1) 英語に耳と口で感じるができる (2) 通じる喜びを認識することができる (3) 自分の言いたいことを、何とか英語で伝えることができる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 1) 「ネコ派、イヌ派、あなたはどっち?」、「サッカーと野球、どっちのファン?」 2) 「映画館で観る?DVD?」、「子供は好き?」 3) 「カラオケは好き?」、「節約家それとも浪費家?」 4) 「夏が好き、それとも冬?」、「洋食・和食、どっちがお好み?」 5) 「結婚したい?」、「ブランド志向?」 6) 「ファーストフードは食べる?」、「禁煙家?」 7) 「コーヒー党?」、「結婚は収入?それとも愛?」 8) 「お化粧ばっちり?」、「都会好き?」 9) 「ベジタリアン?」、「大酒のみ?」 10) 「旅先では観光派?」、「子どもができて働く?」 11) 「大勢が好き?」、「娯楽番組。報道番組、どっちを見る?」 12) 「朝型・夜型?」、「メール派?」 13) 「ネットで買う?」お店で買う?」、「遊びに行くなら海それとも山?」 14) 「子どもをほめる?」、「住むならマンション?」 15) 「安定?それとも独立?」 、「見合いに楽観的?それとも悲観的?」 16・17) 「イギリスのカフェで」、「道路閉鎖」 18・19) 「ジョーンズ家滞在初日」、「旅程表」 20・21) 「コピー機の故障」、「野菜オーケストラ」 22・23) 「語学学校へ電話」、「レストラン」 24・25) 「観光案内所で」、「定期購読」 26・27) 「妻のパート探し」、「セール広告」 28・29) 「新刊料理本」、「書評」 30) 「まとめと復習」 31) 「試験」 |
| 履修上の注意 | 前期は特に、簡単なフレーズを覚えるようにしてください! |
| 教科書 | 前期：ネイティブみたいに上手に主張する! 激論English 長尾和夫他 株式会社DHC 1400円 後期：スパイラル英語トレーニング 入江泉 ジャパンタイムズ |
| 参考書 | 講義のなかで紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(70%)、平常点(30%)、の比率で、総合的に評価します。平常点のなかには、数回実施予定の小テストの評価も含まれます。 |

| | | | | | |
|-------|----------|------|----------|----|-----------|
| 科目名 | 英語（会話初級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0110 | 担当教員 | トーマス・マナー | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 英会話に楽しく慣れ親しみ、英会話の基礎を学ぶ。初級。 英語（会話中級）より、初歩の内容です。 |
| 授業の進め方 | テキストを中心にテープ等も使います。 ペアやグループになって会話の練習をしたり、ゲーム等も取り入れます。英会話初心者用のテキストを使い、その内容にそって授業を進めていきます。ペアやグループになってたくさん会話の練習をしていきますので、失敗をおそれず、積極的に話してみてください。それが上達につながると思います。また、イントネーション、ストレス、発音の指導にも力を入れていきたいと思っています。少しでも多くの英会話ができるよう、楽しい雰囲気 で授業を進めていきたいと考えています。 |
| 達成目標 | (1) 英語で簡単な会話ができるようになる。 (2) 自然な英語を聞き取れるようになる。 (3) 基本的なことごとにについて意見が言える。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | Lesson 1 To Be(1) Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns Lesson 3 Present Continuous Tense Lesson 4 Possessive Adjectives Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns Lesson 6 Prepositions of Location Lesson 7 There Is/There Are Lesson 8 Singular/Plural(1) Lesson 9 Singular/Plural(2) Lesson 10 This/That/These/Those Lesson 11 Simple Present Tense(1) Lesson 12 Simple Present Tense(2) Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary Lesson 16 Object Pronouns Lesson 17 Simple Present Tense Lesson 18 Adverbs of Frequency Lesson 19 Simple Present and Present Continuous Tenses Lesson 20 Can/Have to Lesson 21 Future Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to Lesson 23 Past Tense(1) Lesson 24 Past Tense(2) Lesson 25 Past Tense(3) Lesson 26 Time Expressions(2) Lesson 27 To Be(Past Tense) Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary |
| 履修上の注意 | Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話中級）よりやさしい内容を勉強していきますので初めて英会話に挑戦される方や、ほとんど英語が話せない方はこの授業を取られるとよいと思います。 |
| 教科書 | 『SIDE by SIDE 1』 Steven J. Molinsky他著、ロングマン社 |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|----------|------|----------|----|-----------|
| 科目名 | 英語（会話中級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0120 | 担当教員 | トーマス・マナー | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 中級程度の英会話の修得をめざします。 英語（会話初級）より、少し高い内容を勉強します。 |
| 授業の進め方 | テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになっての会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそって進めていき、その中で、より実践的な英会話が状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのっていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思ひます。 イラストの入った楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思ひています。 |
| 達成目標 | (1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | Lesson 1 Getting to know each other Lesson 2 Talking about Interests(1) Lesson 3 Talking about Interests(2) Lesson 4 Talking about Family Lesson 5 Talking about People(1) Lesson 6 Talking about People(2) Lesson 7 Talking about Work(1) Lesson 8 Talking about Work(2) Lesson 9 Talking about Past Experiences Lesson 10 Talking about Sports Lesson 11 Talking about other Countries Lesson 12 Talking about Experiences Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary Lesson 16 Talking about Places(1) Lesson 17 Talking about Places(2) Lesson 18 Travel English PartI:Traveling to Hawaii(1) Lesson 19 Travel English PartI:Traveling to Hawaii(2) Lesson 20 Talking about Japanese Things(1) Lesson 21 Talking about Japanese Things(2) Lesson 22 Talking about Future Events Lesson 23 Talking about School Lesson 24 Travel English PartII:Traveling to Thailand(1) Lesson 25 Travel English PartII:Traveling to Thailand(2) Lesson 26 Talking about Sickness & Health Lesson 27 Talkopoly Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary |
| 履修上の注意 | Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話初級）から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。 |
| 教科書 | 『Talk a Lot Book 1』 David Martin著、EFL Press |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | ドイツ語 | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0130 | 担当教員 | 持尾 伸二 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------|--------------|------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|---------------------------|-------------------------|-----------------|------------------|-------------------------|---------------|-----------------|-------------------|-------------------------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------------|-------------------------|------------------|-------------------|-----------------------|---------------|------------------|-------------------|--------------------|---------------|-----------|-----------------------|
| 授業概要 (テーマ等) | 英語以外の外国語を新たに学ぶことは、大いに意義のあることです。ドイツ語と英語はきわめて近い関係にあり、実際に学習してみるとその類似性に驚くでしょう。ドイツ語を学ぶことによりドイツ語圏の文化に身近に触れることができるだけでなく、その背後にある西洋というものの姿がこれまでよりも鮮明に見えてくるはずです。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 | 毎回授業の最初に発音練習をやります。そのあと前回の授業の復習をして、練習問題を受講生にやってもらいます。授業中にわからないことがあったら、いつでも遠慮せずに質問してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成目標 | (1) ドイツ語の正しい発音ができるようになる (2) やさしいドイツ語の文章を辞書を引きながら読めるようになる (3) 簡単なドイツ語の作文ができるようになる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <table border="0"> <tr> <td>第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I</td> <td>第16回 前期授業の復習</td> </tr> <tr> <td>第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化</td> <td>第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化</td> </tr> <tr> <td>第3回 第1課の復習と練習問題</td> <td>第18回 第8課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞</td> <td>第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化</td> </tr> <tr> <td>第5回 第2課の復習と練習問題</td> <td>第20回 第9課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令</td> <td>第21回 第10課 完了形</td> </tr> <tr> <td>第7回 第3課の復習と練習問題</td> <td>第22回 第10課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞</td> <td>第23回 第11課 関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 第4課の復習と練習問題</td> <td>第24回 第11課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第10回 第5課 人称代名詞 前置詞</td> <td>第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞</td> </tr> <tr> <td>第11回 第5課の復習と練習問題</td> <td>第26回 第12課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞</td> <td>第27回 第13課 受動態</td> </tr> <tr> <td>第13回 第6課の復習と練習問題</td> <td>第28回 第13課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞</td> <td>第29回 第14課 接続法</td> </tr> <tr> <td>第15回 前期試験</td> <td>第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ</td> </tr> </table> | 第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I | 第16回 前期授業の復習 | 第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化 | 第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化 | 第3回 第1課の復習と練習問題 | 第18回 第8課の復習と練習問題 | 第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞 | 第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化 | 第5回 第2課の復習と練習問題 | 第20回 第9課の復習と練習問題 | 第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令 | 第21回 第10課 完了形 | 第7回 第3課の復習と練習問題 | 第22回 第10課の復習と練習問題 | 第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞 | 第23回 第11課 関係代名詞 | 第9回 第4課の復習と練習問題 | 第24回 第11課の復習と練習問題 | 第10回 第5課 人称代名詞 前置詞 | 第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞 | 第11回 第5課の復習と練習問題 | 第26回 第12課の復習と練習問題 | 第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞 | 第27回 第13課 受動態 | 第13回 第6課の復習と練習問題 | 第28回 第13課の復習と練習問題 | 第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞 | 第29回 第14課 接続法 | 第15回 前期試験 | 第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ |
| 第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I | 第16回 前期授業の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化 | 第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 第1課の復習と練習問題 | 第18回 第8課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞 | 第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 第2課の復習と練習問題 | 第20回 第9課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令 | 第21回 第10課 完了形 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 第3課の復習と練習問題 | 第22回 第10課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞 | 第23回 第11課 関係代名詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回 第4課の復習と練習問題 | 第24回 第11課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 第5課 人称代名詞 前置詞 | 第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 第5課の復習と練習問題 | 第26回 第12課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞 | 第27回 第13課 受動態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 第6課の復習と練習問題 | 第28回 第13課の復習と練習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞 | 第29回 第14課 接続法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 前期試験 | 第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | 課題の練習問題は必ずやってきてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 未定。最初の授業ではプリントを配付します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | 辞書等は第1回の授業で紹介します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | 授業への積極的な取り組み(30%) 学期末試験(70%)を考慮に入れて総合的に評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|----|-----------|
| 科目名 | フランス語（初級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0140 | 担当教員 | 山本 明日香 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|---|--|--|--|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 初めてフランス語を学ぶ人を対象に、最初歩からのフランス語会話と文法を学びます。 | | | | |
| 授業の進め方 | 前週のおさらい / 教科書、CDを使つての講義 / ペアを組んで会話や発音の練習 / プリントを使つて復習や応用練習 (宿題があります) | | | | |
| 達成目標 | (1) 正しい動詞の活用や、名詞の性数、それにあつた正しい冠詞などを選ぶ事が出来る。(文法の修得) (2) 簡単な文章を作る事が出来る。読む事が出来る。(応用) (3) 会話を指示に従つて作り、簡単なやりとりが出来る。聞き取つて内容を把握出来る。(コミュニケーション) | | | | |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音 / アルファベット / 挨拶1 第3～5回 自己紹介 / 国籍・身分 / 数字 (0～10) 第6～8回 職業 / 住んでいる所について / 数字 (11～20) / 第9～11回 否定形 / 言語 (~語を話す) / 喫茶店での飲み物 / 数字 (30～69) | 第12～14回 身の回りのもの / 兄弟について言う / 年齢 第15回 まとめ、復習 | 第16～18回 人を描写する / 国名 / いろんな疑問文 第19～21回 物の位置 / 場所を表す言葉 / 数字 (70～100) 第22～24回 好き嫌いを言う / ~がある / 第25回 フランスの地方料理 / フランスの年間行事 第26～28回 朝食について言う / スポーツ 第29～30回 曜日 / 場所 / 招待する / | 後期の間にも、会話の発表や、小テスト、ゲーム、DVD鑑賞などをする事があります。 | 前期の間、会話の発表や、小テスト、ゲーム、DVD鑑賞などをする事があります。 |
| 履修上の注意 | | | | | |
| 教科書 | 『Café français カフェ・フランセ』 朝日出版社 | | | | |
| 参考書 | 仏和辞書 | | | | |
| 成績評価方法 | 学年末試験 (60%) 提出物 (20%) 発表・小テスト (10%) 授業への参加姿勢 (10%) これらから、総合的に評価します。3分の1以上の欠席者は試験受験資格を失います。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|----|-----------|
| 科目名 | フランス語（中級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0141 | 担当教員 | 山本 明日香 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | | | |
|--------------------|--|---|--|--|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 「フランス語（初級）」を履修した方対象です。 前期は、初級クラスで用いた教科書を続けて学習します。後期は：講読を中心に語彙を増やし、文法事項をより深く学びます。 | | | | |
| 授業の進め方 | 前期はフランス語（初級）クラスと同様。前週のおさらい／教科書、CDを使つての講義／ペアを組んで会話や発音の練習／プリントを使って復習や応用練習（宿題があります） 後期は、テキストを読み、翻訳する事が中心です。 | | | | |
| 達成目標 | (1) 「フランス語（初級）」に続き、基礎文法を修得する。 (2) 修得した文法を生かし、文章を読み、理解する。 (3) 文法だけでなく、フランスの時事問題、文学等の理解を深める。 | | | | |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 ~へ行きましょう。曜日、場所、交通手段、時間について言う 第3～5回 自分の一日について話す／時刻を言う 第6～8回 直接目的語と間接目的語の人称代名詞／自分のアルバイトについて言う 第9～12回 複合過去／半過去／レストランで注文する 第13～15回 未来について言う／命令形／前期の総復習 | 第16～20回 詩を読む／シャンソンの歌詞を読む 第21～25回 文学作品からの抜粋（小説） 第26～30回 時事問題についてのテキスト （順番が変わる事があります。） | | | |
| 履修上の注意 | 「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にしています。 | | | | |
| 教科書 | 「Cafe français」朝日出版社(初級クラスで使用したもの) 後期のテキストは未定（コピーで渡します） | | | | |
| 参考書 | 仏和辞書 | | | | |
| 成績評価方法 | 学年末試験（60%）、提出物(30%)、授業への参加姿勢(10%)から総合的に評価します。授業への積極的な参加が求められます。3分の1以上の欠席者は学年末試験資格を失います。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 中国語（初級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0150 | 担当教員 | 池 純子 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 中国語は日本人にとって漢字という共通の文字を持つ親しみやすい言語ですが、発音という点では、かなり異なっています。この授業では繰り返し発音練習をして正確な発音を習得するようにします。また、会話練習を重点的に行い、簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなりますし、中国語は今後様々な分野で必要となる言語です。授業の中では、中国事情についても触れる予定です。 |
| 授業の進め方 | 演習形式 対話で会話練習 口頭練習を重視 |
| 達成目標 | (1) 中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得し、正しい発音ができるようになる。 (2) 基本単語を覚え、基本文法を学ぶ。 (3) 聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れ、簡単な会話ができるようになる。 (4) 辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>授業は、新出語句 本文の音読 文法解説 ロールプレイ・暗唱 ドリルという順序で進める。1回目には「中国・中国語」に関するオリエンテーションを行う。</p> <p>第1回 発音(1)オリエンテーション、声調、単母音 第2回 発音(2)複母音、子音 第3回 発音(3)鼻母音、声調変化 第4回 発音(4)アル化 第1課 第5回 発音 練習 第1課「浦東空港にて」 第6回 発音 復習 第1課「浦東空港にて」 第7回 第2課「タクシーに乗って」 第8回 第3課「ホテルでお茶を」 第9回 第4課「私の家族」 第10回 復習 第11回 第5課「趣味は映画です」 第12回 第6課「大学の図書館へ」 第13回 第7課「放課後」 第14回 第8課「上海の交通」 第15回 中間テスト</p> <p>第16回 復習 第17回 第9課「地下鉄駅付近にて」 第18回 第10課「上海の“小吃”」 第19回 第11課「ちょっとお腹が空いた」 第20回 第12課「突然の雨」 第21回 第13課「上海料理を食べる」 第22回 第14課「お腹いっぱいです」 第23回 第15課「外灘の夜景」 第24回 復習 第25回 第16課「上海語は面白い」 第26回 第17課「ホテルの部屋から」 第27回 第18課「どうしたの？」 第28回 第19課「上海は魅力的」 第29回 第20課「また会いましょう」 第30回 復習</p> |
| 履修上の注意 | 休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。 |
| 教科書 | 『Love!上海』楊凱栄 張麗群著 朝日出版社 2015年 |
| 参考書 | 中日辞典 |
| 成績評価方法 | 前期中間試験および学年末試験を行う。前期中間試験(30%) 学年末試験(40%)、5課(前期)15課(後期)終了後の小テスト、授業中の発表、課題の提出(30%)等を併せて総合的に評価する |

| | | | | | |
|-------|----------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 中国語 (中級) | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0160 | 担当教員 | 池 純子 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 初級の基礎の上に、単語を増やし、少し複雑な構文を学びます。基礎的な文法を確実なものにすることで、会話の幅を広げ、基本的な作文ができるようにします。さらに、実際に使える表現を繰り返し練習してマスターするようにします。また、中国文化に関する簡単な読み物を取り上げ、中国文化への知識を深めます。 |
| 授業の進め方 | 演習形式。 会話練習を重視。 簡単な作文をして、発表する。 |
| 達成目標 | (1)正しい発音ができる。発音表記(ピンイン)が読み、書ける。 (2)簡単な文が聞き取れ、作文ができ、会話ができる。 (3)ややまとまった文を読んで日本語訳ができるようにする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 発音・文法の復習 第2～8回 第1～5課(ユニット1:雑技を見に行く) ”了“の用法 進行 経験 連動文 推定の表し方</p> <p>第2回 第1課 第3回 第2課 第4回 第3課 第5回 第4課 第6回 第5課 第7回 復習 第8回 復習・小テスト 第9～14回 第6～10課(ユニット2:北海・景山散策) 着 存現文 結果補語 程度補語 数量補語 同一・類似表現</p> <p>第9回 第6課 第10回 第7課 第11回 第8課 第12回 第9課 第13回 第10課 第14回 復習 第15回 中間テスト</p> <p>第16回 復習 第17回～22回 第11～15課(ユニット3:先生の家を訪ねる) 方向補語 可能補語 「把」構文 「是～的」構文</p> <p>第17回 第10課 第18回 第11課 第19回 第12課 第20回 第13課 第21回 第14課 第22回 第15課 第23回 復習 第24回 復習・小テスト 第25回～30回 第16～20課(ユニット4:円明園でスケッチ) 使役 受身 状態補語</p> <p>第25回 第16課 第26回 第17課 第27回 第18課 第28回 第19課 第29回 第20課 第30回 復習</p> |
| 履修上の注意 | 授業は休まずに出席すること。 積極的に口頭練習に参加すること。 辞書をよく使いこなすこと。 |
| 教科書 | 『理香と王麗 - 話す中国語2』董燕・遠藤光暁著 朝日出版社 2006年 |
| 参考書 | 中日辞典 日中辞典 |
| 成績評価方法 | 中間試験、期末試験を行う。授業中の発表と課題の提出及び小テスト(30%) 中間試験(30%) 期末試験(40%) などから総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------------|
| 科目名 | 韓国語（初級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0170 | 担当教員 | 具 珉京 | 所属 | 財団法人福井保育協会 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|--|---|--|--|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 韓国語の仕組みからハングルの読み書き、そして基本的な韓国語の文章が理解出来、簡単な挨拶や会話を身に付ける。 | | | | |
| 授業の進め方 | テキストをもとに講義をする。 プリントを使つての演習とペアやグループになって会話の練習をする。 最初はハングルの文字と発音を十分身に付けるために、韓国語の仕組みや、ハングルの読み書きの練習をし、文法と表現の学習を段階的に学べるようにする。後半では、簡単な会話演習も行う。試験は中間テストと期末試験の2回行う。 | | | | |
| 達成目標 | (1) 韓国語の仕組みを理解する (2) ハングル文字と日常生活に良く出てくる単語を覚える。 (3) 初めて習う人が1年で簡単な文章が作れるようになる。 (4) 挨拶を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 予習復習を熱心にし、巻末の用言活用表で不規則用言の変化まで覚えると、ハングル能力検定試験4級に相当する力がつく。 | | | | |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語の仕組みとハングルについて 第3回 挨拶表現(1) 母音(1) 第4回 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第5回 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 第6回 挨拶表現(4)と終声 第7回 挨拶表現(4)と発声 第8回 指定詞 第9回 指定詞の否定形 第10回 改まりの上称形 第11回 漢数詞と助数詞 第12回 固有数詞と助数詞 第13回 韓国の日常生活と会話 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習 | 第16回 親しさの上称形(1) 第17回 親しさの上称形(2) 第18回 方向位置名詞 第19回 過去時制 第20回 否定形と不可能形 第21回 尊敬表現 第22回 動作の継続と希求表現 第23回 婉曲と根拠の表現 第24回 連体形 第25回 意志・相談・可能形 第26回 用言活用、助詞の整理、文法形式 第27回 韓国の風習と言語について 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答 | | | |
| 履修上の注意 | 欠席しないこと。予習・復習をすること。 | | | | |
| 教科書 | 『楽しく学ぶハングル1』浜之上幸監修、姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社(2008年) | | | | |
| 参考書 | 韓日辞書、日韓辞書 | | | | |
| 成績評価方法 | 授業態度 30% 前期授業期間中に行う中間テスト 30% 後期試験期間に行う期末試験 40% | | | | |

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------------|
| 科目名 | 韓国語（中級） | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | B0180 | 担当教員 | 具 珉京 | 所属 | 財団法人福井保育協会 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | |
|---------------------|--|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 韓国語の基本的な文章の理解と会話を習得することを目的とする。 | |
| 授業の進め方 | テキストをもとに講義をする。(プリントを使つての演習) 単語と文法を覚え、文章を理解し表現できるようにした上で、ペアやグループになって会話練習を行い、ヒアリング力も身につくようにする。 中間テストと期末試験を行う。 | |
| 達成目標 | (1) 一般的に良く使われるハングル文字や文章の読み書きが出来るようになる。 (2) 日常会話力がレベルアップする。 (3) ヒアリング力がつくようになる。 予習復習を熱心にし、テキストを完全にマスターして、付録や読解編の文法事項まで覚えると、韓国での生活に支障をきたさないレベルの語学力、ハングル能力検定試験3級に相当する力がつく。 | |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語初級からの確認事項 第3回 過去時制と未来連体形 第4回 相談・提案の表現 第5回 否定表現と不可能表現 第6回 現在連体形と活用用言 第7回 変革用言(1)と原因・理由(1)の表現 第8回 変革用言(2)と意向の表現 第9回 過去連体形と経験の表現 第10回 変格用言(3)と連用形を用いた表現 第11回 変格用言(4)と文中の疑問形 第12回 変格用言(5)と継続の表現(1) 第13回 韓国の伝統と文化と言語について 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習 | 第16回 尊敬の丁寧な命令、勧誘、簡単な表現 第17回 同意・確認と希求・願望の表現 第18回 許可と義務の表現 第19回 意志・推量と意図の表現 第20回 用言の名詞形を用いた表現 第21回 目的の表現と副詞形 第22回 ハンタ体と伝聞の表現 第23回 原因・理由(2)と動作や対象の変化の表現 第24回 ぞんざいしない方と禁止の表現 第25回 継続の表現(2) 第26回 自分の力で読んでみよう(読解編) 第27回 補充文法、発音変化の整理、漢数詞と固有数詞、文法形式 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答 |
| 履修上の注意 | 韓国語（初級）を受講していることが望ましい。 予習・復習をする事、欠席しないように。 | |
| 教科書 | 『楽しく学ぶハングル2』浜之上幸監修、姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社(2009年) | |
| 参考書 | 韓日辞書 日韓辞書 | |
| 成績評価方法 | 授業態度 30% 中間テスト30% 期末試験40% | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 保健体育 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | C0190 | 担当教員 | 本間 聖康 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 生活と健康（特に運動と健康） ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動（身体活動）と健康の関係についてみていく。 |
| 授業の進め方 | 講義形式 |
| 達成目標 | (1) 運動（身体活動）と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2) 健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3) 健康の保持・増進のために運動（身体活動）を実施する際の注意点が理解できる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 人間と運動 第2回 運動不足の実態 第3回 ベッド・レスト・スタディ 第4回 運動と心臓疾患の予防 第5回 運動と心臓 第6回 運動と血圧 第7回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第8回 体力に及ぼす効果 第9回 喫煙と運動 第10回 運動と寿命 第11回 自覚的効果 第12回 運動の功罪 第13回 運動処方とは 第14回 運動処方の手順 第15回 運動処方の内容 |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 『新版 運動処方』池上晴夫著、朝倉書店 『スポーツ医学』池上晴夫著、朝倉書店 |
| 成績評価方法 | 期末試験（100%） |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 体育実技A | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | C0200 | 担当教員 | 神家 一成 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 仲間と共にスポーツのもつ本来の楽しさに触れることにより、生涯を通じて主体的にスポーツに親しむために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。 |
| 授業の進め方 | 全期間を4つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。 |
| 達成目標 | (1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加してプレーすることができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p><バドミントン> 第2回 用具に慣れる 第3回 簡易ゲーム 第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第6回 フライット練習、シングルスゲーム 第7回 フライット練習、シングルスゲーム 第8回 総括ゲーム</p> <p><ソフトバレーボール> 第9回 ボールに慣れる 第10回 パス練習、簡易ゲーム 第11回 パス練習、簡易ゲーム 第12回 サーブ練習、ゲーム 第13回 集団技能練習、ゲーム 第14回 集団技能練習、ゲーム</p> <p>第15回 総括ゲーム</p> <p><バレーボール> 第16回 ボールに慣れる 第17回 試しのゲーム 第18回 パス練習、簡易ゲーム 第19回 パス練習、簡易ゲーム 第20回 サーブ練習、ゲーム 第21回 集団技能練習、ゲーム 第22回 集団技能練習、ゲーム 第23回 総括ゲーム</p> <p><卓球> 第24回 用具に慣れる 第25回 フォアハンドストローク 第26回 バックハンドストローク 第27回 シングルスゲーム 第28回 シングルスゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム</p> |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実技にふさわしい服装（ウェア、シューズ）で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。 |
| 教科書 | 不 要 |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 授業への参加状況(40%)、受講態度(40%)、レポート(20%)を総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 体育実技B | 単位数 | 2 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | C0210 | 担当教員 | 駒井 説夫 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | | |
|--------------------|---|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 授業を通してスポーツのもつ本来の楽しさに触れるとともに、生涯を通じて主体的にスポーツを実践するために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。 | |
| 授業の進め方 | 全期間を3つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。 | |
| 達成目標 | (1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加することができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。 (4) 技能・体力レベルの差を認めながらも、互いにゲームを楽しむことができる。 | |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 オリエンテーション <バドミントン> 第2回 簡易ゲーム 第3回 バドミントンの基礎技術 第4回 各種ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 各種ストローク練習とサービス、ダブルスゲーム 第6回 各種ストローク練習とルール・審判について シングルゲーム 第7回 総合練習とシングルゲーム 第8回 総合練習とダブルスゲーム 第9回 総合練習とダブルスゲーム 第10回 総括ゲーム ソフトバレーボール 第11回 簡易オリエンテーション ソフトバレーボールの技術と練習ゲーム 第12回 パス練習と簡易ゲーム | 第13回～18回 ルール、基礎技術(パス、スパイク、レシーブ)具体的な練習方法(フォーンメーション等)、ゲームの行い方等の説明とゲーム 第19回～第20回 総括ゲーム <卓球> 第21回 簡易オリエンテーション、用具に慣れる 第22回～第24回 基本打法の習得(各種ストローク、サービス) 第25回～第27回 ルール・審判法とゲーム形式練習 第28回 シングルゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム |
| 履修上の注意 | ・ 体育実技にふさわしい服装(ウエア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。 | |
| 教科書 | 特になし | |
| 参考書 | 資料を配布する予定。 | |
| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢(50%)、受講態度(20%)、技能(10%)、レポート(20%)から総合的に評価する。 | |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|------------------------|
| 科目名 | 哲学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | D0220 | 担当教員 | 原崎 道彦 | 所属 | 高知大学教育学部 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-844-8370(研究室) |
| | E-mail | | | | | harasaki@kochi-u.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 授業のサブタイトルは「リラクゼーションの哲学」。リラクゼーションは「たんなるリラックス」とは異なるものです。しかるべきメソッドに基づいてなされるリラクゼーションは、私たちに深く非日常的な体験へと誘います。体験のその「深さ」こそが、リラクゼーションで哲学することを可能とするのです。この授業は、リラクゼーション体験を深めながら、その深い体験をもとに哲学しようとする授業です。 |
| 授業の進め方 | 毎時間、最後に、授業を聞いて考えたことを短いレポートにまとめる時間をとります。次の時間は、そのレポートへコメントするところから始まります。 |
| 達成目標 | (1) 哲学という学問のスタイルを理解する。 (2) リラクゼーションの基礎となる哲学的な人間論を理解する。 (3) リラクゼーションのための基本的な技術を身につけ、リラクゼーションをおこなえるようになる。 (4) リラクゼーションのもつ可能性を理解し、生活に役立てることができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 授業のすすめ方や成績評価についてのオリエンテーション。 第2回 リラクゼーションとは何か(その1) 第3回 リラクゼーションとは何か(その2) 第4回 リラクゼーションとは何か(その3) 第5回 リラクゼーションとは何か(その4) 第6回 リラクゼーションとは何か(その5) 第7回 リラクゼーションの世界(その1) 第8回 リラクゼーションの世界(その2) 第9回 リラクゼーションの世界(その3) 第10回 リラクゼーションの世界(その4) 第11回 リラクゼーションの可能性(その1) 第12回 リラクゼーションの可能性(その2) 第13回 リラクゼーションの可能性(その3) 第14回 リラクゼーションの可能性(その4) 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 自宅でのリラクゼーションの実習をともなう授業です。実習用のCDを配布します。自宅でのリラクゼーション実習ではCDプレイヤーが必要です。リラクゼーションの実習は授業でも行います。リラクゼーションは、教室で普段の格好のまま行える内容のもので、カラダやココロに負担がかかるものではありませんが、カラダやココロに病院での治療を必要とするところを抱えている方は、念のために1時間目のガイダンスの際に原崎に相談してください。また、リラクゼーションの実習は非常に静かな世界となります。その静寂さを壊す行為(おしよべり等)を行う学生は退室を求められることがあります。 |
| 教科書 | 教科書がわりとなるテキストを2時間目に配布します。 |
| 参考書 | 授業で紹介します。 |
| 成績評価方法 | 毎時間(ガイダンスの1時間目は除く)、授業の最後に授業を聞いて考えたことをまとめたレポートを書く時間をとります。そのレポートの点数が、1回5点満点で、14回で70点満点となります。学期の中間でのレポート、期末レポートも提出してもらいます。そちらが計30点となります。中間レポートや期末レポートの課題や分量や提出期間などについては、1時間目のガイダンスで詳しく説明します。6回以上の欠席で、自動的に履修の資格を失います。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。また、授業に出ても(授業の最後で書いてもらう)レポートの提出がない場合や、レポートの内容が授業の内容に沿っていない場合は、欠席扱いとなります。 |

。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。毎時間のレポートが全て提出されていても、中間および期末のレポートの提出がない場合は、失格となります。

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 文学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | D0230 | 担当教員 | 芋生 裕信 | 所属 | 高知県立大学 文化学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 俳句革新、短歌革新、『ホトトギス』への支援、夏目漱石や後輩たちのかかわり等をポイントに、正岡子規が近代俳句、近代短歌、写生文において果たした役割を作品に即してたどっていきます。 |
| 授業の進め方 | 受講生との質疑応答、意見交換を積極的に取り入れながら、子規の作品、文章を丁寧に読んでいきます。一つのテキストを中心にして、ともに読み深める「講読」形式の授業になります。 |
| 達成目標 | (1) 俳句、短歌、写生文が鑑賞、理解できるようになる。 (2) 近代詩歌の世界において子規が果たした役割が理解できるようになる。 (3) 自分の考えが口頭で、また文章で発表できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 子規の生涯 第3回 俳句の革新 理論 第4回 俳句の革新 実作(1) 第5回 俳句の革新 実作(2) 第6回 短歌の革新 理論 第7回 短歌の革新 実作(1) 第8回 短歌の革新 実作(2) 第9回 文章の革新 理論 第10回 文章の革新 実作(1) 第11回 文章の革新 実作(2) 第12回 『ホトトギス』と子規 第13回 漱石と子規(1) 第14回 漱石と子規(2) 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 小レポートを数回課しますので、熱心に取り組んでください。 |
| 教科書 | 『ちくま日本文学 正岡子規』筑摩書房(2009年):必携 |
| 参考書 | 授業の中で紹介します。 |
| 成績評価方法 | 平常点(小レポートを含む。40%)と期末レポート(60%)を総合して評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|---------|--|
| 科目名 | 芸術・文化論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | D0240 | 担当教員 | 河村 章代 | 所属 | 高知県文化財団 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-866-8013 |
| | E-mail | | | | | akiyo_kawamura@kochi-bunkazaidan.or.jp |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 芸術文化は私たちの暮らす社会や生活とどう関わっているのでしょうか。 県内での文化事業や文化施設の現状など、できるだけ身近で具体的な事例を用いて、社会になぜ芸術文化が必要なのか、を考えたいと思います。 |
| 授業の進め方 | 講義形式を基本に、意見交換、小レポートなど |
| 達成目標 | (1) 現在の文化政策について関心を持ち、理解できるようになる (2) 自分が暮らす地域の文化政策に対して考えをまとめることができるようになる (3) 芸術文化を通じた地域づくりについて関心を持ち、理解し、自分の考えをまとめることができるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 授業計画は下記の内容を予定しています。内容、順序は変更になる場合があります。 第1回 オリエンテーション 第2回 指定管理者制度と文化施設 第3回 様々な文化の担い手 第4回 なぜ地域に博物館が必要か 第5回 地域活性化と芸術文化1 第6回 地域活性化と芸術文化2 第7回 歴史的建造物を活用した芸術文化事業 第8回 演劇は社会に役立つか？ 第9回 ホールはハコモノ？ 第10回 子どもと芸術 第11回 障がい者と芸術 第12回 災害と文化財 第13回 観光と芸術文化 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2 |
| 履修上の注意 | 美術や演劇、映画、音楽など芸術文化に関心がある人が望ましい。関心の度合いは問いません。 |
| 教科書 | 適宜資料を配布します。 |
| 参考書 | 『芸術立国論]平田オリザ著、集英社(2001年) 他、講義の中で随時紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験に代えた課題レポート(60%)、授業への参加姿勢(40%)の比率で、総合的に評価する。平常点には数回実施予定の小レポートの評価を含む。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------------|
| 科目名 | 文章表現技法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | D0250 | 担当教員 | 池田 洋一 | 所属 | 土佐塾高校非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 講義形式で進めます。しかし、実際に書かないと上達しませんので、後半は小論文を書いてもらいます。よい文章(小論文)は、一体どうすれば書けるのか。この課題に、よりよい解答が出るように挑戦します。よい文章の書き方として、用字・用語、句読点の勘所、構想の立て方、構成の取り方を最初に学んで行きます。そして、テーマへの取り組み方、その効果的な表現などを当方で用意したテキスト・問題文に即して、実践的に学んで行きます。 今後、さまざまな場面で要求される小論文が、最終的にきちんと書ける段階までを目標とします。 |
| 授業の進め方 | 最初はいい文章とは何かを概説的に説明します。日本語の基礎知識、執筆技術の基礎知識、書き方のコツなどを全般的に指導します。当方で書いたものを配布し、その上で、問題点を話して行きます。その後、テキスト、教科書などの読み込み、相互の批評・分析を加えて、名文から書き方の要諦・方法を学びます。文章上達のコツは、名文をよく読み込むこと、数多く書き込むことなので、課題文を出して、必要に応じて小論文を書いてもらい、添削・批評をして行きます。文章上達には、他者の目に曝すことが必要です。 |
| 達成目標 | (1) 大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。 (2) 明晰で、論理的な文章の書き方を習得する。 (3) 実際に課題をあたえられて、小論文が十分に書けるところまでを目標とする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回：オリエンテーション、文章を書く際の基礎知識・概説 第2回：小論文の基本技術 正しい文章を書くために A・主語・述語 B・修飾の順序 C・文末表現 D・助詞の使い方 第3回：小論文の基礎 A・原稿用紙の使い方 B・符号の使い方 C・文のつなぎ方 D・句読点の打ち方 第4回：小論文の基礎 A・よい文章とは一わかりやすさと読みやすさ B・文章修行のやり方など C・小論文 と作文の違い D・情報の集め方など 第5回：小論文の基礎 テーマ・発想の展開 A・テーマの見つけ方 B・テーマの絞込み C・発想の方法 D・構想の立て方 第6回：小論文の基礎 ・文章構成のノウハウ 具体的な構成の立て方 A・実際の小論文の問題と模範答案を使う B・書き方の具体的な手順を板書・記載した もので説明 第7回：「教科書」を読み込む 辰濃和男『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第8回：「教科書」を読み込む 辰濃和男著『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ 第9回：課題文の演習 一課題問題の書き方・方法 抽象的なテーマの場合 A・具体的な書き方は記載したもので説明 B・実際に小論文を書く C・書いたものを推敲 第10回：課題文の演習 複数の資料・グラフのついた問題 A・問題点を指摘し、実際に小論文を書いてもらう 第11回：課題文の演習 時事的な問題 第12回：課題文の演習 時事的な頻出問題 第13回：課題文の演習 よく出る問題 第14回：課題文の演習 よく出る問題 |
| 履修上の注意 | 教科書は「まとめ」明晰で、論理的な文章を書くための「まとめ」 原稿用紙は当方で用意をします。 授業の進め方は、1回から6回目までを、上記の基礎的な内容に費やします。 7回・8回目では教科書(辰濃和男著『文章のみがき方』)で文章の要諦・勘所を学びます。 |
| 教科書 | 9回から14回目は、その応用・実践編とし、15回目を「まとめ」とします。 教科書のみがき方 辰濃和男著『文章のみがき方』(2007年)の書店に必ず購入してもらいます。 前も記は購入をお願いします。* 他はすべてプリントを配布します。 |
| 参考書 | 『文章読本』丸谷才一著、中公文庫、『日本語の作文技術』本多勝一著、朝日文庫、『悪文一裏返し文章読本』中村明著、ちくま新書、『作家の文体』、『名文』ともに中村明著、ちくま学芸文庫、『勝つための論文の書き方』鹿島 茂著、文春新書。 |
| 成績評価方法 | 二ねらは標準率ですが、購入する必要がある(%)、期末試験(80%)から総合的に評価をします。 期末試験(テスト)は、7月23日(木)の1時限目を予定しています。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------------|
| 科目名 | 自然科学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | D0260 | 担当教員 | 一色 健司 | 所属 | 高知県立大学 地域教育研究センター |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 様々なものの量・状態や現象を計測して量的に表現するために、自然科学の成果が幅広く利用されています。本授業では「計測標準と単位を通して見た自然科学」をテーマとして、日常生活の中で使われているいろいろな量や単位を題材として、これらの背景にある自然現象と自然法則を解説します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で進めますが、授業中に演習問題を解いていただくこともあります。質疑応答は授業中に行うほか、レスポンスシート兼出席確認票やレポートに併記された質問、電子メールで出された質問に対しては、授業中またはウェブページへの掲載によって回答します。 |
| 達成目標 | (1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができるようになる。 (2) 様々な量や単位の決め方や測り方を通して、基本的な自然現象と自然法則を理解する。 (3) 自然を理解するときに量的表現を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民としての素養を培う。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 日常生活で出会う現象や日常生活で使う量を取り上げながら、以下の話題を解説します。難易度はなるべく受講生に合わせるつもりです。また、受講生からの質問や疑問等への回答や、内容に関連する最新の研究成果や時事的な話題も取り入れます。 第1回 単位とは、SI単位、単位に関する法令 第2回 時間の計測と暦－惑星の運動と暦、太陽暦とグレゴリオ暦 第3回 時間と時刻－協定世界時と原子時計 第4回 長さや位置－光速不変の原理と特殊相対論 第5回 質量と重さ－力と運動法則、等価原理と一般相対論 第6回 物質の構造と原子分子－単位モルとアボガドロ定数、原子の存在証明 第7回 原子の種類と周期表－原子の成り立ち 第8回 原子量と原子数の計測－質量標準としての原器、新しい質量標準 第9回 摂氏温度と絶対温度－理想気体、水の状態変化 第10回 黒体放射－太陽表面温度と地表温度、温室効果 第11回 光と視覚－光度と比視感度曲線 第12回 熱と仕事－エネルギー、質量とエネルギーの等価性、特殊相対論(再) 第13回 電気に関わる現象と電気エネルギー 第14回 放射線と放射能 第15回 SI単位の将来 |
| 履修上の注意 | 授業で映写したスライド、自習用資料、質問に対する回答のうち授業で触れなかった事項をウェブページで提供しますので、可能であればウェブページを閲覧できる環境を用意してください。自宅でもかまいませんし、大学の情報演習室も使用できます。 |
| 教科書 | 使用しません。映写資料を用いて解説します。 授業の中で計算問題を解いていただくことがありますので、可能であれば電卓を持参してください。携帯電話の電卓機能を使用したのでもかまいません。 |
| 参考書 | 『理科年表』国立天文台編、丸善（毎年発行されています。最新のもの(2015年版)がよいですが、それ以前のものでもかまいません。授業で取り上げた様々な量に関するデータが記載されていますので、自習用教材として使用すると良いでしょう）。大学の情報演習室の端末を使うと、オンライン版理科年表も利用することができます |
| 成績評価方法 | 授業への参加姿勢(20%)、授業時に出席するレポート(不定期に数回程度出題)(30%)、期末試験(レポート試験)(50%)を得点化し、その合計点で評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 心理学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | D0270 | 担当教員 | 矢野 宏光 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>心理学の多くの分野の中から、受講生の興味や関心が高いと思われる分野を中心に取り上げ、心理学の基礎的な講義を行います。この講義を通して、心を科学的にとらえる力を身につけるとともに、人間理解や自己理解を深めて欲しいものです。</p> <p>さらに、担当者の専門とする健康心理学・運動心理学・スポーツ心理学などの領域の講義内容は、他ではあまり受講する機会がありません。けれど、「心と身体つながり」を考える上では、実生活にも密着した内容が展開されますので、興味関心がある方はどうぞ受講して下さい。</p> |
| 授業の進め方 | <p>・講義形式を主とするが、質問や意見を求める機会も設ける。簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。</p> |
| 達成目標 | <p>(1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度)</p> <p>(2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解)</p> <p>(3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力)</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。</p> <p>第1回 オリエンテーション(心を科学するとは)</p> <p>第2回 見る・聞く・感じるころ(知覚)</p> <p>第3回 学ぶ・覚えるころ(学習・記憶)</p> <p>第4回 やる気の心理(動機づけ・欲求)</p> <p>第5回 喜怒哀楽のころ(感情・フラストレーション・ストレス)</p> <p>第6回 その人らしさの心理(人間性とパーソナリティ)</p> <p>第7回 かしこさの心理(知能)</p> <p>第8回 考えるころ(思考・問題解決・創造性)</p> <p>第9回 発達するころ(乳幼児期・児童期・青年期の発達)</p> <p>第10回 発達するころ(成人期・高齢期の発達)</p> <p>第11回 人と関わる心理(対人認知・帰属理論)</p> <p>第12回 人と集うころ(集団の心理・リーダーシップ・社会的影響)</p> <p>第13回 健康なころ(メンタルヘルス・心理臨床の対象・心理療法)</p> <p>第14回 運動ところ(身体運動の意義と効果・TTM)</p> <p>第15回 競技スポーツとところの関係(メンタルトレーニング)</p> |
| 履修上の注意 | <p>授業中に数回小レポートを課します。</p> |
| 教科書 | <p>使いません。資料を配布します。</p> |
| 参考書 | <p>その都度、紹介します。</p> |
| 成績評価方法 | <p>小レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への参加姿勢(20%)から総合的に評価します。</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 憲法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0280 | 担当教員 | 小林 直三 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7183 (研究室) |
| | E-mail | | | | | k-naozo@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治システムに関して解説する。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で行う。 |
| 達成目標 | (1) 立憲主義の文化的背景および歴史的発展並びに基本理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治システムに関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提としたうえで、立憲主義や日本国憲法に関する現代の様々な問題に関して、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 憲法とは何か? 第3回 立憲主義の文化的背景とその歴史的発展 第4回 立憲主義の正統性の検討(民主主義との緊張関係について) 第5回 わが国の憲法史 第6回 日本国憲法の平和主義の検討 第7回 国民主権原理について 第8回 国会の組織 第9回 国会と議院の権能 第10回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第11回 裁判所の組織と権能 第12回 財政民主主義と地方自治 第13回 憲法保障概説 第14回 憲法改正とその手続 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討 |
| 履修上の注意 | 解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。 |
| 教科書 | 『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) |
| 参考書 | 『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社(2013年) 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(2015年) |
| 成績評価方法 | 期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 憲法 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0290 | 担当教員 | 小林 直三 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7183 (研究室) |
| | E-mail | | | | | k-naozo@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、おもに、日本国憲法が想定する人権に関して解説する。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で行う。 |
| 達成目標 | (1) 人権の文化的背景および歴史的発展並びに基本理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する人権保障に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提としたうえで、人権に関する現代の様々な問題に関して、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 人権の文化的背景とその歴史的発展 第3回 基本的人権の原理と限界 第4回 私人間における人権保障と限界 第5回 包括的人権規定と新しい人権 第6回 情報化社会とプライバシー権 第7回 法の下での平等について 第8回 思想・良心の自由と学問の自由 第9回 信教の自由と政教分離原則 第10回 表現の自由の保障 第11回 経済的自由の保障 第12回 人身の自由と刑事手続 第13回 国務請求権と参政権 第14回 社会権の保障 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討 |
| 履修上の注意 | 解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。 |
| 教科書 | 『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年) |
| 参考書 | 『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社(2013年) 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(2015年) |
| 成績評価方法 | 期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 行政法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0301 | 担当教員 | 小林 直三 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7183(研究室) |
| | E-mail | | | | | k-naozo@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、行政法の基礎原理、行政組織法、および行政作用法などの諸分野について、解説を行う。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で行う。 |
| 達成目標 | <p>(1) 行政法の基礎原理を、その文化的背景を踏まえたうえで、正確に理解できるようになる。</p> <p>(2) 行政組織法に関する概念と理論に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。</p> <p>(3) 行政作用法に関する概念と理論に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。</p> <p>(4) 上記の3項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明)</p> <p>第2回 行政法の特徴と法源</p> <p>第3回 法の支配と法治主義の文化的背景</p> <p>第4回 行政裁量</p> <p>第5回 行政組織法概説</p> <p>第6回 行政立法概説</p> <p>第7回 行政計画の必要性とその問題</p> <p>第8回 行政行為の概念とその効力</p> <p>第9回 行政行為の種類</p> <p>第10回 行政上の強制執行</p> <p>第11回 行政上の即時強制と制裁</p> <p>第12回 行政契約、行政指導、および行政調査</p> <p>第13回 行政手続法概説</p> <p>第14回 情報公開制度概説</p> <p>第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説</p> |
| 履修上の注意 | 解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。 |
| 教科書 | なし。 |
| 参考書 | 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(2015年)その他、講義中に適時、あげていきます。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|---------|
| 科目名 | 税法 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | E0310 | 担当教員 | 玉置 賢司 | 所属 | 玉置会計事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本では現在約50種類以上の税金があります。その中でも、普段の仕事や生活において、重要な税法(所得税、相続税、消費税を中心)の課税制度について紹介していきます。 税法は知っているか知らないかで、税額に大きく影響します。各自の生活の参考にしてください。 |
| 授業の進め方 | テキストを中心に、各税法の課税システムを講義していきます。また時折、レジュメや参考資料を配布し、練習問題を解きながら、知識を習得してもらいます。 |
| 達成目標 | (1)所得税における基礎的な理論や納税額を計算する仕組みを理解すること。 (2)相続税における基礎的な理論や仕組みを理解すること。 (3)消費税における基礎的な理論や納税額を計算する仕組みを理解すること。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 講義ガイダンス・租税法の概念 第2回 所得税の概要 第3回 所得税の各論(所得税の種類) 第4回 所得税の各論(所得控除) 第5回 所得税の計算(税額計算) 第6回 所得税の計算(練習問題) 第7回 相続税の概要(相続税と贈与税の違い) 第8回 相続税における法定相続人 第9回 相続税における相続財産 第10回 相続税算出の仕組み 第11回 消費税の概要 第12回 消費税の各論(消費税の対象・簡易課税・原則課税) 第13回 消費税の計算(練習問題) 第14回 法人税の概要(法人税上の所得など) 第15回 講義の復習とまとめ |
| 履修上の注意 | ・電卓を持参しておいてください。 ・教科書は、各自早めに書店やネットなどで購入しておいてください。 参考書の購入は、各自任意で結構です。 ・相続税について、こちらからプリントを配布します。 |
| 教科書 | 公益社団法人全国経理教育協会編『入門税法』清文社、最新年度版。 |
| 参考書 | 経理教育研究会編『基本税法』株式会社英光社、(所得税・法人税・消費税の基礎) |
| 成績評価方法 | 試験70%、授業中の課題30%の比率で、総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 刑法総論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0331 | 担当教員 | 田中 康代 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7190 (研究室) |
| | E-mail | | | | | yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については刑法総論 で勉強することになります。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行うことを予定しています。 |
| 達成目標 | (1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 (5) 違法性阻却事由について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第2回 刑法の基本原則 第3回 刑罰の基礎的問題 第4回 罪刑法定主義 第5回 刑法の適用範囲 第6回 犯罪論の体系 第7回 行為と構成要件 第8回 因果関係(1) 第9回 因果関係(2) 第10回 不作為犯(1) 第11回 不作為犯(2) 第12回 違法性の意義と機能 第13回 可罰的違法性と違法性 第14回 違法性と違法阻却事由 第15回 正当行為 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 教科書を事前に読んで、予習してください。 平成27年度版の六法を必ず持参してください。 |
| 教科書 | 『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年) |
| 参考書 | 『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年) |
| 成績評価方法 | 期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 刑法総論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0332 | 担当教員 | 田中 康代 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7190 (研究室) |
| | E-mail | | | | | yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 刑法第1編総則の後半部分(刑法総論の続き)について勉強します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。 |
| 達成目標 | (1) 違法性阻却事由について理解すること。 (2) 責任の概念について理解すること。 (3) 故意・過失について理解すること。 (4) 錯誤について理解すること (5) 共犯について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 正当防衛 第2回 緊急避難 第3回 自救行為と被害者の同意 第4回 責任論の基本問題 第5回 責任能力 第6回 原因において自由な行為 第7回 故意 第8回 錯誤論(1) 第9回 錯誤論(2) 第10回 過失 第11回 未遂 第12回 中止犯 第13回 不能犯 第14回 共犯(1) 第15回 共犯(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「刑法(4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を履修していることが望ましい。 平成27年度版の六法を必ず持参すること。 |
| 教科書 | 『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年) |
| 参考書 | 『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年) |
| 成績評価方法 | 期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 刑法各論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0333 | 担当教員 | 田中 康代 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7190 (研究室) |
| | E-mail | | | | | yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を勉強します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。 |
| 達成目標 | (1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、色々な問題も指摘されています。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第2回 殺人の罪 第3回 傷害の罪(1) 第4回 傷害の罪(2) 第5回 過失傷害の罪 第6回 墮胎の罪 第7回 遺棄の罪 第8回 脅迫の罪 第9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居を侵す罪 第13回 秘密を侵す罪 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。 平成27年度版の六法を必ず持参すること。 |
| 教科書 | 「新版口述刑法各論[補訂3版]」中山研一著、松宮孝明補訂成文堂(2014年) |
| 参考書 | 特になし。必要な場合にはレジュメ等で伝えます。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 刑法各論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0334 | 担当教員 | 田中 康代 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7190 (研究室) |
| | E-mail | | | | | yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 刑法第2編罪の内、刑法各論 の続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪などについても勉強します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。 |
| 達成目標 | (1) 財産犯の共通概念について理解すること。 (2) 個々の財産犯について理解すること。 (3) 社会的法益に対する罪について理解すること。 (4) 国家的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 財産犯総論(1) 第2回 財産犯総論(2) 第3回 窃盗の罪(1) 第4回 窃盗の罪(2) 第5回 強盗の罪 第6回 詐欺の罪(1) 第7回 詐欺の罪(2) 第8回 恐喝の罪 第9回 横領の罪 第10回 背任の罪 第11回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第12回 社会的法益に対する罪(1) 第13回 社会的法益に対する罪(2) 第14回 国家的法益に対する罪(1) 第15回 国家的法益に対する罪(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論 を履修していることが望ましい。 平成27年度版の六法を必ず持参すること。 |
| 教科書 | 「新版口述刑法各論[補訂3版]」中山研一著、松宮孝明補訂成文堂(2014年) |
| 参考書 | 特になし。必要な場合には、レジュメ等で伝えます。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|---------|
| 科目名 | 刑事訴訟法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | E0340 | 担当教員 | 紫藤 秀久 | 所属 | 紫藤法律事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 現実の刑事裁判における実例等を織り交ぜながら、刑法を実現する法である刑事訴訟法を学びます。 なぜ弁護士は被告人を擁護するのか、なぜ取調べの可視化が叫ばれるのか、なぜ裁判員制度は必要なのか等の疑問を解消します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式を基礎とします。 |
| 達成目標 | (1) 刑事訴訟法の根本原則である「無罪の推定」の大原則について、基本的な理解をすること。 (2) 捜査から公訴提起を経て公判・判決に至る刑事訴訟全体の流れを把握すること。 (3) 裁判員制度の基礎を理解し、裁判員に選ばれた場合の基本的な姿勢を身につけること。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 刑事訴訟手続全般と刑事訴訟法の基本原則 第3回 捜査 (捜査とは、捜査の端緒、捜査の登場人物) 第4回 捜査 (人に対する捜査、逮捕、勾留) 第5回 捜査 (物に対する捜査、令状主義の例外) 第6回 捜査 (供述を得るための捜査) 第7回 捜査 (問題となる捜査手法、捜査における被疑者の防御) 第8回 公訴の提起 第9回 公判手続 (概観) 第10回 公判手続 (審判の対象) 第11回 公判手続 (証拠調べ、厳格な証明、自白法則、伝聞法則) 第12回 公判手続 (証拠調べ、挙証責任、事実認定、自由心証主義) 第13回 裁判、救済手続、被害者の保護 第14回 裁判員裁判 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 憲法・刑法の知識があると理解が深まりますが、これらの講義を履修していなくても構いません。 |
| 教科書 | 『伊藤真の刑事訴訟法入門(第4版)』伊藤真著、日本評論社出版(1700円+税) |
| 参考書 | 「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用する予定です。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|-------------------------|
| 科目名 | 民事訴訟法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0341 | 担当教員 | 本澤 友彬 | 所属 | 丸の内法律事務所 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-824-1088 |
| | E-mail | | | | | honzawa@htlawoffice.com |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 民事訴訟の仕組みと手続の概略、および、重要概念の解説。 |
| 授業の進め方 | 講義 |
| 達成目標 | (1) 民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2) 民事法の考え方を習得することができるようになる。 (3) 民法訴訟の手続の具体的なイメージを持つことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>刑事訴訟については、裁判員裁判の導入や報道等があり、ある程度イメージがわきやすいと思いますが、民事裁判については、イメージがわきにくいのではないかと思います。しかし、市民生活の中ではむしろ巻き込まれる可能性が高いのは民事裁判かもしれません。民事裁判についてある程度のイメージや知識を持つことは、今後の市民生活においても役に立ち場面があると思います。</p> <p>そこで、具体例(夫に浮気されたので慰謝料を請求したい等)を使って、授業の中で、民事訴訟の流れをシミュレーションしてみたいと思います。そのシミュレーションの中で、民事訴訟法の重要な用語や論点について触れていきます。また、訴訟実務の話や、実際にどのような紛争のケースがあるのかなどのお話もしていきたいと思っています。</p> <p>必要な書籍は、六法です。レジユメを配布する予定です。基本的には、講義であり、質問(教科書の要らない程度のも)。または、以前授業で触れた事柄等)はたまにする程度を予定しています。</p> <p>民法を少し勉強している方が望ましいです。</p> <p>第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 訴訟の目的 第2回 訴えの提起(1) 訴訟の主体など 第3回 訴えの提起(2) 処分権主義 第4回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(1) 裁判所による争点整理 第5回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(2) 弁論主義 第6回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(3) 弁論主義 第7回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(4) 自由心証主義・証明責任 第8回 判決以外の訴訟の終了 第9回 裁判官による判断内容・判決(1) 第10回 裁判官による判断内容・判決(2) 第11回 判決後の手続・判決の効力の概説 第12回 判決の効力についての論点(1) 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ</p> |
| 履修上の注意 | 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ |
| 教科書 | ポケット六法等の六法(3000円以下のもので可。電子六法でも可) |
| 参考書 | 授業で指摘します。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験(60%)、講義への参加姿勢(40%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 民法（総則・物権） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | E0351 | 担当教員 | 林 良太 | 所属 | 岩崎淳司法律事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 民法の総則編を講義します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。基本的には講師が説明することで、受講生には「民法総則の知識」というよりは「民法の考え方」を身に着けられることを目標とします。 |
| 達成目標 | (1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。 |
| 教科書 | 民法1総則（有斐閣双書）有斐閣 2002年 |
| 参考書 | 講義中に紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。 |

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|---------|
| 科目名 | 民法（総則・物権） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | E0352 | 担当教員 | 南 拓人 | 所属 | 梶原法律事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 民法の物権編（物権総則・担保物権）の講義をします。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 民法（物権編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。 (4) 論理的思考を身に付ける。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 物権法序説，所有権（1） 第3回 所有権（2） 第4回 所有権（3） 第5回 占有権 第6回 物権変動（1） 第7回 物権変動（2） 第8回 物権変動（3），用益物権 第9回 担保物権序説，留置権 第10回 先取特権，質権 第11回 抵当権（1） 第12回 抵当権（2） 第13回 抵当権（3），譲渡担保（1） 第14回 譲渡担保（2），所有権留保 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法（総則・物権）を受講しておくこと。また、民法(債権)を同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、六法（適宜のもので構わない。）を必ず持参すること。 |
| 教科書 | 淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸著『民法II - 物権 第3版補訂』（有斐閣，2010年） |
| 参考書 | 講義中に紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------------|
| 科目名 | 民法（債権） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | E0361 | 担当教員 | 緒方 賢一 | 所属 | 高知大学 教育研究部人文社会科学系 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 民法第三編債権のうち、第1章（総則）の部分を中心に講義をします。 民法(総則・物権) を履修済みであることを前提に講義をします。 民法（債権）（2学期開講予定）に続く内容ですが、先に民法（債権） を履修していてもかまいません。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。 法律学的な知識の確認を中心にしますが、判例等、社会的現実の中で「実際どうなのか」についても考えながら、総合的に法律を理解していきます。 講義期間中にレポート課題を課し、その上で期末試験を実施しますので、受講生は講義時間外で相当の自学自習をすることが必要です。 |
| 達成目標 | (1) 民法（債権総論部分）の基礎的内容について理解できるようになる。 (2) 社会的現実の中で法がどのように機能しているかについて理解できるようになる。 (3) 判例等を読んで法律的内容を理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 講義は概ね以下のような順序で行います。 第1回 債権の目的 第2回 債権の効力 第3回 債務不履行責任 第4回 弁済 第5回 相殺 第6回 更改・免除・混同 第7回 債権譲渡 第8回 債権者代位権 第9回 債権者取消権 第10回 多数当事者の債権 第11回 連帯債務 第12回 保証債務 第13回 連帯保証 第14回 民法債権法の改正 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 |
| 教科書 | 六法（なるべく最新版・種類は問わない）は毎回必ず持参して下さい（講義中に条文を参照し、書き写してもらいます）。 |
| 参考書 | 別冊ジュリスト224 民法判例百選（2015年 有斐閣）。 |
| 成績評価方法 | 期末試験（60%）およびレポート（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------------------|
| 科目名 | 民法（債権） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | E0362 | 担当教員 | 緒方 賢一 | 所属 | 高知大学 教育研究部 人文社会科学系 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 民法第三編債権のうち、第1章（総則）の部分を中心に講義をします。 民法（総則・物権）を履修済みであることを前提に講義をします。 民法（債権）（1学期開講）に続く内容ですが、先に民法（債権）を履修していなくてもかまいません。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。 法律学的な知識の確認を中心にしますが、判例等、社会的現実の中で「実際どうなのか」についても考えながら、総合的に法律を理解していきます。 講義期間中にレポート課題を課し、その上で期末試験を実施しますので、受講生は講義時間外で相当の自学自習をすることが必要です。 |
| 達成目標 | (1) 民法（債権各論部分）の基礎的内容について理解できるようになる。 (2) 社会的現実の中で法がどのように機能しているかについて理解できるようになる。 (3) 判例等を読んで法律的な内容を理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 講義は概ね以下の順序で進めます。 第1回 契約の種類 第2回 契約締結上の諸問題 第3回 契約の効力 第4回 契約の解除 第5回 売買契約 第6回 貸借契約 第7回 役務提供契約 第8回 約款と消費者保護 第9回 事務管理 第10回 不当利得 第11回 不法行為法の歴史 第12回 共同不法行為 第13回 無過失責任主義 第14回 裁判外紛争処理 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 |
| 教科書 | 六法（なるべく最新版・種類は問わない）は毎回必ず持参して下さい（講義中に条文を参照し、書き写してもらいます）。 |
| 参考書 | 別冊ジュリスト224 民法判例百選（2015年 有斐閣）。 |
| 成績評価方法 | 期末試験（60%）およびレポート（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 民法（家族） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | E0371 | 担当教員 | 中橋 紅美 | 所属 | 丸の内法律事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族編・相続編です。本講義では、民法親族編・相続編の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどのような影響しているかを考えます。 |
| 授業の進め方 | 教科書は特に指定しませんが、何でもいいので民法の親族編・相続編(家族法)に関する文献を購入し、各回のテーマに該当する部分を読んできてもらえれば、講義の理解が深まると思います。講義は主に口頭で行い、その補助として板書をします。 |
| 達成目標 | (1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 本講義では、毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。講義のテーマは以下のとおりです。 第1回 オリエンテーション・家族法の概要 第2回 結婚 第3回 離婚 第4回 離婚に伴う財産関係 第5回 離婚に伴う財産関係 第6回 親子(実子) 第7回 親子(養子) 第8回 後見・扶養 第9回 相続の概要 第10回 相続分 第11回 相続の効果 第12回 相続回復請求、相続の承認・放棄 第13回 遺産分割 第14回 遺言 第15回 遺留分 以上のテーマについて講義をする予定です。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「民法」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法(総則・物権)・民法(債権)に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。 |
| 教科書 | 『六法』。出版社は問いませんが、最新版を用意してください。期末試験にも使います。 |
| 参考書 | *あくまで一例です。 『家族法(第3版)』二宮周平著、新世社(2013年) 『はじめての家族法』常岡史子編、成文堂(2013年) 『身近な家族法』川村隆子著、法律文化社(2010年) |
| 成績評価方法 | 期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|------------|------|-------|----|--------|-------------------------|
| 科目名 | 商法（総則・商行為） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0391 | 担当教員 | 菊池 直人 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7185 |
| | E-mail | | | | | na0to3@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では企業取引の主体である商人とは何かを中心に講義を進めていきます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式ですすめる。 |
| 達成目標 | (1) 商法の意義、特徴について理解できるようになる。 (2) 商人概念、商行為概念について理解できるようになる。 (3) 企業を構成する要素について理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 インTRODククション 第2回 商法の特徴 第3回 商人と商行為 第4回 商人資格と取得時期 第5回 商業登記 第6回 商業登記の効力 第7回 商号 第8回 名板貸 第9回 営業と営業譲渡 第10回 営業譲渡人の債権者・債務者 第11回 商業帳簿 第12回 商業使用人 第13回 支配人と表見支配人 第14回 代理商 第15回 商事代理 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 商法は民法の特別法であるので、民法をすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。 |
| 教科書 | 講義中に、次回のレジュメを事前配布しておきます。予習に利用してください。 教科書は指定しません。ただし、商法総則・商行為についてのテキスト・書籍を持参しておくとう理解の助けとなるでしょう。 |
| 参考書 | 六法(何でもよい)を持参してください。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|------------|------|-------|----|--------|-------------------------|
| 科目名 | 商法（総則・商行為） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0392 | 担当教員 | 菊池 直人 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7185 |
| | E-mail | | | | | na0to3@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では具体的な商取引およびその法規制について学んでいきます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で進める。 |
| 達成目標 | (1) 商行為の特則とは何かについて理解できるようになる。 (2) 企業取引に特有の各種契約と法規制について、概要がわかるようになる。 (3) 企業に関する法律問題に関心をもつようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 イン트로ダクション 第2回 商行為とは 第3回 商人の報酬請求権、商事法定利率、商事時効 第4回 商事売買 第5回 消費者売買 第6回 消費者契約法 第7回 運送営業 第8回 運送取扱営業 第9回 場屋営業、倉庫営業 第10回 交互計算、匿名組合 第11回 手形法概説 第12回 手形の権利移転と権利行使 第13回 保険法 総論 第14回 保険法 損害保険 第15回 保険法 生命保険 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。 |
| 教科書 | 講義中に、次回のレジュメを事前配布しておきます。予習に利用してください。 教科書は指定しません。ただし、商法総則・商行為についてのテキスト・書籍を持参しておくとう理解の助けとなるでしょう。 |
| 参考書 | 六法(何でもよい)を持参してください。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|-------------------------|
| 科目名 | 商法（会社） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0401 | 担当教員 | 菊池 直人 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7185 |
| | E-mail | | | | | na0to3@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。 |
| 達成目標 | (1) 株式会社の特徴について理解できるようになる。 (2) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (3) 株式会社の機関の仕組み、役員の義務と責任の内容について理解する。 (4) 会社の設立手続きについて理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 ガイダンス 第2回 会社法総論 第3回 会社の設立 第4回 設立登記、設立中の法律関係 第5回 株式とは何か 第6回 株式の種類 第7回 株主名簿、株式の消却、併合、分割 第8回 機関総論 第9回 株主総会 第10回 株主総会の決議 第11回 株主総会と決議の瑕疵 第12回 取締役と取締役会 第13回 取締役の義務と責任 第14回 株主代表訴訟と差止請求権、第三者に対する責任 第15回 監査役と監査役会 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法をすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。 |
| 教科書 | 『リーガルクエスト会社法 第3版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2015年） 会社法が改正され、第2版までのテキストと文言等が大幅に異なります。 ご注意ください。 |
| 参考書 | 六法(何でもよい)を持参してください。 その他の参考書は適宜指示します。 |
| 成績評価方法 | 学期末試験（80％）、講義への参加姿勢（20％）により総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|-------------------------|
| 科目名 | 商法（会社） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0402 | 担当教員 | 菊池 直人 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7185 |
| | E-mail | | | | | na0to3@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。 |
| 達成目標 | (1) 会社法上の会計の意義について理解する (2) 新株発行や社債発行など、企業の資金調達について理解する (3) 会社の組織再編について理解する |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 インTRODククション 第2回 会社の計算 第3回 連結計算書類、利益の分配、株主の帳簿閲覧権 第4回 資金調達とは 第5回 新株発行 第6回 新株発行の瑕疵 第7回 社債 第8回 定款変更の意義と手続 第9回 資本の減少 第10回 企業の買収・結合・再編 第11回 会社の合併 第12回 会社の分割 第13回 株式交換・株式移転 第14回 会社の解散と清算 第15回 持分会社 |
| 履修上の注意 | 2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法をすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。 |
| 教科書 | 『リーガルクエスト会社法 第3版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2015年） 会社法が改正され、第2版までのテキストと文言等が大幅に異なります。 ご注意ください。 |
| 参考書 | 六法(何でもよい)を持参してください。 その他の参考書は適宜指示します。 |
| 成績評価方法 | 学期末試験（80%）、講義への参加姿勢（20%）により総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|---------------------------|
| 科目名 | 経済法 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0410 | 担当教員 | 横川 和博 | 所属 | 高知大学人文学部 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-844-8257(研究室) |
| | E-mail | | | | | yokokawa@cc.kochi-u.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。 |
| 授業の進め方 | 講義 |
| 達成目標 | (1) 日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2) それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3) 日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 次の順序で講義する。 第1回 経済法とはなにか 第2回 独占禁止法の意義 第3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第5回 流通系列化と化粧品業界 第6回 医薬品業界と独占禁止法 第7回 自動車製造業と独占禁止法 第8回 コンビニ業界と独占禁止法 第9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法 |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | 講義時に指示する。 |
| 成績評価方法 | 評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていれば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 労働法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0420 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのだから、雇用関係を規制する法や労働者が有する権利を知っておくことはきわめて重要である。</p> <p>具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、我が国の雇用関係が形成されてきた文化的な背景もふまえながら、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。</p> |
| 授業の進め方 | <p>パワーポイントを用いながら授業を進めていく。</p> |
| 達成目標 | <p>(1)労働法の理念を学ぶ。 (2)労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。 (3)労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 はじめに、労働法とは何か 第2回 労働契約の意義・労働法の適用対象 第3回 労働契約と労働者の権利義務 第4回 募集と採用 第5回 労働条件の決定(1) 第6回 労働条件の決定(2) 第7回 労働条件の変更(1) 第8回 労働条件の変更(2) 第9回 人事(1)配転、出向 第10回 人事(2)転籍 第11回 人事(3)懲戒処分 第12回 労働時間(1)労働時間の定義 第13回 労働時間(2)弾力的な労働時間 第14回 休憩、休日、年次有給休暇(1)休憩、休日 第15回 休憩、休日、年次有給休暇(2)年次有給休暇</p> |
| 履修上の注意 | <p>労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ労働法 もつづけて履修してもらいたい。</p> |
| 教科書 | <p>『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2015年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成27年)</p> |
| 参考書 | <p>開講時に指示する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 労働法 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0430 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 本講義では、労働法 につづけて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかにつき、文化的な背景もふまえて見ていくこととする。おわりに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。 |
| 授業の進め方 | パワーポイントを用いながら授業を進めていく。 |
| 達成目標 | (1)労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2)近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3)解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような規制がなされているかを理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 はじめに、賃金(1)賃金の定義、賃金支払いの原則(1) 第2回 賃金(2)賃金支払いの原則(2)、最低賃金 第3回 賃金(3)賞与、退職金 第4回 雇用平等 第5回 ワーク・ライフ・バランス 第6回 非正規労働者の処遇(1)パートタイム労働 第7回 非正規労働者の処遇(2)派遣労働 第8回 営業譲渡と労働契約 第9回 労働安全衛生 第10回 労災補償 第11回 労働契約の終了(1)労働契約の終了事由 第12回 労働契約の終了(2)解雇(1) 第13回 労働契約の終了(3)解雇(2) 第14回 労働契約の終了(4)有期契約の雇い止め 第15回 労働契約の終了(5)労働契約終了後の法規制 |
| 履修上の注意 | 労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては労働法 を事前に履修してほしい。 |
| 教科書 | 『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2015年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成27年) |
| 参考書 | 開講時に指示する。 |
| 成績評価方法 | 筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%) |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|----------|
| 科目名 | 基礎法学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | E0432 | 担当教員 | 赤間 聡 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 国会や各行政機関、裁判所がどのように法に向き合うのか。我々によって法とは何か、正義とは何か、自由とは何かといった法哲学の基本問題を問う。 |
| 授業の進め方 | 下に挙げる教科書に沿いつつ、時には判例や新聞記事を用いて、多面的に法を考察する。各自の報告が授業の主体である。 |
| 達成目標 | 自分の人生の指針、あるべき社会の理想像を模索できる批判的判断力をもてるようにする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 基礎法学 のオリエンテーション 法哲学とは何か 第2回 正義について1 社会契約論 第3回 正義について2 利益と自由 第4回 法体系について1 ハートの法理論 第5回 法体系について2 ケルゼンの法理論 第6回 法体系について3 ハバーマスのコミュニケーション理論 第7回 価値相対主義について 第8回 公益と自由の優先関係 第9回 権利論 第10回 平等について 第11回 市場メカニズムとリバタリアン 第12回 法解釈学方法論1 唯一の正しい答え(解釈)はあるか 第13回 法解釈学方法論2 立法者意思とは 第14回 法解釈学方法論3 比較考量論 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 法哲学は2000年以上の歴史を持つ西洋の哲学と西洋の法律の双方を学ぶものである。したがって、1) 勉強しすぎて狂ってもよいとの覚悟があるもの、2) 自分の現状と社会の現状に満足してはいないもの、のみに受講資格がある。哲学は狂人の学問であるから。毎回各自の報告を予定しているので予習が必須。 |
| 教科書 | 『法哲学』平野仁彦・亀本洋・服部高宏著、有斐閣(2002年)、ISBN 4-641-12148-6 |
| 参考書 | 参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定 |
| 成績評価方法 | 成績評価は3回程度のプレゼンを総合して判定する。 プレゼン70% 講義への参加姿勢30% |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 国際法 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | E0433 | 担当教員 | 吉原 司 | 所属 | 姫路獨協大学法学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 国際法の基本的事項である条約及び慣習法を国家関係の視点で学んでいきます。その過程で、国家間の経済問題やそれをめぐる紛争処理制度についても学んでいきます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。適宜レジュメを配布し、それにそって講義を進めます。 |
| 達成目標 | (1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 国際法とは何か 役割 第2回 国際法とは何か 歴史 第3回 国家 成立要件 第4回 国家承認 第5回 国家免除 第6回 外交関係・領事関係 第7回 国際機関 第8回 国際法の法源 条約 第9回 国際法の法源 慣習法 その他 第10回 条約法 締結 第11回 条約法 効力、留保 第12回 国際法と国内法の関係 第13回 国家責任 国際違法行為 第14回 国家責任 違法性阻却事由・外交的保護 第15回 領土 |
| 履修上の注意 | 私語を厳に慎むように。教科書は、予習・復習のための教材と認識してください。授業では、教科書の詳細には言及しません。 |
| 教科書 | 中谷和弘他著『国際法(第2版)』(有斐閣アルマ、2011年) |
| 参考書 | 杉原高嶺著『国際法学講義』(有斐閣、2008年)、小寺彰他編『講義国際法(第2版)』(東京大学出版会、2010年)、山本草二著『新版国際法』(有斐閣、1994年)、柳原正治他著『ブラクティス国際法』(信山社、2010年)。講義を補強する教材としては以下のものがよい。国際法学会編『国際関係法辞典』(三省堂、2005年)、小寺彰他編『国際法判例百選』(有斐閣、2004年)、松井芳郎他編『判例国際法(第2版)』(東信堂、2006年)。 |
| 成績評価方法 | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------------|
| 科目名 | 国際法 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | E0434 | 担当教員 | 下山 憲二 | 所属 | 海上保安大学校海上警察学講座 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 国際刑事、環境、経済といった国際法の個別分野について学んでいきます。また、戦争や平和の構築における国際法の役割についても学んでいきます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で進めます。毎回教科書の内容に沿ったレジュメを作成し、それに沿って講義を進めます。 |
| 達成目標 | (1) 国際法の個別領域を理解できるようにする。 (2) 国家実行及び判例を分析できるようにする。 (3) 時事問題を国際法に基づき分析できるようにする。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 海洋法 第2回 海洋法 第3回 空・宇宙・国際公域 第4回 個人 個人の地位 第5回 個人 人権 第6回 国際刑事法 第7回 国際経済法 第8回 国際環境法 第9回 国際紛争の平和的処理 歴史的的手段 第10回 国際紛争の平和的処理 仲裁、司法 第11回 武力行使・経済制裁 第12回 武力紛争法 中立法 第13回 武力紛争法 ハーグ法 第14回 武力紛争法 ジュネーブ法 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 私語は慎むように。 |
| 教科書 | 中谷和弘編著『国際法 第2版』(有斐閣アルマ 2013年)。条約集については、必ず購入すること。松井芳郎編『ベーシック条約集 2015年版』(東信堂 2015年)。 |
| 参考書 | 国際法に関する著作であれば、何でもかまわない。 |
| 成績評価方法 | 授業への参加態度(40%)、課題レポート(60%)で総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 社会保障法 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | E0440 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義、その歴史や社会保障が形成されてきた文化的な背景を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない)。</p> |
| 授業の進め方 | <p>パワーポイントを用いながら授業を進めていく。</p> |
| 達成目標 | <p>(1)社会保障法の理念を学ぶ。 (2)社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3)受給者や要保障事由について理解する。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 はじめに、社会保障とは何か 第2回 社会保障の歴史 第3回 医療保障(1)保険関係 第4回 医療保障(2)給付の種類 第5回 医療保障(3)医療提供者 第6回 医療保障(4)診療契約と保険診療 第7回 年金保障(1)保険関係 第8回 年金保障(2)老齢給付 第9回 年金保障(3)障害給付 第10回 年金保障(4)遺族給付 第11回 労災補償(1)保険関係 第12回 労災補償(2)給付の種類 第13回 労災補償(3)労災民訴と労災保険の関係 第14回 雇用保険(1)保険関係 第15回 雇用保険(2)給付の種類</p> |
| 履修上の注意 | <p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ社会保障法 もつづけて履修してもらいたい。</p> |
| 教科書 | <p>『トピック社会保障法 第9版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房(平成27年) 『社会保障法令便覧 2015』労働調査会出版局編、労働調査会(平成27年)</p> |
| 参考書 | <p>開講時に指示する。</p> |
| 成績評価方法 | <p>筆記試験及び受講態度で成績評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 社会保障法 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | E0450 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 本講義では、社会保障が形成されてきた文化的な背景をふまえた上で、社会保障法の中でも社会保険以外の制度(社会福祉、社会手当及び公的扶助)に焦点を当てて授業を進めていくこととする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険はこの授業で扱う)。 |
| 授業の進め方 | パワーポイントを用いながら授業を進めていく。 |
| 達成目標 | (1)社会保障を構成する各制度について学ぶ。 (2)受給者や要保障事由について理解する。 (3)社会保障を支える当事者(利用者、サービス提供事業者、地方公共団体など)の関係を理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 はじめに、介護保険(1)保険関係 第2回 介護保険(2)給付の種類(1) 第3回 介護保険(3)給付の種類(2)、高齢者福祉 第4回 障害者福祉(1)障害者の定義と障害者総合支援法の給付(1) 第5回 障害者福祉(2)障害者総合支援法の給付(2) 第6回 障害者福祉(3)障害者福祉各法の概要(1) 第7回 障害者福祉(4)障害者福祉各法の概要(2) 第8回 児童福祉(1)保育所 第9回 児童福祉(2)児童虐待 第10回 単親家庭福祉、社会手当 第11回 生活保護(1)給付の種類 第12回 生活保護(2)申請手続と不服申立 第13回 社会福祉の基盤を支える法(1)社会福祉法と他の社会福祉サービス法との関係 第14回 社会福祉の基盤を支える法(2)社会福祉法人 第15回 社会福祉の実施体制 |
| 履修上の注意 | 社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては社会保障法 を事前に履修してほしい。 |
| 教科書 | 『トピック社会保障法 第9版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房(成27年) 『社会保障法令便覧 2015』労働調査会出版局編、労働調査会(平成27年) |
| 参考書 | 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(平成27年) |
| 成績評価方法 | 筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%) |

| | | | | | |
|-------|----------------|------|-------|----|---------|
| 科目名 | 法学特殊講義（不動産法概論） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | E0460 | 担当教員 | 竹村 克彦 | 所属 | 竹村克彦事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせ進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。 |
| 授業の進め方 | 不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。 |
| 達成目標 | (1) 不動産（土地・建物）を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。 (2) 不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。 (3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 関係法令の重要条文の解説、制度のあり方を理解するの解釈に重点を置く。 第1回 オリエンテーション&不動産登記法総論（民法との関係：表題部と権利部） 第2回 不動産登記法各論（表示に関する登記） 第3回 都市計画法（都市計画区域：用途地域：市街化区域：市街化調整区域） 第4回 建築基準法 第5回 建築基準法 第6回 不動産登記法各論（登記所：登記官：登記記録：図面類） 第7回 不動産登記法各論（当時者） 第8回 不動産登記法各論（境界線の種類） 第9回 土地区画整理法（換地処分の効果：筆界の取り扱い） 第10回 農地法（第3条：第4条、第5条） 第11回 不動産登記法各論（筆界：測量） 第12回 不動産登記法各論（土地家屋調査士、司法書士の職責） 第13回 事例研究（境界鑑定：筆界特定：境界確認） 第14回 事例研究（訴訟事件） 第15回 まとめ なお、諸般の事情により授業内容の順序を変更する場合があります。 |
| 履修上の注意 | 民法に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。 広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。 |
| 教科書 | なし。必要に応じてレジュメを配布する。 |
| 参考書 | 不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が記載されている六法 |
| 成績評価方法 | 講義内容に関するレポート、並びに、受講態度による。 【レポート内容の評価、ならびに提出要領】 講義内容の理解度を評価する。終盤（第13回以降）の講義で提示するテーマでレポートの提出を求める。第15回講義終了後1週間以内に提出。（1200字以上）レポートの提出が無い者の成績は不可とする。 【受講態度】講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。 【評価比率】レポート内容：60% 受講態度：40% |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|------|-------|----|------------|
| 科目名 | 経済原論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0491 | 担当教員 | 森本 壮亮 | 所属 | 桃山学院大学経済学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail morimoto@andrew.ac.jp | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 経済学の基礎的な用語や理論について講義します。「経済学 」、「経済学 」、に接続している科目です。講義では、アベノミクスや国債の増加、国際競争の激化や非正規雇用の拡大などといった、時事的なテーマについても扱います。 |
| 授業の進め方 | 基本は講義によって進めます。テキストは用いず、板書を基本としますので、ノート(またはルーズリーフ)を用意して、講義にのぞんでください。また、毎日の授業の最後に、その日の内容に関する小テストのようなものを行います。 |
| 達成目標 | (1) 経済学の基礎概念・基礎理論を理解すること。 (2) 今、日本でどのような経済問題が起こっているか、知ること。 (3) そして、そのような経済問題について、自分なりに分析し、意見を持てるようになること。 (4) 経済に対してきちんとした理解を持つことで、将来日本経済がどのような状況に陥っても、自分はどのようにしたら良いか判断できるようになること。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 現代の経済問題 第2回 人間の生産活動と商品 第3回 貨幣の機能 第4回 現代の貨幣 第5回 金融政策 第6回 日本の金融政策の変遷 第7回 金融と企業活動 第8回 企業の生産活動と労働力商品 第9回 絶対的剰余価値の生産と相対的剰余価値の生産 第10回 協業・分業・機械制大工業 第11回 資本の循環と回転 第12回 競争(1)部門内 第13回 競争(2)部門間 第14回 利潤率の傾向的低下法則 第15回 戦後の日本経済の動向 |
| 履修上の注意 | 「経済学 」、「経済学 」と併せて受講すると理解が深まります。また、この科目は「経済原論 」（2015年度は非開講）に接続しています。 |
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | 『高度成長 - 日本を変えた6000日 - 』吉川洋著、中公文庫(2012年) 『池上彰の現代史授業 - 21世紀を生きる若い人たちに - 』(全8巻)池上彰監修・著、ミネルヴァ書房(2014~2015年) |
| 成績評価方法 | 試験(30%)、小テスト(70%) |

| | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|----------|
| 科目名 | 経済史 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0493 | 担当教員 | 柳川 平太郎 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 主として、近世以降のヨーロッパおよびアメリカを対象に、経済史の基礎概念と方法論を系統的に学びます。特に、近代世界システム論に依拠しながらイギリス・オランダ・フランス・アメリカ合衆国等の近代化・工業化の過程を比較史的に考察します。あわせて南北問題の歴史的起源となる発展途上国の従属化過程を対比的に取り上げる一方、今年度は特に鉄道史の最近の成果を踏まえて日本やアジアの19世紀経済史にもできる限り言及していく予定です。 |
| 授業の進め方 | 主として、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年、部分的に扱うため購入の必要はありません）などの主要項目をとりあげ、統計や地図の資料プリントを配付しながら講義形式で授業を進めます。こんにちのグローバル資本主義に至る西洋経済史の流れを、できる限りビデオ等のビジュアル資料を活用しながら検討します。また、近時の鉄道をめぐる交通史や環境史の現代的課題を意識し、インドの植民地化と明治日本史の近代化過程をも対比的に考察するため、新聞記事を活用しながら講義を進めていく予定です。 |
| 達成目標 | (1)経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・古典派経済学等)を理解できるようにする。 (2)欧米と日本を比較しながら比較経済学の分析手法を学ぶ。 (3)近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知る。 (4)西欧および日本の工業化と19世紀アジア諸国の植民地化・植民地化の対比的把握のため近代世界システム論の「中核・半周辺・周辺」等の諸概念を理解できるようにする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 以下の事項を中心に、毎回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みます。 第1回 はじめに（授業ガイダンスと問題提起：T P P自由貿易論の現代的課題） 第2回 序論（現状分析と理論的把握の必要性：二つの発展段階論の破綻） 第3回 理論的前提（発想の転換：堺憲一『あなたが歴史に出会うとき』を手がかりに） 第4回 「商業革命」（大航海時代の開始による貿易構造の大転換） 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー（「覇権」）確立 第6回 二つの「重商主義」（イギリスを例に） 第7回 ブルジョワ革命の課題（フランスの場合） 第8回 イギリス・最初の工業化の歴史的前提 第9回 アメリカ合衆国の工業化 第10回 鉄道業の成立と後発資本主義諸国の工業化 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 中南米およびアフリカ諸国の「従属化」と「南北問題」 第13回 特論：「鉄道史」研究の現代的課題--高速鉄道とL R T-- 第14回 まとめと補足 第15回 展望 |
| 履修上の注意 | 高等学校公民の政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提としますが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能です。 |
| 教科書 | 購入の必要はありませんが、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年）の一部を参考にしながら講義し、毎回統計地図資料などのプリントを配布する予定です。 |
| 参考書 | 『イギリス近代史講義』川北稔著、講談社現代新書（2010年）、『フランス革命とヨーロッパ』塚塚忠躬他編、同文館（1996年）第5章「プロイセン改革期の営業の自由政策の特質」（柳川平太郎）、『日本鉄道史--幕末・明治篇』老川慶喜著、中公新書（2014年）など |
| 成績評価方法 | 各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|---------------------------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | ミクロ経済学 | | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0494 | | 担当教員 | 大井 方子 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | 088-821-7189 (研究室) | | | | |
| | E-mail | oimasako@cc.u-kochi.ac.jp | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | ミクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。 |
| 授業の進め方 | 講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。 |
| 達成目標 | (1) 政府が市場に介入しない方がいい場合と政府が市場に介入した方がいい場合について理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入した方がいい場合の一つとして、独占について考えることができるようになる。 (3) 独占的競争市場について考えることができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 はじめに 第2回 生産の費用 第3回 競争市場における企業 第4回 競争市場 第5回 問題演習1 第6回 問題演習2 第7回 独占1:弾力性と限界収入 第8回 独占2:独占企業 第9回 独占3:自然独占 第10回 独占4:公共事業と市場 第11回 問題演習3 第12回 問題演習4 第13回 独占的競争1 第14回 独占的競争2 第15回 おわりに |
| 履修上の注意 | 積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」を履修済みか履修中、もしくはその知識を修得済みか修得しようとしていることが望ましい。 |
| 教科書 | 『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年) |
| 参考書 | 『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年) |
| 成績評価方法 | 学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|---------------------------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | マクロ経済学 | | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0495 | | 担当教員 | 大井 方子 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | 088-821-7189 (研究室) | | | | |
| | E-mail | oimasako@cc.u-kochi.ac.jp | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | マクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。 |
| 授業の進め方 | 講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。 |
| 達成目標 | (1) 経済データの見方が分かるようになる。 (2) 経済成長について考えることができるようになる。 (3) 景気変動と財政・金融政策の効果を理解できるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 はじめに 第2回 国民所得の測定1 第3回 国民所得の測定2 第4回 生計費の測定 第5回 生産と成長1 第6回 生産と成長2 第7回 投資と金融システム1 第8回 貯蓄、投資と金融システム2 第9回 貨幣システム 第10回 貨幣量の成長とインフレーション 第11回 総需要と総供給1 第12回 総需要と総供給2 第13回 総需要に対する金融・財政政策の影響1 第14回 総需要に対する金融・財政政策の影響2 第15回 おわりに |
| 履修上の注意 | 2010年度以前の「国民所得論」を履修済みの場合、この科目を履修することはできません。 「経済学」を履修済み、もしくはそれに相当する知識を修得していること。 |
| 教科書 | 『マンキュー経済学 マクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2014年) |
| 参考書 | 『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年) |
| 成績評価方法 | 学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 国際経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | F0497 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7191 (研究室) |
| | E-mail | | | | | hosoi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化や、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。</p> |
| 授業の進め方 | <p>講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>概ね次のように講義を進める予定ですが、第10回以後を重視し、第5回から第9回の部分は大きく削る可能性があります。受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーション - グローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史 - 原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史 - その歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支 - 国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支 - 赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場 - 為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場 - 為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場 - 円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 欧州通貨統合とアジアでの通貨協力</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。</p> |
| 履修上の注意 | <p>積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。</p> |
| 教科書 | <p>特に指定しません。</p> |
| 参考書 | <p>講義の中で適宜指示します。</p> |
| 成績評価方法 | <p>試験(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 国際経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | F0498 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7191 (研究室) |
| | E-mail | | | | | hosoi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化や、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたか、特に地域経済への影響を意識して考えます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。 |
| 達成目標 | (1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 概ね次のように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、また、受講生との議論を大切に進める関係で、順序や内容が一部変更になる場合や最後に扱う予定の地域統合の問題を削る場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバル化はどこまで来たか？ 第2回 戦後世界とGATTの成立 第3回 GATT・WTOの貿易原則 第4回 GATT・WTOの貿易原則とその例外 第5回 GATTからWTOへ 第6回 WTO交渉の現状 第7回 GATT・WTOの理念と現実 - そのギャップ 第8回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易の理論：比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題 - 一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題 - 資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題 - アジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合 - GATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合 - 日本とアジアの地域統合の動き 第15回 自由貿易と現代：食糧問題、環境問題、労働問題 |
| 履修上の注意 | 積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけを受講してもかまいません。 |
| 教科書 | 特に指定しません。 |
| 参考書 | 講義の中で適宜指示します。 |
| 成績評価方法 | 試験(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------|
| 科目名 | 財政学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0499 | 担当教員 | 霜田 博史 | 所属 | 高知大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>地方分権改革は、1990年代以降現在に至るまで、日本の大きな政策課題となっている。地方分権改革が地域の自立と維持可能な発展につながるのかということが重要なポイントとなるが、そのためには地方自治体の財政が安定的に運営されることが必要不可欠である。</p> <p>本講義では、現在の日本の地方財政のあり方を概観しながら、今後の地方財政の改革課題とその方向性について考えてみたい。</p> |
| 授業の進め方 | 講義形式とする。 |
| 達成目標 | <p>(1) 現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。</p> <p>(2) 地方財政の現状と改革課題について理解できるようになる。</p> <p>(3) 地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の仕組み</p> <p>第3回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の理論</p> <p>第4回 現代社会における地方財政の役割 現代経済と財政</p> <p>第5回 地方自治体の予算制度</p> <p>第6回 地方経費</p> <p>第7回 地方経費</p> <p>第8回 地方税と課税自主権</p> <p>第9回 地方税と課税自主権</p> <p>第10回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第11回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第12回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第13回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第14回 地方財政改革の方向性</p> <p>第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | 内容の順序については、事情により変更することもある。 |
| 教科書 | とくに指定しない。講義資料を配布する。 |
| 参考書 | 必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(100%)により評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----|
| 科目名 | 財政学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0500 | 担当教員 | 霜田 博史 | 所属 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代日本の財政に関する基礎知識を習得し、財政の理論と現状について理解することを目標とする。 |
| 授業の進め方 | 講義形式とする。 |
| 達成目標 | (1) 財政の役割と課題を理解する。 (2) 日本財政の現状を認識する。 (3) 日本財政に対する課題意識を深める。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回：授業の進め方に関するガイダンス 第2回：現代国家における財政の役割 第3回：財政の機能に関する理論 第4回：財政制度の歴史的展開 第5回：予算制度 第6回：政府支出の分析（1）支出の特徴 第7回：政府支出の分析（2）公共投資と財政 第8回：政府支出の分析（3）社会保障制度と財政 第9回：中間試験と振り返り 第10回：租税（1）現代日本の税収構造 第11回：租税（2）税制改革の方向性 第12回：財政赤字と国債発行 第13回：地方財政と地方分権 第14回：グローバル化と財政（1）グローバル化が財政に与える影響 第15回：グローバル化と財政（2）国際課税問題 定期試験 |
| 履修上の注意 | 特になし。 |
| 教科書 | とくに指定しない。講義資料を配布する。 |
| 参考書 | テーマに応じて、授業中に適宜推薦する。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(70%)と中間試験（30%）により評価する。 |

| | | | | | |
|-------|---------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 金融論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0500.9 | 担当教員 | 海野 晋悟 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、皆さんの生活で重要で、切っても切り離せない「お金」のことを学びます。経済学という学問を本格的に学ぶと「お金」は（金融論・国際金融論という経済学の一分野を除けば）イマイチ目立ちませんが、実は経済学でも重要さは変わりません。この講義では今一度「お金」の役割について皆さんに検討してもらいます |
| 授業の進め方 | 講義形式 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> * お金が経済において重要な役割を果たしていることを学ぶ * お金・貨幣は「経済学」のあらゆる分野の根幹であることを学ぶ |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 ガイダンス 第2回 お金の歴史1 第3回 お金の歴史2 第4回 銀行 金利 第5回 銀行 銀行の賢い利用法 第6回 投資 株式投資・株価 第7回 投資 債券 第8回 中間試験 短時間（60分未満）の試験 第9回 保険 生命保険・損害保険 第10回 保険 年金 第11回 税金 所得税 第12回 税金 消費税 第13回 なぜ円安（円高）か？ 第14回 GDP 第15回 デフレ・インフレ 第16回 期末試験（筆記試験） |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> * 金融に関して勉強意欲のある学生を望みます。 * 事前の知識は必要ありません。 * 真剣に勉強する学生に海野は最大限のサポートをします。 |
| 教科書 | 『知らないと損する 池上彰のお金の学校』池上彰著、朝日新書（2012年） |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 講義への貢献 40% 中間試験 30% 期末試験 30% |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 農業経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0502 | 担当教員 | 岩佐 和幸 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>スーパーやファーストフードに象徴されるように、私たちの「食」は、日本のみならず世界各地の「農」と結びついています。しかし、こうした「食」と「農」のグローバル化は、マクドのナゲット等の安全性問題や産地間競争の激化をもたらすとともに、地産地消のようなローカルな動きを再活性化させています。また、最近では食料高騰やバイオ燃料の登場、ランドラッシュの進行に伴って世界的な食料危機の兆しがある一方、昨年の「国連家族農業年」をきっかけに小規模家族農業の見直しも広がっており、食と農の動きからはますます目が離せません。</p> <p>本講義では、グローバル化時代の「食」と「農」について、アグリビジネス論の視点から紹介し、今後の展望について一緒に考えてみたいと思います。</p> |
| 授業の進め方 | <p>基本的にはオーソドックスな講義形式を予定していますが、一部ワークショップ方式など、双方向型授業を適宜取り入れたいと考えています。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 農業・食料生産の歴史と現状について、グローバルかつローカルな視点から理解できるようになる。 (2) 農業と食料の今後について、当事者の視点から関心を持ち、自らの主張を持てるようになる。 (3) 日常生活や地域において、持続可能な農業・食料に関心を持ち、実践に挑戦できるようになる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 オリエンテーション 第2回 農業・食料問題をみる視角 第3回 食生活の変貌とその影響 第4回 食の外部化とフードビジネス 第5回 映像で見るアグリビジネスと農業・食料 第6回 国際化と日本農業・農政の展開 第7回 農産物自由化・食料輸入大国化とアグリビジネス 第8回 日本と世界を結ぶモノ：バナナ 第9回 日本と世界を結ぶモノ：ヤシ 第10回 日本と世界を結ぶモノ：コーヒー 第11回 日本と世界を結ぶモノ：水産物 第12回 グローバル化と農業・食料：途上国における輸出指向型農業と産地の変貌 第13回 グローバル化と農業・食料：回転寿司と地域 第14回 農/食の課題と展望：家族農業が未来を拓く 第15回 農/食の課題と展望：フェアトレードと地産地消</p> <p>基本的には、以上の順で行います。 毎回レジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。</p> |
| 履修上の注意 | なし |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 『現代の食とアグリビジネス』大塚茂・松原豊彦編、有斐閣（2004年）。『利潤への渴望：農業経営者・食料・環境に対するアグリビジネスの脅威』F・マクドナルド編、大月書店（2004年）。『燃料が食料か：バイオエタノールの真実』坂内久・大江徹男編、日本経済評論社（2008年）。『家族農業が世界の未来を拓く、食料保障のための小規模農業への投資』国連世界食料保障委員会専門家パネル（10-26点）として、評価に貢献した。『家族経営研究』農林中金総合研究所（農文協）（2014年）。 |
| 成績評価方法 | なし |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------------|
| 科目名 | 日本経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0503 | 担当教員 | 中野 裕史 | 所属 | 立命館大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | グローバル資本や多国籍企業が世界を席巻する今日において、これまで日本を支えてきた経済システムが大きな転換期を迎えつつある。本講義では、これまでの日本経済の歴史の変遷を踏まえながら、雇用労働者の働き方と労働条件、経営制度と企業統治、財政と社会保障という3つの視点を重視し、今日の日本経済が抱えている課題について考察する。 |
| 授業の進め方 | 講義レジュメを配布し、それに沿って講義を行います。教科書は使いません。受講者の皆さんの疑問を解決するため、できる限り質問の時間を設けたいと思います。 |
| 達成目標 | (1) 現代日本経済の基本的な特徴を理解し、説明することができるようになる。 (2) 物事を批判的に捉え、積極的に自分の意見を発信できる力を身につける。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 インTRODクシヨN 講義の概要、今後のスケジュール 第2回 戦後70年と現代日本経済 経済成長、アベノミクス 第3回 現代資本主義の特徴 グローバリゼーション、情報通信革命、消費社会 第4回 日本経済の歴史 高度経済成長と企業社会の成立 第5回 日本経済の歴史 安定成長とバブル経済 第6回 日本経済の歴史 失われた10年とリーマンショック 第7回 働き方と労働条件 日本の労働時間と賃金 第8回 働き方と労働条件 雇用の多様化と非正規化 第9回 働き方と労働条件 女性労働と性別役割分業 第10回 企業の経営制度 経済の金融化、株価至上主義経営 第11回 企業の経営制度 コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任 第12回 財政と社会保障 社会保障と税の一体改革 第13回 財政と社会保障 格差・貧困問題と生活保護 第14回 日本経済の課題と改革の方向性 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 日頃から本講義に関連する新聞やテレビの報道に関心を持って、授業に参加することを望みます。 |
| 教科書 | 指定しない |
| 参考書 | 『日本経済図説(第4版)』宮崎勇・本庄真・田谷禎三著、岩波新書(2013年)。 『現代日本経済(第3版)』橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直著、有斐閣アルマ(2011年)。 『強欲資本主義の時代とその終焉』森岡孝二著、桜井書店(2010年)。 |
| 成績評価方法 | 試験60%、講義への参加姿勢40%で総合的に評価します。 その他、講義で紹介します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|----------|
| 科目名 | 地域経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0506 | 担当教員 | 梅村 仁 | 所属 | 文教大学経営学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | わが国は少子高齢化の時代を迎え、地域がそれぞれの特性に合わせた社会システムを形成することが求められています。本講義では、わが国の地域経済の現状や課題について包括的に学習したのち、高知県及び全国の先進事例を通じて、地域経済を活性化させる手法について学びます。そして、地域での持続可能な地域社会をいかに形成するかを検討します。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で進めます。 |
| 達成目標 | (1) 地域経済の課題を把握する。 (2) 地域経済の活性化策の考え方を理解する。 (3) 受講生が考える「地域」の地域経済活性化をイメージする力を醸成する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 地域経済を取り巻く環境 第3回 産業政策の展開 第4回 経済のグローバル化と地域経済 第5回 企業立地 第6回 産業振興とまちづくり 第7回 エコノミックガーデニング 第8回 中心市街地の活性化 商店街の再生 第9回 中心市街地の活性化 空き家の再生・尾道 第10回 高知県の地場産業：紙産業の現状と課題 第11回 高知県の地域振興：馬路村の取り組み 第12回 高知県の地域振興：本山町の取り組み 第13回 中山間地域問題 高知県地域企画支援員制度 第14回 中山間地域問題 地方都市への移住事例 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 日頃から、身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう、心掛けてください。私語や携帯電話の使用など、講義を妨げる行為を禁じます。 |
| 教科書 | 特に指定しません。講義資料を配布します。 |
| 参考書 | 『地方都市の公共経営—課題解決先進県「高知」を目指して—』梅村仁・編著、南の風社（2014年）。 ほか、講義の中で随時紹介します。 |
| 成績評価方法 | 試験（60%）、小レポート（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|---------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 経済学特殊講義 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | F0512 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 (研究室) |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 現実の経済活動は空間的広がりを持っています。また、都市・農村、中心・辺境と言った地域差・格差を内包しています。こうした経済活動の空間的広がり・地域差を対象とする経済地理学の理論を学び、現実の展開事例を精査し、地域経済の問題点を分析し、地域振興の方向性を考える基礎力を養います。 |
| 授業の進め方 | レジュメと資料を配布し、プロジェクター、ビデオ等を利用し主に講義形式で進めます。但し、トピックにより討論、ワークショップなど双方向の授業を行います。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 農業立地論を理解する。 (2) 輸送圏芸や都市内農業について考える。 (3) 工業立地論と輸送費について理解する。 (4) グローバル化と産業空洞化について考える。 (5) 都市の立地について理解する。 (6) 地域産業の存立条件について理解する。 (7) 地域産業活性化の方策について考え、議論できる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>概ね、以下の内容で行う予定です。ただし、受講生の希望、社会情勢の動向等により順序や内容を一部変更する可能性もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 農業立地の理論 第3回 現代の農業立地と輸送圏芸 第4回 都市農業と定期市(ストール) 第5回 工業立地の理論 第6回 輸送費フリーと産業空洞化 第7回 都市の立地論 第8回 都市の分布とプライメイト・シティ 第9回 B・NB分析 第10回 グローバル化とプロダクト・サイクル論 第11回 マクドナルド化とガラパゴス化 第12回 大規模工業化と地域(四日市の場合) 第13回 地場産業と地域(伊賀組紐の場合) 第14回 地場産業と地域(土佐打刃物の場合) 第15回 地域経済活性化について(まとめの討論) <p>概ね以上のように考えていますが、学生の興味関心、世界情勢の動向等により、多少変更される場合があります。</p> |
| 履修上の注意 | 2014年度に経済学特講 を履修した学生はこの講義を履修することはできません。普段から新聞、ニュース、web等により時事問題、経済問題などを読み、問題意識を培っておいてほしいと要望します。 |
| 教科書 | レジュメと資料を配布する予定です。 |
| 参考書 | 『地域と産業－経済地理学の基礎』富田和暁著、原書房(2006年)、『多国籍企業の立地と世界経済』鈴木洋太郎、原書房(2004年)、『世界地図帳』他、講義中に適宜紹介します。 |
| 成績評価方法 | レポート(50%)、期末試験(40%)と課題提出・討論等講義への参加姿勢(10%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|----------------|------|-------|----|---------|
| 科目名 | 経済学特殊講義（協同組合論） | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0545 | 担当教員 | 杉本 貴志 | 所属 | 関西大学商学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>規制緩和が声高に叫ばれるなか、そこで理想とされる徹底した自由競争の世界に、皆さんは魅力とともに不安をも感じることはないでしょうか。「リストラ」「派遣切り」「内定取り消し」などで会社を放り出された人々の悲惨な境遇、失業者や破産者の痛ましい自殺などを新聞やニュースで目にして、これは他人事ではないという思いを抱いた人も多いでしょう。</p> <p>200年程前、産業革命期のイギリスで協同組合の設立に立ち上がった人々は、まさにそうした思いから、競争社会に代わる「協同」の社会を建設することを夢見たのです。以後、協同組合運動は劇的な発展を遂げ、今日では全世界で10億人も組合員を抱える巨大な事業・運動体へと成長しています。</p> <p>この講義では、とくに日本の生活協同組合を例に挙げ、そうした協同組合の思想、運動、組織、事業、ガバナンスを見直し、活用するほか、毎週刊の事業関係課題資料可能性を配布し、これを扱った協同組合食添加物添加物環境問題への貢献などで大きな成果をあげてきました。ところが最近、安全を売り物にしてきたコープの餃子に農薬が混入するなどという事件が起こっています。なぜこんなことが起こるのでしょうか。福島原発事故を受けて、東北の農産物と農業者に対して、生協はどういう態度を取っているのでしょうか。労働者が報われる社会を目指していたはずの協同組合で、実際に働いている人々の境遇はどうなっているのでしょうか。</p> <p>歴史や理念と現実とを照らし合わせることで、協同組合の課題と可能性を検討し、現代の社会経済を考えるための一助としたいと考えています。</p> |
| 授業の進め方 | |
| 達成目標 | <p>(1) 生活協同組合のあゆみを把握する。</p> <p>(2) 生活協同組合の現状を知る。</p> <p>(3) 協同組合を見ることによって、現代の社会経済が抱える課題と解決策を自らの視点で論じられるようになる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>(1) ロッチデールの先駆者達</p> <p>(2) 日本への移植</p> <p>(3) 戦後生協運動の歴史</p> <p>(4) 共同購入</p> <p>(5) 個配</p> <p>(6) 店舗</p> <p>(7) コープ商品</p> <p>(8) 産直</p> <p>(9) 表示問題</p> <p>(10) 単協のガバナンス構造</p> <p>(11) 「創業者」支配と経営者支配</p> <p>(12) 事業連合時代の生協ガバナンス</p> <p>(13) 組合員主権と社会的責任</p> <p>(14) さまざまな協同組合と生協</p> <p>(15) まとめ</p> |
| 履修上の注意 | <p>2012年度以前の「協同組合論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。</p> <p>本を読む習慣がない人、新聞を毎日読まない人、自分で夕食の買い物をしたこともないような人には、経済を理解することはできません。毎日の生活全てが勉強となるはずで、協同組合論を学ぶためには、とりわけこのような社会への関心が求められます。</p> |
| 教科書 | <p>『協同組合を学ぶ』中川雄一郎・杉本貴志編著、日本経済評論社（2012年）</p> <p>その他、必要に応じてプリントを配布する。</p> |
| 参考書 | <p>『協同組合 未来への選択』中川雄一郎・杉本貴志編著、日本経済評論社（2014年）</p> |
| 成績評価方法 | <p>授業期間中および授業終了後にレポートの提出を求め、その採点をもって成績評価とする。</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 労働経済論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | F0550 | 担当教員 | 大井 方子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7189 (研究室) |
| | E-mail | | | | | oimasako@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 働くということについて、経済学的に考える力を養う。 |
| 授業の進め方 | 講義を中心に進める。 |
| 達成目標 | (1) 効率化と格差是正について、考えることができるようになる。 (2) 労働を、経済学的にはどう考えればいいのかを、理解できるようになる。 (3) 賃金の違いの原因を考えることができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 はじめに 第2回 労働市場とデータ 第3回 失業：需要不足失業とミスマッチ失業 第4回 労働市場と労働需要1:賃金と生産性の関係 第5回 労働市場と労働需要2:派生需要、技術進歩、資本との代替 第6回 労働市場と労働需要3:外国との競争 第7回 労働市場と労働供給：非勤労所得と女性、若者、高齢者 第8回 労働市場の余剰分析：所得税と最低賃金 第9回 勤労所得と差別 第10回 効率化と格差是正1:社会的厚生 第11回 効率化と格差是正2:効率化政策 第12回 効率化と格差是正3:格差是正政策(1) 第13回 効率化と格差是正4:格差是正政策(2) 第14回 効率化と格差是正5:効率化政策と格差是正政策の両立 第15回 おわりに |
| 履修上の注意 | 「経済学」を履修済みであれば望ましい。 |
| 教科書 | 『ミクロ経済学 効率化と格差是正』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年) |
| 参考書 | 『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年) |
| 成績評価方法 | 学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 経営学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0670 | 担当教員 | 青木 宏之 | 所属 | 香川大学経済学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業は経営学の基本的な概念や理論を幅広く解説する。第一に、経営学説を取り上げる。第二に、企業の設立形態、支配構造、企業間関係などの企業論の基本を学ぶ。第三に、経営戦略論とマーケティングを取り上げ、企業と市場の関係について解説する。最後に、技術経営の基礎理論や主要産業の生産システムについて学ぶ。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。 |
| 達成目標 | 到達目標は下記の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・組織と労働者との緊張関係を経営学の視点から捉えることができる。 ・企業の形態と支配構造について説明することができる。 ・企業の市場に対する働きかけや事業領域の選択行動などを経営学の視点から説明することができる。 ・産業の技術的条件が経営管理に与える影響を説明することができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 【授業計画】 第1回 イントロダクション 第2回 科学的管理法 第3回 人間関係学派と組織行動論 第4回 企業形態とコーポレートガバナンス 第5回 企業間関係論 第6回 企業集団と系列 第7回 全社戦略 第8回 競争戦略(1)市場におけるポジショニング 第9回 競争戦略(2)リソースベースビュー 第10回 マーケティング 第11回 製品アーキテクチャ 第12回 製品開発パターン 第13回 生産システム論 第14回 サービス産業の現場管理 第15回 講義のまとめ |
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 特になし。 |
| 参考書 | 個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。 |
| 成績評価方法 | 学期末試験(70%)、小テストやグループワークなどの平常点(30%)等で成績評価を行う。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 経営学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0680 | 担当教員 | 青木 宏之 | 所属 | 香川大学経済学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、現代日本企業の人材マネジメントについて学びます。その特徴を明らかにするために、日本企業における人事労務管理制度の歴史の変遷を検討し、さらに国際比較（とくにアメリカ）を行います。また、モチベーション、職務満足、組織へのコミットメントなどの産業組織心理学の基礎理論を学びます。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で授業を進めてきます。必要に応じて資料を配付します。 |
| 達成目標 | (1) 日本企業の人事労務管理の制度的特徴を説明ができるようになること。 (2) 日本企業の人事労務管理とアメリカ企業のそれとの違いが理解できるようになること。 (3) 産業組織心理学の基礎理論を修得すること。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 イン트로ダクション 第2回 賃金の上がり方 第3回 賃金の決め方 第4回 昇進管理 第5回 人事制度 第6回 人事評価 第7回 能力開発と配置管理 第8回 採用管理 第9回 労働時間 第10回 雇用調整 第11回 雇用ポートフォリオ 第12回 労働組合の組織と機能 第13回 職場の能率問題 第14回 産業組織心理学の基礎理論 第15回 講義のまとめ |
| 履修上の注意 | 経営学 と の両方を受講することが望ましい。 この授業は日本企業の人材マネジメントについての理解を深めることを通じて、受講者の職業的自立を支援することを目的の一つとしています。 |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末レポート（70%）および小テストやコメントカードなどの平常点（30%）で評価をします。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 企業分析論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | F0691 | 担当教員 | 梶原 太一 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7187 (研究室) |
| | E-mail | | | | | kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>企業が公表している財務諸表(決算書)を様々な角度から眺めて、企業の過去・現在・未来の状況を分析する方法について学びます。</p> <p>現代では、株式会社を代表とする営利企業だけではなく、病院や学校、NPOといった非営利組織、あるいは自治体などの政府組織でも、営利企業と同様の方法で財務諸表が作成され、公表されるようになってきました。これらの組織の活動の役割や意義を理解しようとする際にも、財務諸表分析の考え方が役立つでしょう。</p> |
| 授業の進め方 | <p>まず、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表が、企業の経済活動をどのように表現したものであるのかを解説します。次に、財務諸表の数値を利用して、企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などの側面を分析する財務指標の計算方法と、その意味を解説します。また、企業の実力の総合的な判定を簡単に行うために開発された「企業力指数」の考え方を紹介し、その意義と使いみちを解説します。</p> <p>毎回、様々な企業を取り上げ、各種財務指標の解説を行い、その後、みなさんに実際に計算してもらいますので、学びつつ実践することで、理解を深めてください。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 財務諸表に表れた数値がどういう意味を持ち、どのように活用できるのかを理解すること。</p> <p>(2) 企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などを分析する手法を身に付けること。</p> <p>(3) 「損益分岐点」の意味を理解し、計算ができるようになること。</p> <p>(4) 「企業力指数」の意味を理解し、企業の総合力を判定できるようになること。</p> <p>(5) この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力を身につけ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 企業内容開示制度</p> <p>第3回 貸借対照表</p> <p>第4回 損益計算書</p> <p>第5回 キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第6回 株主資本等変動計算書</p> <p>第7回 安全性分析</p> <p>第8回 収益性分析</p> <p>第9回 活動性分析</p> <p>第10回 成長性分析</p> <p>第11回 業種分析</p> <p>第12回 損益分岐点分析</p> <p>第13回 粉飾決算の分析</p> <p>第14回 企業力指数</p> <p>第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | <p>前提となる知識は必要ありません。財務諸表分析の極意は、各種数値の比率分析(割り算)にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。</p> |
| 教科書 | <p>『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)。</p> |
| 参考書 | <p>『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill(2013年)。</p> <p>『財務諸表分析[第5版]』桜井久勝著、中央経済社(2012年)。</p> <p>『財務諸表分析[第2版]』乙政正太著、同文館出版(2014年)。</p> |
| 成績評価方法 | <p>『首都企業分析』徳賀善弘監、中央経済社(2011年)。</p> <p>毎回の授業内容の要約課題(20%)、中間試験(20%)、期末試験(60%)。</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 企業分析論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | F0692 | 担当教員 | 梶原 太一 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7187 (研究室) |
| | E-mail | | | | | kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 「企業価値」を評価していくための手法を学びます。これらの手法は「企業分析論」で取り扱った財務諸表分析とは別に、「Valuation」(企業価値評価)と呼ばれる一つの独立した分野となっています。企業価値評価の具体的な手法の多くは、株式市場における企業の理論上の株価を算定するために考え出されたものです。たとえば、理論株価としての企業価値を算定することができると、それを現実の株価と比べて、割安か割高かの判断を行うことが可能になります。さらに、企業買収や合併のように企業を売買する場面に限られず、世の中に存在する何かしらの価値を持つ「モノ」を評価する場面においても、Valuationの考え方は役立つものとなるでしょう。 |
| 授業の進め方 | まず、株式時価総額やPBR、PERなど「株価指標」と呼ばれる数値について解説します。次に、企業価値評価における最重要用語である「現在価値」と「資本コスト」の考え方について説明します。その後、3つの代表的な企業価値評価モデルについて解説します。 企業価値評価を行うには、証券市場が社会の中でどのような機能をもつ制度であるのかということと、そこに参加する投資家がどのような心理のもとで行動しているのかということを理解しておくことが有益ですので、投資家の心理を研究対象とした行動ファイナンスの議論も併せて取り上げます。 |
| 達成目標 | (1) PBRやPERなどの株価指標の意味を理解し、計算ができるようになること。 (2) 「現在価値」と「資本コスト」の意味を理解し、説明ができるようになること。 (3) 代表的な企業価値評価モデルの考え方を理解し、算定ができるようになること。 (4) 残余利益の考え方を理解し、それを経営指標として応用したEVA(経済付加価値)の計算ができるようになること。 (5) 証券市場が世の中で果たす役割と投資家の心理が理解できるようになること。 (6) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、企業の経営状況と経済状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 講義の内容解説 第2回 株式時価総額 第3回 株価簿価倍率(PBR)と株価利益倍率(PER) 第4回 株価倍率モデルによる企業価値評価 第5回 割引現在価値 第6回 利子率と不確実性 第7回 資本コスト 第8回 負債コストの推定 第9回 株主資本コストの推定 第10回 割引キャッシュ・フローモデル 第11回 割引配当モデル 第12回 割引残余利益モデル 第13回 EVA(経済付加価値)とプロフォーマ利益 第14回 行動ファイナンス 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 前提となる知識は必要ありません。「企業分析論」と教科書は共通ですが、内容は独立していますので「企業分析論」を履修していなくてもかまいません。企業価値評価の極意は、複利計算(べき乗)にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。 |
| 教科書 | 『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)。 |
| 参考書 | 『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill(2013年)。 『はじめての企業価値評価』砂川伸幸・笠原真人著、日経文庫(2015年)。 『新・企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社(2014年)。 |
| 成績評価方法 | 『財務諸表分析[第5版]』桜井久勝著、中央経済社(2012年) 毎回の授業内容の要約課題(20%) 『財務諸表分析[第2版]』乙政正太著、同文館出版(2014年) 期末試験(60%) 『企業分析入門(第2版)』Palepu他著(斎藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年)。 『証券アナリストのための企業分析[第4版]』日本証券アナリスト協会編、東洋経済新報社(2013年)。 『ウォール街のランタム・ウォーカー[第10版]』Malkei著(井手正介訳)、日本経済新聞出版社(2011年)。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 会計学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | F0700 | 担当教員 | 梶原 太一 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7187 (研究室) |
| | E-mail | | | | | kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>会計の基礎的な考え方と、社会における会計の役割を解説します。会計は、企業が行った経済活動を独自の言葉で描き直し、それを関係者に報告する行為です。世の中の資源を効率的に活用し、透明性を高めていくための仕組みとして、会計は現代の社会において重要な役割を与えられています。</p> <p>この講義では、企業が社会からお金を調達し、その使いみちを社会に向けて報告する場面で行われる「財務会計」(Financial Accounting)の考え方を解説していきます。</p> |
| 授業の進め方 | <p>この授業では、まず、世の中における会計のはたらきを学びます。加えて、会計で用いられている独特の言葉である「資産」「負債」「資本」「収益」「費用」「利益」が、いったい何を表そうとしているのかを学びます。</p> <p>次いで、会計を行う上での考え方をまとめた「企業会計原則」について解説します。「企業会計原則」は、「発生主義」「取得原価」「費用配分」といった独特の発想に基づく会計処理ルールですが、これらは、経済活動を分かりやすく表現しようとする場合に必要となる「理論的なしかけ」としての役割を果たしています。</p> <p>今日では会計基準の改廃と新設が相次いでおり、また政府や自治体などの公的部門や非営利組織にも財務会計の考え方が導入されてきています。会計の仕組みを学ぶことで、それらの変化が持つ意味も理解できるでしょう。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 「発生主義」(accrual basis)の考え方を理解すること。</p> <p>(2) ある出来事が起こったとき、その出来事が会計ではどのように表現されるのかを想像できるようになること。</p> <p>(3) 会計は企業の経済活動を対象としているため、会計学の基礎を理解しようと努めることで、経営全般の基礎知識についても自然と習得することができます。</p> <p>(4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 会計の機能</p> <p>第3回 会計の構造</p> <p>第4回 発生主義会計</p> <p>第5回 動態論と静態論</p> <p>第6回 企業会計原則(1)一般原則</p> <p>第7回 企業会計原則(2)損益計算書原則、貸借対照表原則</p> <p>第8回 複式簿記</p> <p>第9回 決算</p> <p>第10回 財務諸表監査</p> <p>第11回 連結財務諸表</p> <p>第12回 税務会計</p> <p>第13回 管理会計</p> <p>第14回 国際財務報告基準(IFRS)</p> <p>第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | <p>前提となる知識は必要ありません。簿記の知識があると会計の理解はあっさり深まりますが、講義の中で、複式簿記の仕組みについても手ほどきを行います。会計は経済活動の数量的な把握という性格をもっているため、しばしば計算が必要となります。したがって、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p> |
| 教科書 | 『会計学講義[第4版]』醍醐聰著、東京大学出版会(2008年)。 |
| 参考書 | 『Financial Accounting: An Integrated Statements Approach [2nd ed.]』Duchac, Reeve and Warren著、Thomson社(2007年)。 『財務会計の理論と実証』William R. Scott著(太田康広・椎葉淳・西谷順平訳)、中央経済社(2008年)。 |
| 成績評価方法 | <p>『財務会計講義[第16版]』桜井久勝著、中央経済社(2015年)。</p> <p>毎回の授業内容を理解し、20%、中間試験(20%)、期末試験(60%)。</p> <p>『入門財務会計』藤井秀樹著、中央経済社(2015年)。</p> <p>『会計学原理』友岡賛著、税務経理協会(2012年)。</p> |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 会計学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | F0710 | 担当教員 | 梶原 太一 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7187 |
| | E-mail | | | | | kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>現代における様々な会計基準の内容について解説します。会計の世界では、1990年代後半から現在にかけて、新しい会計基準が次々と設定されてきています。そのような大きな変化の背景には、「損益計算のための会計」から「実態開示のための会計」へ、という大きな思想の転換があります。たとえば、資産の評価に「時価」が用いられるということも、実態開示を優先する考え方から導き出されたものです。</p> <p>この授業では、1990年代以降に新しく登場してきた個々の会計基準の内容を解説し、現代社会において会計が担っている役割について考えていきます。</p> |
| 授業の進め方 | <p>1990年代から公表されてきた新しい会計基準を1つずつ取り上げて、それぞれが、 どのような出来事を、 どのような実態としてみなして、 財務諸表にどう表現しようとするのか、 の3点について解説します。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 個々の会計基準について、その目的と意味を理解できるようになること。 (2) 「経済的実態」という言葉の意味を説明できるようになること。 (3) 次々と設定されている新しい会計基準は、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。これらの会計基準の考え方を理解しようと努めることで、大企業や多国籍企業の経営全般の知識についても自然と習得することができるでしょう。 (4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>第1回 講義の内容解説 第2回 財務会計の概念フレームワーク 第3回 事業活動と金融活動の区分 第4回 棚卸資産の会計基準 第5回 固定資産の減損の会計基準 第6回 リース取引の会計基準 第7回 研究開発活動の会計基準 第8回 金融商品の会計基準 第9回 資産除去債務の会計基準 第10回 退職給付債務の会計基準 第11回 自己株式の会計基準 第12回 税効果の会計基準 第13回 企業結合の会計基準 第14回 外貨建取引の会計基準 第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | <p>前提となる知識は必要ありません。教科書は「会計学」と共通ですが、内容は独立していますので「会計学」を履修していなくてもかまいません。。各会計基準は文書として公表されているので、それらが掲載された法規集を手許に置いておくと、学習の際に有益です。また、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p> |
| 教科書 | <p>『会計学講義[第4版]』醍醐聰著、東京大学出版会（2008年）。</p> |
| 参考書 | <p>『新版会計法規集』中央経済社編（順次改定されているので、その時点で手に入る最新版が望ましい）。 『エッセンシャルIFRS[第3版]』秋葉賢一著、中央経済社（2012年）。 『最新アメリカの会計原則』あらた監査法人編、東洋経済新報社（2014年）。 『新版財務会計論[改訂版]』井上良二編、税務経理協会（2014年）。 『会計基準の研究的課題』2014年、編者不詳、税務経理協会（2014年）。 『会計基準の研究[増補改訂版]』斎藤静樹著、中央経済社（2013年）。</p> |
| 成績評価方法 | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 簿記学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0721 | 担当教員 | 柳井 正持 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 複式簿記の学習を通して、複式簿記の記帳方法とシステムを理解し、貸借対照表・損益計算書等の作成やその役割を理解をする。 |
| 授業の進め方 | 講義と演習の繰り返しで進める。 |
| 達成目標 | (1) 計数的合理的処理能力を養う。 (2) 複式簿記の基礎的な処理方法を理解する。 (3) 複式簿記の基礎的なシステムを理解する。 (4) 基礎的な個人商店の貸借対照表・損益計算書の作成ができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション・複式簿記の仕組み等 第2回 貸借対照表・損益計算書 第3回 勘定科目・資産・負債・純資産(資本) 第4回 勘定科目・収益・費用 第5回 取引の処理・仕訳 転記 仕訳帳 総勘定元帳 第6回 演習 第7回 演習 第8回 補助簿について 第9回 演習 第10回 帳簿の締め切り・演習 第11回 決算手続き 6桁精算表 第12回 演習 第13回 貸借対照表 損益計算書 第14回 演習 第15回 演習 まとめ |
| 履修上の注意 | 積み重ねの学習なので、初めて簿記を学ぶ人は、休むと理解できなくなる。 |
| 教科書 | そのつどプリントを配布する。 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価方法 | 試験(90%)、演習・確認(10%)として評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 簿記学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0722 | 担当教員 | 柳井 正持 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | <ul style="list-style-type: none"> ・実務に対する応用力を身につけ、財務諸表等の理解を深める。 ・日本商工会議所簿記検定3級程度の力をつける。 |
| 授業の進め方 | 講義と演習の繰り返しで進める。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 記帳能力を高め、複式簿記が理解できるようになる。 (2) 財務諸表等を理解することができる。 (3) 企業の財務内容を理解することができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 簿記手続きの一巡 資産 負債 資本 収益 費用 第2回 演習 第3回 補助簿への記帳 第4回 主要簿と補助簿 第5回 演習 第6回 試算表 第7回 貸倒償却 減価償却他 決算整理事項 第8回 決算整理仕訳 決算仕訳 第9回 演習 第10回 8桁精算表 第11回 演習 第12回 伝票会計 第13回 貸借対照表 損益計算書 第14回 演習 第15回 演習 まとめ |
| 履修上の注意 | できるだけ休まないこと。 簿記学 ・ は、内容的に連続しているので、 を履修していることが望ましい。 |
| 教科書 | そのつどプリントを配布する。 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価方法 | 試験(90%)、演習・確認(10%)として評価する。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------|
| 科目名 | 現代産業論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | F0723 | 担当教員 | 中道 一心 | 所属 | 高知大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>この授業では、次の2つの視点から日本の産業について学びます。</p> <p>戦略分析：経営戦略は産業構造に規定されることがあります。どのような産業で収益が上がるのかという問題を産業構造に着目して明らかにします。</p> <p>産業・業界分析：産業や業界で企業は激しく競争を展開しています。しかし、やみくもに競争しているわけではなく、競争の焦点が存在します。そして、競争の焦点に見合った製品・サービスを生み出すために各企業は経営資源を蓄積し、事業の仕組みを構築しています。この講義ではそれらの関係性を明らかにします。</p> |
| 授業の進め方 | <p>通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。</p> <p>授業時間内に質問を投げかけますので、積極的に答えてください。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 経営戦略についての理論的枠組みを理解することができるようになる。</p> <p>(2) 企業間競争についての理解することができるようになる。</p> <p>(3) 産業・業界間の競争のありようの違いを理解できるようになる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>第1部 経営戦略論</p> <p>第1回 経営戦略の基礎理論</p> <p>第2回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第3回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第4回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(3)</p> <p>第5回 資源アプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第6回 資源アプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第7回 資源アプローチの経営戦略論(3)</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第2部 産業・業界分析</p> <p>第9回 競争の焦点</p> <p>第10回 経営資源の蓄積</p> <p>第11回 事業システムの設計</p> <p>第12回 個別産業の競争(1)</p> <p>第13回 個別産業の競争(2)</p> <p>第14回 個別産業の競争(3)</p> <p>第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。 |
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間テスト (50%) ・ 学期末試験 (50%) ・ 任意レポート (最大30点加点) ・ 授業への貢献 (加点) |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 統計学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0760 | 担当教員 | 谷本 真二 | 所属 | 元高知県立大学教授 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 統計学の基礎を学び、その考え方を修得する。 |
| 授業の進め方 | 配布するプリントをもとに講義形式で進める。 |
| 達成目標 | (1) 確率と統計学の関係を理解する。 (2) 平均, 分散の計算とその意味を理解する。 (3) 統計データから推定と検定を行う。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 統計学とは何か 第2回 統計データ 第3回 平均と分散 第4回 データの分類 第5回 標本平均と標本分散の計算法 第6回 確率 第7回 組合せの数と二項分布 第8回 二項分布の平均と分散 第9回 正規分布と確率の計算 第10回 二項分布の正規近似 第11回 推定値 第12回 標本平均の分布 第13回 t分布 第14回 平均と割合の推定 第15回 平均と割合の検定 |
| 履修上の注意 | 2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 課題の提出をおろそかにしないこと。 |
| 教科書 | 25ページ程度のプリントを配布する。 |
| 参考書 | |
| 成績評価方法 | 学期末試験の成績(50%)および課題提出と授業における積極的参加で評価(50%) |

| | | | | | |
|-------|-----------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 経営情報システム論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | F0761 | 担当教員 | 増井 広二 | 所属 | ブレインソフトサービス |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 色々なアプリケーションを使用して、データの収集・整理・分析・発表をします。 |
| 授業の進め方 | 情報処理実習室内における講義と実習。 |
| 達成目標 | (1) インターネットから、検索してデータの収集が出来る。 (2) Excelで、データの分析が出来る。 (3) PowerPointで、分析結果を発表する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 Windowsの操作 第3回 インターネットの基礎 第4回 インターネットでのデータの収集をする 第5回 Excelの基礎 第6回 セルの書式・計算式 第7回 関数 第8回 データの整理 第9回 データの分析 第10回 データのグラフ化 第11回 画像の処理 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーション・テーマの変更 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 文字入力とマウス操作が出来る方を対象とします。 自分データを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 |
| 教科書 | 授業前にプリントを配布します。 |
| 参考書 | Web教材を授業内で使用します。 |
| 成績評価方法 | 期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。 |

| | | | | | |
|-------|---------------|------|-------|----|-----------------|
| 科目名 | 経済学特殊講義（工業簿記） | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | F0769 | 担当教員 | 中野 慶伸 | 所属 | 土佐コンピュータ学院非常勤教員 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 日商簿記2級を学習します。 |
| 授業の進め方 | 講義、質疑応答、演習等 |
| 達成目標 | (1) 企業で用いられる簿記を学習し、職業会計人としての基礎を築く。 (2) 日商簿記2級合格が一つの目標の目安になる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 工業簿記の基礎 第2回 工業簿記の勘定連絡 第3回 材料費() 第4回 材料費() 第5回 労務費() 第6回 労務費() 第7回 経費 第8回 個別原価計算() 第9回 個別原価計算() 第10回 部門別個別原価計算() 第11回 部門別個別原価計算() 第12回 総合原価計算() 第13回 総合原価計算() 第14回 総合原価計算() 第15回 総合原価計算() |
| 履修上の注意 | 日商検定は知名度も高く、企業の人事担当者にも知られている資格の一つです。 簿記2級取得を目指す科目ですので、主な受講対象者は、すでに簿記実務経験のある人または簿記3級の実力のある人となります。 |
| 教科書 | 『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』TAC簿記検定講座著、TAC出版 |
| 参考書 | 講義の中で紹介します。 |
| 成績評価方法 | 講義への参加姿勢(60%)、レポート(40%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 政治学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | G0770 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、民主主義の仕組みの違いがどのような政策の違いをもたらすのかについて講義します。具体的には、民主主義とは何か、民主主義と政策はどのような関係があるのか、民主主義を構成する政治制度はどのようなものか、以上の点を中心に講義していきます。取り上げる材料は、現代の日本の政治が中心になりますが、比較を通じて日本の相対的な立ち位置を把握するため、他国（主に先進国）の政治や過去の日本の政治も扱います。 |
| 授業の進め方 | レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。 |
| 達成目標 | (1) 論理と根拠を持って現在の政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 世界各国との比較を通じて、日本の政治制度の仕組みを理解する。 (3) 政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのかを理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 組織された集団 第3回 浮動票と固定票 第4回 民主主義と政策 第5回 民主主義の定義 第6回 国際政治と民主主義：民主化 第7回 民主主義の分類と政治制度 第8回 執政制度と議会制度(1) 第9回 執政制度と議会制度(2) 第10回 政党の目的と形成 第11回 政党システム 第12回 選挙制度と政党システム(1) 第13回 選挙制度と政党システム(2) 第14回 民主主義と権力の分立：地方制度、中央銀行制度、司法制度 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。加えて、地方の民主主義や政治については、この講義では扱いません。この部分に関心のある学生は、地方自治論 を受講してください。 |
| 教科書 | 使用しません。 |
| 参考書 | 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』(有斐閣、2009年)、建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』(有斐閣、2008年)、川人貞史、平野浩、吉野孝、加藤淳子『現代の政党と選挙 新版』(有斐閣、2011年)、粕谷祐子『比較政治学』(ミネルヴァ書房、2014年) |
| 成績評価方法 | 山田真裕・飯田健一『投票行動研究のフロンティア』(有斐閣、2009年)と『政治学』(有斐閣、2009年)を参考に、レジュメのテーマについて授業で説明します。提出は第14回あるいは第15回の授業中とします。それ以外は受け取りません。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 政治学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0771 | 担当教員 | 中村 隆志 | 所属 | 関西大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、政治学への入門として、私たちの暮らしに大きく関わる営みである政治について自分の力で考えるために身につけておくべき基礎的知識を、具体的な事例を挙げつつ解説する。 第2回から第10回までは、国会、内閣、政党など、日本の政治システムを構成している要素に焦点をあてていく。 第11回から第14回までは、現代の政治のあり方に深く結びついた思想として、自由主義と民主主義を取り上げる。 |
| 授業の進め方 | レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で進める。 |
| 達成目標 | (1) 政治の諸要素の仕組み・働きと、それらの背後にある思想が理解できるようになる。 (2) 政治学の基本的な概念、考え方を修得する。 (3) 学んだ知識・理論をもとに、現実政治の様態を理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 授業の進め方など 第2回 国会 国会の権能、組織、運営 第3回 国会 日本の国会の特徴と問題点 第4回 内閣 内閣の構成、職務、権限 第5回 内閣 大統領制との比較、首相公選論 第6回 政党 政党の役割・機能、政党組織のあり方 第7回 選挙 現行の選挙制度、投票行動のあり方 第8回 政策過程 政策のつくられ方、様々なアクター 第9回 地方自治 地方公共団体の組織と権能 第10回 地方自治 地方自治の意義と課題 第11回 自由主義 自由主義思想の歴史 第12回 自由主義 自由主義思想の現在 第13回 民主主義 民主主義論の歴史 第14回 民主主義 民主主義論の現在 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 政治学 を履修していなくてもよい。 教科書は使用せず、毎回、講義内容のレジュメを配布する。 日々のニュースに関心をもって、問題意識を養うようにすること。 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 『政治学』川出良枝・谷口将紀編、東京大学出版会(2012年) 『地域に関する法的研究』小林直三ほか編、新日本法規(2015年) その他、授業中に適宜紹介する。 |
| 成績評価方法 | 試験(60%)、平常点(40%)の比率で、総合的に評価する。 平常点になかには、数回実施予定の小論文の評価が含まれる。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 政治史 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | G0782 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 戦後の内閣の政権運営について、民主主義とその基本装置（政党や選挙制度など）に注目しつつ、検討していきます。そして、現在、日本が抱えている防衛・安全保障や制度改革などの課題が、いつどのように生じてきたのか、また、日本はそうした課題に対してどのような取り組みをしてきたのかという点について、歴史的背景を踏まえつつ理解していきます。 |
| 授業の進め方 | レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。 |
| 達成目標 | (1) 日本の課題について、歴史的背景を踏まえつつ、論理と根拠を持って説明できるようになる。 (2) 戦後の内閣の政権運営について理解する。 (3) 民主主義とその基本装置（政党や選挙制度など）について理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の選挙制度について 第3回 政策の対立軸：保守と革新 第4回 吉田茂と講和条約 第5回 鳩山内閣と石橋内閣、岸信介と安保改定 第6回 池田勇人と所得倍増計画 第7回 佐藤栄作と沖縄返還 第8回 田中角栄と列島改造 第9回 三木武夫と保守政治の修正、福田赳夫と全方位外交 第10回 大平正芳と新しい保守のビジョン 第11回 鈴木善幸と和の政治、中曽根康弘と日米同盟の強化 第12回 竹下登と税制改革 第13回 海部俊樹と湾岸戦争 第14回 宮沢喜一と政治改革 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。また、民主政治の基本的な仕組みについては、政治学 を受講すると理解がより深まります。 |
| 教科書 | 使用しません。 |
| 参考書 | 北岡伸一『日本政治史：外交と権力』（有斐閣、2011年）、北岡伸一『自民党：政権党の38年』（読売新聞社、1995年＝中央公論新社、2008年）、五十旗頭真『戦後日本外交史 第3版』（有斐閣、2010年）。 |
| 成績評価方法 | レポートによって評価します（100％）。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為やレポートの不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。レポートのテーマについては授業で説明します。提出は第14回あるいは第15回の授業中とします。それ以外は受け取りません。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|-----------|
| 科目名 | 国際関係論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0789 | 担当教員 | 吉原 司 | 所属 | 姫路獨協大学法学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 国際関係論の基本的事項を学んでいきます。さらに、近年特に注目される国際開発、地域主義や環境問題についても言及していきます。 |
| 授業の進め方 | 講義形式で行います。適宜レジュメを配布し、それにそって講義を進めます。 |
| 達成目標 | (1)理論を理解できるようになる。 (2)実際の時事問題に理論を当てはめて考えられるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 はじめに 国際関係論とは何か 第2回 国際関係論とは何か 第3回 国際関係の主体 国家 第4回 国際関係の主体の多様化 第5回 国際関係理論 リアリズム、リベラリズム 第6回 国際関係理論 コンストラクティヴィズム、その他 第7回 国際関係史 古代、中世、近代 第8回 国際関係史 現代 第9回 冷戦の勃発と終結 第10回 核抑止論 第11回 ポスト冷戦の世界 低強度紛争、テロリズム 第12回 ポスト冷戦の世界 安全保障、国際機構 第13回 グローバリズム 第14回 地域主義の台頭 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 私語を厳に慎むように。教科書は、予習・復習のための教材と認識してください。授業では、教科書の詳細には言及しません。 |
| 教科書 | 野林健他著『国際政治経済学・入門(第3版)』(有斐閣アルマ、2007年) |
| 参考書 | ジョセフ・ナイ著『国際紛争(原書第9版)』(有斐閣 2013年)(この版以前のものでよい)、中西寛他著『国際政治学』(有斐閣、2013年)、ケネス・ウォルツ著『国際政治の理論』(勁草書房、2010年)、飯田洋介著『ピスマルク』(中央公論社、2015年)、ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交50年』(岩波文庫、2000年) |
| 成績評価方法 | 期中試験(60%)、授業態度(10%)、期末試験(30%) 田中朋彦他著『新・国際政治経済学の基礎知識』(有斐閣、2010年)、E, H, カー『危機の二十年』(岩波書店、2011年)、モーゲンソー著『国際政治(上)(中)(下)』(岩波文庫、2013年)等多数。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 国際関係論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | G0790 | 担当教員 | 中西 三紀 | 所属 | 高知大学 人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 米国とメキシコ以南のラテンアメリカ諸国の間には、その距離の近接性にもかかわらず、対立と従属の長い歴史があります。本講義では、その歴史をごく簡潔に紐解いたうえで、とくに1980年代以降の時代に焦点を当て、米国とラテンアメリカの関係が形成されていく過程とその内実、現状を明らかにしていきます。 南北アメリカ関係を理解することは、単にこの地域の実情を理解することにとどまらず、いまだ世界に厳然と存在する先進国と途上国間の格差（南北問題）を理解する一助となるはずで、受講生の皆さんの世界観を広げられるような講義になればと思います。 |
| 授業の進め方 | 毎回レジュメを配付し、それをもとに講義を進めていきます。 授業終了後に質疑応答の時間を設けます。 |
| 達成目標 | (1)南北アメリカ関係を米国およびラテンアメリカの二つの異なる視座から考え理解することができるようになる (2)グローバル化が進展するなかで変化していく南北アメリカ間の関係を理解することができるようになる (3)先進国からのみではない視点に立った世界理解に興味・関心をもつことができようになり、複眼的視点が求められる現代世界において社会的自覚を高めること |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 歴史を知ることは今日の問題の理解につながることにと思っています。そこで本講義では、南北アメリカ間の歴史を、概略的にはありますが振り返ったうえで、グローバル化の進展と南北アメリカ関係について検討していきたいと思っています。授業計画は以下の通りです。なお、授業計画は大体の目安であり、回数が若干前後する可能性があることをあらかじめお断りしておきます。 第1回 オリエンテーション 第2回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降） 第3回 世界大恐慌から第二次世界大戦までの南北アメリカ関係 第4回 冷戦体制と南北アメリカ関係（1） 第5回 冷戦体制と南北アメリカ関係（2） 第6回 南北問題と南北アメリカ関係（1） 第7回 南北問題と南北アメリカ関係（2） 第8回 1980年代の米国経済の相対的地位低下と新自由主義（1） 第9回 1980年代の米国経済の相対的地位低下と新自由主義（2） 第10回 1980年代のラテン諸国における累積債務危機と構造調整策（1） 第11回 1980年代のラテン諸国における累積債務危機と構造調整策（2） 第12回 1990年代の南北協調関係（1） 第13回 1990年代の南北協調関係（2） 第14回 21世紀の南北アメリカ関係（1） 第15回 21世紀の南北アメリカ関係（2） |
| 履修上の注意 | 国際関係論 と併せて受講すると理解が深まると思います。 |
| 教科書 | なし。 |
| 参考書 | 特に指定しませんが、必要に応じて随時参考文献を紹介します。 |
| 成績評価方法 | 期末試験（80％）と、講義への参加姿勢（20％）などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|------------|
| 科目名 | 歴史学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0800 | 担当教員 | 江口 布由子 | 所属 | 高知工業高等専門学校 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 本講義では東中欧ヨーロッパのナショナリズムに焦点をあて20世紀前半の歴史を考察する。 また今日における二つの世界大戦についての歴史認識も、東アジアとの比較や連動を念頭において扱う予定である。 |
| 授業の進め方 | 基本的には講義形式となるが、ミニッツペーパーや講義中の発言を通して双方向的な意思疎通を図りたい。 そのため、受講生には積極的に自ら考え、意見を述べる姿勢を期待する。 |
| 達成目標 | (1) 20世紀前半の歴史を理解する (2) 今日の「歴史問題」についての基礎知識を理解し、複数の見解を比較検討する視座を持つ (3) 歴史全般への関心を持ち、理解できるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 東中欧の帝国 第3回 オーストリア・ハンガリー帝国のナショナリズム(1) 第4回 オーストリア・ハンガリー帝国のナショナリズム(2) 第5回 第一次世界大戦と帝国の解体(1) 第5回 第一次世界大戦と帝国の解体(2) 第6回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(1) 第6回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(2) 第7回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(3) 第8回 ヒトラーの「新秩序」(1) 第9回 ヒトラーの「新秩序」(2) 第10回 ヒトラーの「新秩序」(3) 第11回 戦後の再建 第12回 20世紀前半をめぐる歴史認識(1) 第13回 20世紀前半をめぐる歴史認識(2) 第14回 20世紀前半をめぐる歴史認識(3) 第15回 総論 |
| 履修上の注意 | ミニッツ・レポートを毎授業ごとに提出する。 |
| 教科書 | 適宜、プリントや参考資料を配付する。 |
| 参考書 | Mark Mazower(2000), Dark Continent: Europe's Twentieth Century, Vintage. 南塚信吾(編)(1999)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版社)。 |
| 成績評価方法 | ミニッツ・レポートもしくは小テスト(30%)、試験(50%)、授業への参加姿勢(20%)から総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|----------|------|--------|----|--------------|-------------------------|
| 科目名 | 社会保障・福祉論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | G0810 | 担当教員 | 田中 きよむ | 所属 | 高知県立大学社会福祉学部 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-847-8741(研究室) |
| | E-mail | | | | | kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。 |
| 授業の進め方 | 基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。 |
| 達成目標 | (1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 福祉・社会保障の基本概念 第2回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第3回 社会保障の制度体系 第4回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第5回 措置制度と介護保険 第6回 介護保険制度の基礎構造 第7回 近年の介護保険制度改革の動向 第8回 少子化をめぐる社会状況と要因 第9回 少子化対応への基本的方向 第10回 保育所制度の沿革と行財政構造 第11回 近年の保育所制度の動向 第12回 児童虐待の状況と要因 第13回 児童虐待をめぐる政策動向 第14回 児童諸手当の内容と改正動向 第15回 育児休業制度の内容と改正動向 |
| 履修上の注意 | 下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。 |
| 教科書 | 田中きよむ著『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』（中央法規出版、2014年）；改訂版の方であるので注意すること、必携教科書であるので注意すること。 |
| 参考書 | 講義のなかで、各テーマごとに紹介する。 |
| 成績評価方法 | 学期末試験（80%）および出席状況・受講態度（20%）によって総合評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|----------|------|--------|----|--------------|-------------------------|
| 科目名 | 社会保障・福祉論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | G0820 | 担当教員 | 田中 きよむ | 所属 | 高知県立大学社会福祉学部 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-847-8741(研究室) |
| | E-mail | | | | | kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。 |
| 授業の進め方 | 基本的には、テキストと板書によって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。 |
| 達成目標 | (1) 年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2) 医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3) 障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 年金保険制度の基本的しくみ1 第2回 年金保険制度の基本的しくみ2 第3回 年金制度改革の背景 第4回 年金制度改革の特徴 第5回 年金制度をめぐる今後の方向 第6回 医療保険制度の基本的しくみ1 第7回 医療保険制度の基本的しくみ2 第8回 医療制度改革の背景 第9回 医療制度改革の特徴 第10回 医療制度をめぐる今後の方向 第11回 障害の概念と障害者福祉の理念 第12回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第13回 措置制度と支援費制度 第14回 障害者自立(総合)支援法の構造 第15回 障害者自立(総合)支援法の動向と今後の方向 |
| 履修上の注意 | 下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。 |
| 教科書 | 田中きよむ著『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』(中央法規出版、2014年);改訂版の方であるので注意すること、必携教科書であるので注意すること。 |
| 参考書 | 講義のなかで、各テーマごとに紹介する。 |
| 成績評価方法 | 学期末試験(80%)および出席状況・受講態度(20%)によって総合評価する。 |

を配布して、論理的な文章の組み立て方についても若干の説明を行う予定です。

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 地方自治論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | G0840 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|--------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、地方分権改革など最近の動きに注目しつつ、地方自治の仕組みについて講義します。具体的には、中央地方関係制度（中央政府と地方政府の関係）、地方政府の内部の仕組み（首長、議会、政党、財政、組織、地方公務員）、地方政府の政策（ガバナンス、教育政策、福祉政策）、以上の点を中心に講義していきます。取り上げる材料は、現代の日本の地方制度、地方政府が中心になりますが、比較を通じて日本の相対的な立ち位置を把握するため、他国（主に先進国）の地方制度や過去の日本の地方制度も扱います。 |
| 授業の進め方 | レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 論理と根拠を持って地方自治を理解し、説明できるようになる。 (2) 地方制度と地方自治体の活動を理解する。 (3) 地方自治の仕組みを理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の地方自治(1) 第3回 日本の地方自治(2) 第4回 各国の地方自治(1) 第5回 各国の地方自治(2) 第6回 統治システム(1) 第7回 統治システム(2) 第8回 統治システム(3) 第9回 財政と予算編成 第10回 組織と地方公務員(1) 第11回 組織と地方公務員(2) 第12回 ガバナンス 第13回 教育政策 第14回 福祉政策 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 地方自治論 と地方自治論 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。また、地方自治論 の民主主義とその基本装置（首長、地方議会、選挙）に関係する部分は政治学、そして、行政に関係する部分は行政学 が基礎的な内容になります。地方自治論 を受講するためには必須とは言いませんが、それらを受講すると理解がより深まります。 |
| 教科書 | 使用しません。 |
| 参考書 | 村松岐夫『テキストブック地方自治 第2版』（東洋経済新報社（2010年）、稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣、2011年）、柴田直子・松井望『地方自治論入門』（ミネルヴァ書房、2012年）、磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治 改訂版』（北樹出版、2011年）。 |
| 成績評価方法 | レポートによって評価します（100％）。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為やレポートの不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。レポートのテーマについては授業で説明します。提出は第14回あるいは第15回の授業中とします。それ以外は受け取りません。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|
| 科目名 | 地方自治論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0850 | 担当教員 | 善教 将大 | 所属 | 関西学院大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では「住民による参加や決定」という観点から地方自治について検討する。地方自治とは、中央政府との関係から見た地方政府について、あるいは、地方行政組織の制度的特徴などから解説されることが一般的である。しかしこの講義では、これらの点に最低限留意しつつも「住民」を議論の中心に据えながら、地方自治についての講義を進めていく。 |
| 授業の進め方 | トピック毎にレジュメを配布し、それを用いた講義形式で授業を進めていく。ただし一方方向的な講義とならないように、質疑応答や各トピックに関するディスカッションなども行う予定である。 |
| 達成目標 | (1)地方自治に関する基礎的知識や理解を獲得すること (2)住民（有権者）の意思決定という観点から見た地方自治について、自身の言葉で議論できるようになること |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 各講義のテーマや項目は以下の通りである。 ただし進捗状況などから、内容を変更する場合がある 第1回 イン트로ダクション：講義の進め方、注意事項など 第2回 地方自治とは何か 第3回 地方自治と制度（1）：選挙制度 第4回 地方自治と制度（2）：執政制度 第5回 「有権者」としての地域住民（1）：投票行動の一般理論 第6回 「有権者」としての地域住民（2）：地方選挙下の意思決定 第7回 地方政治と政治参加（1）：政治参加の一般理論 第8回 地方政治と政治参加（2）：統治政治参加とその機能 第9回 個人と集団（1）：自治・町内会活動と地方政治 第10回 個人と集団（2）：NPOの機能と意義 第11回 住民が動かすもの（1）：ソーシャルキャピタルと市民社会の活性化 第12回 住民が動かすもの（2）：地方政府の機能不全とシビックパワー 第13回 住民が動かすもの（3）：熟議による政策形成 第14回 住民が動かすもの（4）：住民による「決断」について 第15回 まとめと今後の課題 |
| 履修上の注意 | 地方自治論、あるいは地方自治論 の一方だけを受講することができる。 |
| 教科書 | 使用しない |
| 参考書 | 講義時に紹介する |
| 成績評価方法 | 試験（1回：100%） |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 行政学 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | G0861 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、民主主義下における行政の役割と行政の仕組みについて講義します。具体的には、どのように政府の方針を決めるのか(民主主義と行政の関係、政治家と行政官僚の関係)、誰が行政を進めていくのか(国家公務員制度、行政の組織)、どのように行政を進めていくのか(日常業務、法案作成、予算編成、ガバナンス)、以上の点を中心に講義していきます。取り上げる材料は、現代の日本の行政が中心になりますが、比較を通じて日本の相対的な立ち位置を把握するため、他国(主に先進国)の行政や過去の日本の行政も扱います。 |
| 授業の進め方 | レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。 |
| 達成目標 | (1) 論理と根拠を持って現代の行政を理解し、説明できるようになる。 (2) 民主政治下における行政の役割と活動を理解する。 (3) 行政の仕組みを理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 政治と行政の関係(1) 第3回 政治と行政の関係(2) 第4回 政治と行政の関係(3) 第5回 国家公務員制度(1) 第6回 国家公務員制度(2) 第7回 国家公務員制度(3) 第8回 行政の組織(1) 第9回 行政の組織(2) 第10回 行政の活動(1) 第11回 行政の活動(2) 第12回 行政の活動(3) 第13回 ガバナンスと行政(1) 第14回 ガバナンスと行政(2) 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 行政学 と行政学 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。また参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。また、民主政治の基本的な仕組みについては、政治学 を受講すると理解がより深まります。加えて、地方の行政、中央と地方の関係については、この講義では扱いません。この部分に関心のある学生は、地方自治論 を受講してください。 |
| 教科書 | 使用しません。 |
| 参考書 | 真淵勝『行政学』(有斐閣、2009年)、曾我謙悟『行政学』(有斐閣、2013年)、村上弘・佐藤満『よくわかる行政学』(ミネルヴァ書房、2011年)。 |
| 成績評価方法 | レポートによって評価します(100%)。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為やレポートの不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。レポートのテーマについては授業で説明します。提出は第14回あるいは第15回の授業中とします。それ以外は受け取りません。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------|
| 科目名 | 社会学 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | G0880 | 担当教員 | 遠山 茂樹 | 所属 | 高知大学人文学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | コミュニケーションの社会学 社会学は現代の社会現象の実態やその原因を解明しようとする学問である。このような社会の実態や因果関係などを、人と人との相互作用やコミュニケーションという人間行為から捉えようとするのが本授業である。 |
| 授業の進め方 | 授業は講義形式で行い、教科書に沿って進める。必要に応じ、こちらで準備したレジメを配布する。 授業中にも簡単な課題を与えることもある。 期末試験を実施する。 |
| 達成目標 | (1) コミュニケーションについて理解する (2) コミュニケーションを通して、社会現象の様々な局面について社会的視点から理解できるようなる。 (3) 日常生活におけるコミュニケーションに対しても自覚的になり、主体的に社会を理解する姿勢を身につける。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 本授業では社会現象をコミュニケーションという相互作用からの視点で捉えようとする社会学について取り上げる。 具体的にはコミュニケーションの社会学とは何かを説明し、その後コミュニケーションの社会学でなにかができるかについて、「対話として」「遊戯として」「非対称の」「フラット化する」コミュニケーションという視点から考察していく。 授業計画としては以下の内容を予定している。 第01回 コミュニケーションと社会学 第02回 対話と遊戯としてのコミュニケーション 第03回 パラドックスと接続としてのコミュニケーション 第04回 単独性とコミュニケーション 第05回 対話というコミュニケーション 第06回 権力というコミュニケーション 第07回 メディアというコミュニケーション 第08回 遊びと笑いというコミュニケーション 第09回 恋愛というコミュニケーション 第10回 友愛というコミュニケーション 第11回 家族というコミュニケーション 第12回 教育というコミュニケーション 第13回 ケアというコミュニケーション 第14回 フラット化するコミュニケーション 第15回 暴力と悪というコミュニケーション 第16回 期末試験 |
| 履修上の注意 | 社会学 を履修していなくてもよい。 |
| 教科書 | 『コミュニケーションの社会学』長谷正人・奥村隆編著、有斐閣アルマ(2009) |
| 参考書 | 『社会学小辞典 新版増補版』濱嶋朗ほか編、有斐閣(2005年) 『社会学がわかる事典』森下伸也著、日本実業出版社(2000年) |
| 成績評価方法 | 2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | ジェンダー論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | G0890 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、ということについて論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。本講義は現代社会において欠落しがちな重要な視角を学ぶことを通し、受講者の社会的及び職業的自立を支援することを目指します。 |
| 授業の進め方 | プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。折にふれ、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。毎回、コメント用紙を配布しますので、意見や疑問等に利用してください。 |
| 達成目標 | (1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知り、その予防や防止につなげることができるようになる。 (6) ジェンダーの視点を身につけ、社会人、職業人としての基礎的教養とする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 第3回 (1)西洋の場合 第4回 (2)日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 第6回 (1)男女賃金格差の実態と背景 第7回 (2)間接差別とガラスの天井 第8回 社会保障とジェンダー 第9回 (1)制度設計のジェンダー・バイアス (2)年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 第11回 (1)国際比較 (2)保育・育児休業と子育て支援 第12回 教育とジェンダー 第13回 メディア・文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティックバイオレンスとジェンダー 第15回 私たちのつくる今後の社会とジェンダー(授業のまとめ・討論) 概ね以上のように計画していますが、学生の興味関心、社会情勢等により多少の変更がなされる可能性があります。 |
| 履修上の注意 | 日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたたかわせてほしいと希望します。 |
| 教科書 | 『ジェンダー論をつかむ』千田有紀・中西祐子・青山薫著、有斐閣(2013年)。 授業時にはプリントを用意し、プロジェクターにより画像や写真等を映し理解を深めるようにします。 |
| 参考書 | 『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、ミネルヴァ書房(2013年)、『お姫様とジェンダー』若桑みどり著、筑摩書房(2003年)、『岩波女性学事典』井上輝子他編著、岩波書店(2002年)、『男女共同参画統計データブック2012』国立女性教育会館著、ぎょうせい(2012年)等、授業時に適宜紹介。 |
| 成績評価方法 | レポート(50%)とテスト(40%)を主としますが、講義や討論への参加状況、各種提出物等を加味(10%程度)し、総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | 生涯教育論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0894 | 担当教員 | 内田 純一 | 所属 | 高知大学教育研究部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 「人はどういふ学習や文化と出会い、どういふ人々とのつながりの中で、ものごとを見つめる力を確かにし、豊かな感性を育て、人間的資質を高めることができるのだろうか。」このことを広くたずね、学校教育以外で行われる学習文化活動を数多く取り上げながら、そこに見られる「学び合い」「育ち合い」の関係における人間の成長と発達を考察して、生涯学習・社会教育に関する基礎的理解を深める。 |
| 授業の進め方 | パワーポイント・資料・VTRを用いながら講義を中心に進めます。 |
| 達成目標 | (1) 「教育」と「学習」の本質を理解する。 (2) 日本の社会教育・生涯学習を歴史的に理解する。 (3) 社会教育・生涯学習に関する国際的動向を理解する。 (4) 上記を踏まえ、「学習を保障する」法制度・施設・職員の在り方を理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | (1) オリエンテーション 授業の進め方 (2) 生涯学習・社会教育の現場から (3) 生涯学習・社会教育の現場から (4) 生涯学習・社会教育の現場から (5) 生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的的理解 (6) 生涯学習・社会教育に関する理論的・歴史的的理解 (7) 生涯学習・社会教育の国際的動向 (8) 生涯学習・社会教育の国際的動向 (9) 生涯学習・社会教育に関する法・制度 (10) 生涯学習・社会教育に関する施設(公民館) (11) 生涯学習・社会教育に関する施設(図書館) (12) 生涯学習・社会教育に関する施設(博物館) (13) 生涯学習・社会教育に関する施設(学校) (14) 生涯学習・社会教育に関する専門職員 (15) 生涯学習・社会教育に関する専門職員 |
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 特になし。授業中にプリントを配布します。 |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介します。 |
| 成績評価方法 | 試験(50%)、授業への参加姿勢(50%)などから総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------------|------|------|----|---------------------------------------|
| 科目名 | 歴史学特殊講義（地域史） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | G0900 | 担当教員 | 公文 豪 | 所属 | 高知近代史研究会、土佐史学会、高知市自由民権論の継承と発展を推進する委員会 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 講義テーマ：「植木枝盛の思想と生涯」 自由民権運動の理論的指導者・植木枝盛は、近代日本が生んだ最高の政治思想家として高い評価を得ている。彼は平易な文体で民主主義の神髄を当時の民衆に解き明かすことを心がけ、おびたしい論文、著作を残して36年の短い生涯を閉じた。幅広い読書と深い思索から紡ぎ出された独自の思想を素材に、現在、私たちが直面する民主主義の根本問題を考察する。 |
| 授業の進め方 | 毎回、レジュメと教科書に基づいて講義する。 |
| 達成目標 | (1) 植木枝盛の自由民権思想とその生涯を理解する。 (2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。 (3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。 (4) 高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。 |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | 第1回 植木枝盛の生涯 第2回 植木枝盛の自由民権論 第3回 植木枝盛の地方自治論 第4回 植木枝盛の自由教育論 第5回 平和思想の系譜(1) 第6回 平和思想の系譜(2) 第7回 植木枝盛と女性参政権 第8回 植木枝盛の憲法構想 第9回 植木枝盛憲法草案と日本国憲法 第10回 実践家としての植木枝盛(酒屋会議など) 第11回 植木枝盛の社会改良論 第12回 植木枝盛の女権論(1) 第13回 植木枝盛の女権論(2) 第14回 植木枝盛と女たち 第15回 帝国憲法発布と植木枝盛 |
| 履修上の注意 | 2014年度以前の「地域史」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。出席をとります。教科書・参考書通読のこと。 |
| 教科書 | プリント配付 |
| 参考書 | 『植木枝盛選集』家永三郎編、岩波文庫(2007年) 『史跡ガイド・土佐の自由民権』公文豪著、高知新聞社(2013年) |
| 成績評価方法 | レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢10%。 |

| | | | | | |
|-------|--------------|------|------|----|----|
| 科目名 | 政治学特殊講義（平和学） | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0960 | 担当教員 | 溜 和敏 | 所属 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 平和とは何でしょうか。まずは、戦争や暴力のない状態をイメージするでしょう。しかし、戦争さえなければ平和と言えるでしょうか。あるインドの経済学者は、戦争は行われていないが貧困などによって平和とは言いがたい状態を、「平和ならざる状態」と呼びました。平和研究では、このように平和の意味や、その実現のための方策を考えてきました。本科目の前半では平和研究の動向を概説し、後半では具体的な事例に即して平和を考えます。 |
| 授業の進め方 | 通常の講義形式で行います。できれば受講生のみなさんにも発言をしてもらい（ただし不規則な発言は認めません）、双方向でのやりとりをしながら授業を進めたいと考えています。予習は要りません。各回の授業中には、意見をまとめる課題に取り組んでもらう時間を設けます。おもに後半の回では、効率的な学習のため、映像資料を多用します。なお、日本の事例を扱わず、担当教員の専門領域である南アジアの事例をとりあげることが多くなります。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> 平和という概念をめぐる議論について知ること 平和を実現するための方策について、考えられるようになること 平和をめぐる南アジアの状況について知ること |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 平和とは何か：平和概念の整理学 第3回 ヨハン・ガルトウングと「構造的暴力」 第4回 アマルティア・センと「人間の安全保障」 第5回 平和を守る方法（1） 第6回 平和を守る方法（2） 第7回 平和を構築する方法（1） 第8回 平和を構築する方法（2） 第9回 世界は悪くなったのか？『暴力の人類史』から考える（1） 第10回 世界は悪くなったのか？『暴力の人類史』から考える（2） 第11回 モーハンダース・ガンディーと非暴力（1） 第12回 モーハンダース・ガンディーと非暴力（2） 第13回 原子力と平和：インドの事例から 第14回 マラーラ・ユースフザイを通じて平和と安全保障を考える（1） 第15回 マラーラ・ユースフザイを通じて平和と安全保障を考える（2） 注：上記スケジュールは変更する可能性があります |
| 履修上の注意 | 主体的に考える意欲のある受講生の参加を歓迎します。 |
| 教科書 | 指定しません。 |
| 参考書 | 滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学 地球社会を理解するために』（有信堂、2015年） 高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（筑摩書房、2000年） 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』（有斐閣、2011年） |
| 成績評価方法 | 「マイブーン・ピンカー『暴力の人類史（上・下）』（書志社、2015年）」を「試験（50%）」と平常点（50%）で評価します。試験は持ち込み不可、参照不可の論述式で行います。平常点は授業への参加と授業中の提出課題に基づいて評価します。このほか、指定したテーマと様式に基づいて提出されたレポートに対して、最大で10%の加点を行います（初回授業日に発表します）。 |

| | | | | | |
|-------|------------------|------|--------|----|----------|
| 科目名 | 歴史学特殊講義 (西洋近現代史) | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | G0970 | 担当教員 | 柳川 平太郎 | 所属 | 高知大学教育学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代史編として、主として第一次世界大戦以降の20世紀前半史を中心として比較史的に考察します。最初に、現代史の出発点として「総力戦」となった第一次世界大戦を概観したあと、第一にロシア革命の特質を把握しながら「社会主義」体制と特にそこでのスターリン体制への移行過程を、第二に「ヴェルサイユ体制」下でのイタリアやドイツにおける「ファシズム」の成立過程を検討します。更に、「大恐慌」の特色を把握したあと、ファシズム諸国と英米等の民主主義諸国の対抗関係をクローズアップしながら第二次世界大戦を概観し、ホロコーストや戦後「冷戦」体制の成立過程も検討していきたいと思ひます。 |
| 授業の進め方 | 主として、ミネルヴァ書房刊『西洋の歴史・近現代史編』（増補版、1998年）等の代表的項目を選びながら、毎回配布の資料プリントに基づいて講義形式の授業を行います。その際、出来る限りビデオ映像資料を活用する方針です。 |
| 達成目標 | (1)政治史の理解にとって重要な概念（ファシズム・冷戦等）を理解できるようにする。 (2)イギリス・フランス・ドイツなど西欧各国の比較を通して、各国の特質を把握する。 (3)現代デモクラシーの理解に関わる西欧社会の特色を東欧との比較から理解していけるようにする。。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 今年度は現代史編として以下の諸項目を中心に20世紀史の検討を行います。出来る限り映像資料を用いながら授業をすすめる予定です。 第1回 西洋現代史の対象と時代区分 第2回 序論 「ウクライナ」問題の歴史的起源 第3回 第一次世界大戦へ 第4回 総力戦としての第一次世界大戦 第5回 ロシア革命の展開 第6回 イタリア・「ファシズム」の成立 第7回 ワイマール共和国とヒトラー 第8回 スターリンニズムの成立と展開 第9回 「ジャズ・エージ」--1920年代におけるアメリカ合衆国の繁栄 第10回 相対的安定期から「大恐慌」後の緊張関係へ 第11回 イギリス産業革命の歴史的前提 第12回 第二次世界大戦の勃発 第13回 ホロコーストと「冷戦」体制の端緒 第14回 戦後東欧の「社会主義」体制の展開と西欧における「統合」への始動 第15回 展望 |
| 履修上の注意 | 2012年度以前「西洋近現代史」を履修済の場合この科目を履修することはできません。 高等学校地歴必修世界史（世界史A程度で可）の基礎知識を前提としますが、毎回当該領域の高校教科書プリントを配布しますので、未履修でも可能です。 |
| 教科書 | 購入の必要はありませんが、『西洋の歴史・近現代編』増補版、ミネルヴァ書房（1998年）等の一部を参考にすすめる予定です。 |
| 参考書 | エリック・ホブズボーム著、河合秀和訳『20世紀の歴史--極端な時代』上・下、三省堂、1996年、木畑洋一『20世紀の歴史』岩波新書、2014年など。 |
| 成績評価方法 | 各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|---------------|------|------------|----|--------------------------|
| 科目名 | 現代社会特殊講義（環境論） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | G0980 | 担当教員 | 北條正司・藤原憲一郎 | 所属 | 高知大学理学部(北條) 高知高専名譽教授(藤原) |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。</p> <p>エネルギーと環境に関しては、平成23年3月の福島第一原発事故を契機に、日本の電力需給と環境保全の両立が大きな課題となり、国民生活や政治のあり方にまで大きな影響を与えようとしている。後半の講義では、日本のエネルギー需給と経済発展を振り返りながら、今後のエネルギーと環境問題を考える。</p> |
| 授業の進め方 | <p>半期（15週）の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を藤原が担当する。北條は教科書を使い、藤原は配布資料とスライドを使った講義になる。</p> |
| 達成目標 | <p>(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。</p> <p>(2) 経済発展とエネルギー・環境問題の過去と現状を理解し、今後のエネルギー問題に関して自分の考えをまとめることができる。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>前半（北條担当）は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半（藤原担当）は、福島原発事故と原子力エネルギーの問題点、日本や世界の新しいエネルギー政策と現状、地球温暖化への取り組みについて講義する。</p> <p>前半</p> <p>第1回 バイオエネルギー（アルコール発酵）の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム</p> <p>後半</p> <p>第8回 日本の電力需給の推移と原子力発電 第9回 福島第一原発事故時の対応と過酷事故時の課題 第10回 福島第一原発事故の社会的影響と安全対策 第11回 核燃料サイクル問題と核廃棄物処理問題 第12回 化石燃料による発電方式の高効率化と環境への対応 第13回 代替エネルギーとしての再生可能エネルギーと課題 第14回 日本のエネルギー政策と省エネルギー対策 第15回 世界のエネルギー事情と地球環境問題</p> |
| 履修上の注意 | <p>2012年度以前の「環境論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。出席をとります。</p> |
| 教科書 | <p>前半：『酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール』北條正司・能勢晶共著、光琳（2100円）</p> |
| 参考書 | <p>授業時にそれぞれ紹介します。</p> |
| 成績評価方法 | <p>成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度（40%）、レポート（50%）と小テスト（10%）などを評価します。 後半は講義への参加姿勢（40%）、レポート（50%）と小テスト（10%）にもとづき評価します。</p> |

| | | | | | |
|-------|------------------|------|------|----|----------|
| 科目名 | 現代社会特殊講義 (マスコミ論) | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | G0990 | 担当教員 | 吉岡 至 | 所属 | 関西大学社会学部 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代社会における社会的なコミュニケーションのなかで、重要な役割を担っている新聞やテレビなどのマスメディアの社会的機能を、さまざまな事例や理論を用いて検討する。また、マス・コミュニケーション過程やメッセージ交換の特質をふまえて、個人や社会にもたらされるさまざまな効果・影響について考える。 |
| 授業の進め方 | 授業は基本的に講義を中心に行うが、理論の説明だけでなく、事例の紹介をしながら、マス・コミュニケーションの働きを検討していく。また、授業で取り上げるテーマについてのディスカッションを行い、マス・コミュニケーションの機能や効果の見方や論点を共有し、授業内容の理解を深めていく。くわえて、受講生がそれぞれに課題を設定して、レポートをまとめ、プレゼンテーションを行う機会を設ける予定である。なお、授業は受講者数によって弾力的に運用する。 |
| 達成目標 | (1) マス・コミュニケーションの機能や効果についての専門的な知識を修得する (2) 今日の社会現象とマス・コミュニケーションとの関係性を理解できるようになる (3) 現代社会におけるマス・メディアの役割を考察できるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 授業ガイダンス 第2回 「マスコミ」という言葉、マス・コミュニケーション過程の特質 第3回 マス・コミュニケーションの機能と効果 第4回 マス・メディアと社会的パニック 火星人がやってきた 第5回 マス・メディアと社会的パニック トイレットペーパーが消えた 第6回 ニュース報道と風評被害：環境汚染・原発事故報道 第7回 大衆説得とキャンペーン効果 「愛は地球を救う」 第8回 大衆説得とキャンペーン効果 イメージ選挙とプライミング効果 第9回 ニュース報道と社会的争点：アジェンダセッティング機能とフレーミング効果 第10回 マス・メディアの世論形成力：「沈黙の螺旋」と同調圧力 第11回 青少年への暴力描写の影響：観察学習とモデリング効果 第12回 マス・メディアが描く現実像：いわゆる「やらせ」問題 第13回 マス・メディアのメッセージの特質：デノテーションとコノテーション 第14回 社会的メッセージの解釈・解釈とイデオロギー性：優先的・支配的読み 第15回 「マス・コミュニケーションの機能と効果」を再考する |
| 履修上の注意 | 2012年度以前の「マスコミ論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 |
| 教科書 | 特に指定しない。 授業時に、適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | 『マス・コミュニケーション効果研究の展開〔改訂新版〕』田崎篤郎・児島和人編、北樹出版（2003年） 『テレビはどう見られてきたのか』小林直毅・毛利嘉孝編、せりか書房（2003年） 『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』田村紀雄・林利隆・大井眞二編、（2004年）『メディアと政治 改訂版』清島郁夫・竹下俊郎・荒川洋一、有斐閣アルファ（2010年）の参加姿（20%）、プレゼンテーション（10%）のほか、授業中に指定する。そのほか、授業中から、授業のテーマ・内容の理解度を総合的に評価する。 |
| 成績評価方法 | そのほか、授業中から、授業のテーマ・内容の理解度を総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 現代社会論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | G1000 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 暮らしに関わる現代社会の問題を一緒に考えて見ませんか。 就職が厳しいのはなぜ? なぜ、非正規労働が多いのか? 少子高齢化への対応は? こうした問題の実態と解決の方向についてみなさんとともに考えていきます。 生きていくこと、働くことに関わる諸問題を多面的に見ていく授業です。世界と日本の事例をヒントに今後のあり方を考えていきましょう。 |
| 授業の進め方 | 1.授業は、レジュメと資料により講義形式で行いますが、適宜、討論やワークショップを行い双方向授業を取り入れます。 2.映像資料を使用します。 3.授業内でコメント作成を行います。 4.質疑を歓迎します。 |
| 達成目標 | 1.社会問題が自分の日常生活と密接に関連することを理解できるようになる。 2.社会問題の要因・背景を説明できる基礎力を要請する。 3.世界と日本の事例から、改善に向けての示唆、ヒントを得る力を養う。 4.今後の日本社会のあり方について自分なりの意見をまとめることができるようになる。 5.講義を通じて、社会参加の重要性を認識し、社会の一員としての自覚を持つことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 概要説明：現代社会の抱える問題の多様性と私たちの日常生活、授業の進め方 第2回 地球環境問題の深刻化 第3回 (1) 地球温暖化とオゾン層破壊への取り組み 第4回 (2) 生物多様性とナショナルトラスト 第5回 情報化とグローバル化の進展 第6回 経済の空洞化と雇用環境の悪化 第7回 (1) 経済発展と企業の多国籍化・産業空洞化 第8回 (2) 非正規雇用の拡大とデーセント・ワーク 第9回 少子高齢化と人口減少 第10回 (1) 経済成長と長命化・少子化の進行 第11回 (2) 少子化の背景と社会政策・福祉 第12回 格差拡大とジェンダー・家族・福祉 第13回 (1) 貧困の連鎖と防止策 (2) 子どもの貧困とヘッドスタート 第14回 限界集落と縮小都市 第15回 全体総括：今後の社会のあり方と私たちの関わり |
| 履修上の注意 | 折に触れて新聞、ニュース、雑誌、web等を通じて社会問題に関心を寄せることを期待します。 |
| 教科書 | レジュメ、資料を配布し、映像・画像資料を視聴します。 |
| 参考書 | 『環境科学入門』富田豊編 学術図書出版社(2006年)、『よくわかる社会政策 第2版 雇用と社会保障』石畑遼太郎等編著、ミネルヴァ書房、『データで読む家族問題』湯沢雅彦著、日本放送出版協会(2003年)等、その都度授業で紹介します。 |
| 成績評価方法 | 試験(40%)、レポート(50%)としますが、講義への参加姿勢(課題提出・討論参加・コメント作成)など(10%)を含め総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 高知学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 | |
| 科目コード | H0900 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 高知県は産業の面で後進県とされますが、地域資源を生かす、あるいは独自の技術開発等により、全国的にみても特色のある産業が存在しています。こうした産業の実態に触れ、産業の存立基盤、立地上の特性等を学ぶことにより、今後の地方振興を考える時に必要な基礎的な教養を身につけてみませんか。 |
| 授業の進め方 | 授業は、学内での講義及び、現地でのフィールドワークを組み合わせで行います。 授業を通して得た知識をもとに、現地で産業の実態を学び、携わる人々へインタビューし、グループで討論をし、問題意識を掘り下げます。必要な資料は補い、調査結果をまとめ、各自レポートに仕上げます。 |
| 達成目標 | (1) 高知県の産業の課題と解決の方向について問題を説明する力を養うことができる。 (2) 実体験と調査から課題を見つけ出す基礎力を養うことができる。 (3) 地域調査を体験することにより、将来、自治体・企業等で働く社会人として必要な対事業所コミュニケーション能力等職業上のスキルを学ぶことができる。 (4) 地域の振興策を考え、行動を起す基礎力を身に付けることができる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 後期の週末を利用した集中講義として計画しています。現地フィールドワークは演習となります。 第1日～2日目 第1回 全体ガイダンス(全体計画、調査概要、調査心得等) 第2回 全国と比べた高知県の産業、地位と特色 第3回 高知県の紙産業の歴史と特色 第4回 戦後高知の製紙業 第5回 高知における紙業の現況と課題 * 講義を受ける中で、学生は現地調査における各自のテーマを考え設定します。 調査目的等により、グループ分けを行います。 第3日～5日目 第6-12回 生産・販売等の実態を現地に訪ねるフィールドワーク 訪問先 (1) 和紙原料の生産・加工 見学と聞き取り (2) 手漉き和紙生産業 見学と聞き取り 手漉き和紙生産体験 (3) 不織布生産工場 見学と聞き取り (4) テッシュペーパー生産工場 見学と聞き取り (5) 雑種紙生産工場衛生用紙 見学と聞き取り (6) 衛生用紙生産工場 見学と聞き取り (7) 機能紙生産工場 見学と聞き取り (8) 紙製品卸・販売業 見学と聞き取り (9) いの町紙の博物館 見学と聞き取り (10) 販売・体験・観光複合施設 見学と聞き取り、体験 第6日目 第13-15回 調査結果のまとめと発表(プレゼンテーション) 調査結果に関し、グループ及び全体討論を行い、問題を掘り下げます。 |
| 履修上の注意 | 各所属の調査結果をまとめる移動関係者管理代は各自の負担を必ず負担し(詳細後日)。学外フィールドワークが行われま 調査後、学生練習簿を交際関係者管理代に必ず届出を提出し、履修関係のある服装で筆記具・メモ持参のこと。現地の人 々の支援で成立する事業です。感謝の気持ちを大切に行動し成果に結び付けるよう期待します。 *上記日程は調整中のため、変更されることがあります。詳細は後日掲示されますので、受講希望者は注意して 下さい。 |
| 教科書 | レジュメ・資料を配布します。 |
| 参考書 | 「紙漉きの町ー伊野ー」池谷江理子(『歴史地域の変容』山崎謹哉他編、大明堂(2000年)pp.18-34所収) 他、授業中に適宜紹介します。 |
| 成績評価方法 | レポート(60%)、発表(プレゼンテーション)(25%)、講義・フィールドワークへの参加姿勢・プロセス評価(15%)から総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 高知学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 | |
| 科目コード | H0902 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この講義では、2015年11月15日に予定されている高知県知事選挙とそれに対する選挙管理委員会および明るい選挙推進協会の啓発活動を対象に実地調査を行います。この実地調査を通じて、若者の低投票率など選挙にかかわる問題点の抽出、その改善点などを検討していくことが目標です。現時点では、高知県知事選挙を予定しておりますが、もしかしたら高知市長選挙、あるいは両方に変更するかもしれません。 |
| 授業の進め方 | 実地調査を行い、それぞれの提言をまとめてもらいます。受動的な授業ではなく、能動的な授業ですので、積極的に参加することが求められます。 |
| 達成目標 | (1) 政策提言の手続きを理解する。 (2) 実地調査の方法を学習する。 (3) 若者の低投票率など選挙にかかわる問題点を理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 授業計画の詳細な日程は未定です。おそらく受講生もそれほど多くないと思いますので、受講生の皆さんと都合の良い日程を組んでいきたいと考えています。高知県知事選挙(高知市長選挙)が11月15日に実施されますので、実地調査は10、11月を中心に、昼間や土日に行います。基本的には、すべてに参加できることが受講の条件になります。以下にスケジュールの予定を掲載します。参考にしてください。 第1回 オリエンテーション【講義・演習】 第2～4回 実地調査にむけて【講義・演習】 第5、6回 実地調査【実習】(1) 第7、8回 実地調査【実習】(2) 第9、10回 実地調査【実習】(3) 第11、12回 実地調査【実習】(4) 第13～15回 実地調査のまとめ【講義・演習】 |
| 履修上の注意 | 上にも書いたように、基本的には、すべてに参加できることが受講の条件になります。また、実地調査を行うので、学生教育研究災害傷害保険(学研災:基礎ゼミで最初に加入してくださいと言われた保険のこと)に加入しておいてください。後期の受講科目と重ならない時間に開講します。加えて、池谷先生の「高知学」とは日程が重ならないように調節しますので、両方の受講が可能です。 |
| 教科書 | 使用しません。 |
| 参考書 | 講義中に紹介します。 |
| 成績評価方法 | 実地調査への参加態度(50%)、提言をまとめたレポート(50%)によって評価します。ただし、他の受講生の迷惑となる行為やレポートの不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。レポートについては授業で説明します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|
| 科目名 | 高知学 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 |
| 科目コード | H0906 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 高知や地方の実態及び将来に関し、法学・経済学・政治学等の各専門分野からオムニバス方式で講義を展開し、卒業し、社会に出るに先立ち、明日の地域について考える機会とします。また、冬季に集中講義を持つことにより、学生に単位修得ひいては卒業の機会を提供します。 |
| 授業の進め方 | 教員・テーマにより進め方は多少異なります。概ね講義形式を主としますが、折にふれ討論等を行います。適宜、プリント・資料を配布し、プロジェクター等を使用します。 |
| 達成目標 | 1、高知及び地方が抱える法的・経済的・社会科学的諸問題が理解できるようになる。 2、高知や地方の特性を社会科学的側面から理解し、今後の地域づくりに繋げる基礎知識とする。 3、高知及び地方が抱える現代的課題の背景や解決への取り組みを把握できるようになる。 4、高知及び地方の将来に関し、多面的に考える力を培い、社会に活かす準備とする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 次の日程で行います。 詳細は別途掲示される講義の説明をご覧ください。 第1回 2月9日(火)1時間目 高知学 開講にあたって 細居俊明 介護保険における保険者自治(1) 根岸 忠 第2回 2月9日(火)2時間目 介護保険における保険者自治(2) 根岸 忠 第3回 2月10日(水)1時間目 地方自治制度について 小林直三 第4回 2月10日(水)2時間目 地域を担う市民の育成と高知短期大学 小林直三 第5回 2月12日(金)1時間目 地方企業と事業承継 菊池直人 第6回 2月12日(金)2時間目 高知県と私的生活保障について 菊池直人 第7回 2月13日(土)13:00~14:30 高知にある企業の全体像 梶原太一 第8回 2月13日(土)14:40~16:10 高知の上場企業の分析(ミロク、ニッポン高度紙工業、技研製作所、兼松エンジニアリング、四国銀行、高知銀行) 梶原太一 第9回 2月13日(土)16:20~17:50 高知山本病院事件から日本の精神医療を考える 田中康代 第10回 2月14日(日)13:00-14:30 高知の再生と移住促進 細居俊明 第11回 2月14日(日)14:40-16:10 高知の第6次産業化の可能性 細居俊明 第12回 2月15日(月)1時間目 高知県における市町村議員の問題点 清水直樹 第13回 2月15日(月)2時間目 同上(ディスカッション) 清水直樹 第14回 2月16日(火)1時間目 高知における産業の発達と地域的条件 池谷江理子 第15回 2月16日(火)2時間目 高知の雇用におけるジェンダー格差の特質と背景 池谷江理子 高知学 を終えるにあたって 細居俊明 |
| 履修上の注意 | 毎回、授業時に渡される用紙にコメント等を記入の上、提出して下さい。なお、各教員はレポート課題を出しますので、そのうち一つを選び期限までに提出して下さい。 |
| 教科書 | 1-2回：小林直三、根岸忠、薄井信行編『地域に関する法的研究』（新日本法規出版、2015年）、初回授業時までに用意しておくこと。 3-15回：授業時にプリントを配布する。 |
| 参考書 | 1-2回及び7-15回：授業時に適宜紹介する。 3-6回：小林直三・根岸忠・薄井信行編『地域に関する法的研究』（新日本法規出版、2015年） |
| 成績評価方法 | 提出されたコメント30%、レポート70%を基本として総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|-------------|
| 科目名 | 外書講読 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | H1000 | 担当教員 | 福江 満子 | 所属 | 高知県立大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 将来、医療系に関する職場で働くことを想定して書かれたエッセイを読み進めることによって、基本的な英文の読解力を養いつつ将来の仕事に直結した英語でのコミュニケーション力を養います。CDつきの実践的な内容のテキストを使用することで、音読を繰り返し練習して、使える英語知識の定着を図ります。 |
| 授業の進め方 | 授業はテキストに沿って進めます。予習として、前もって文章を読み内容を理解しておいてください。クラスでは詳しい内容把握、語彙の確認、文法解説などを各ユニット問題で確かめます。またロールプレイなどを通し実生活で応用できる活動を行います。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) まず比較的簡単な英語の文章の概要がつかめるようになる。 (2) 次にリスニングを通しての内容把握が可能になる。 (3) ESPにより読解を通じて語彙力を強化する (4) 音読を利用して、英語のリズムを体得し、学んだことをコミュニケーションできるようにする。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 1 What Worries Barbara? 第3回 Unit 2 That's Mama's Hair! 第4回 Unit 3 Menstrual Problems 第5回 Unit 4 Right or Left? 第6回 Unit 5 How to Give First Aid 第7回 Unit 6 A Blind Pianist 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Unit 7 Are You Being Abused? 第10回 Unit 8 Giving Blood 第11回 Unit 9 Living a Healthy Life 第12回 Unit 10 Is the Treatment Different or Not? 第13回 Unit 11 Oh, Poor Elderly People! 第14回 Unit 12 What Is Homeopathy? 第15回 後半復習とまとめ |
| 履修上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 外書講読 との連携はありません。 (2) 対象者は主として編入希望者となりますが、必ずしもそれに限定しません。実践的な英文を読むことに関心のある人も積極的に受講してください。 |
| 教科書 | 『Take Care:Communicative English for Nursing and Healthcare』 山崎朝子・笹島 茂 著 2011年発行 三修社 |
| 参考書 | なし |
| 成績評価方法 | 授業への積極的参加と課題に対する取り組み、予習(20%) 英文内容、語彙理解の試験(80%) |

| | | | | | |
|-------|----------|------|-------|----|-----------|
| 科目名 | キャリアデザイン | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | H1010 | 担当教員 | 柳井 正持 | 所属 | 高知大学非常勤講師 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | グローバル社会における産業構造・職業構造に触れながら、現状の職業についての知識・情報の大切さを知り、自分の生き方・働き甲斐と職業との関係について学ぶ。 |
| 授業の進め方 | プリントと新聞記事等を資料とし、質疑意見等含めて進める。 |
| 達成目標 | (1) 働くことの意味を理解する。 (2) 職業や経済社会について理解する。 (3) 自己理解を深め職業と自己実現・生きがいについて理解する。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション アンケート 第2回 キャリア・デザインとは 第3回 職業とは・・・とらえ方 職業観の移り変わり 第4回 職業と社会・・・情報化社会 第5回 働くとは・・・職業的規範 職業に対する意識 第6回 個人と職業・・・レディネス 規制するものは何か 第7回 自己と職業のかかわり 第8回 自己理解の意味・方法 第9回 人との出会い・・・チャンスのアンテナ 第10回 学生期のキャリア・ビジョン 第11回 職業選択と自己理解 第12回 働き甲斐 第13回 職業意識・・・労働の人間化 第14回 自己実現と職業・生き方・生きがい 第15回 職業をめぐる今日的な課題 |
| 履修上の注意 | 新聞をはじめ多くの情報を常に得ていることが望ましい。 |
| 教科書 | そのつどプリント等を配布する。 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |
| 成績評価方法 | 試験(80%)・レポート・発表等(20%)を考慮しながら総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 消費生活論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 | |
| 科目コード | H1012 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。 |
| 授業の進め方 | 消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。 |
| 達成目標 | <p>(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。</p> <p>(2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。</p> <p>(3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。</p> <p>第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識</p> <p>講義の順序に変更がある場合もあります。</p> |
| 履修上の注意 | 公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。 |
| 教科書 | 毎回、講義レジュメを配布します。 |
| 参考書 | 講義のなかで紹介します。 |
| 成績評価方法 | 毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。 |

| | | | | | |
|-------|-----------------|------|---------|----|--------|
| 科目名 | 社会科学演習 ・ (専門ゼミ) | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | H1020 | 担当教員 | 専任教員複数名 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。 |
| 授業の進め方 | 10名程度の少人数で双方向的に進める。 |
| 達成目標 | |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 開講時に担当教員が説明する。 |
| 履修上の注意 | 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 各担当教員から説明がある。 |

| | | | | | |
|-------|-----------------|------|---------|----|--------|
| 科目名 | 社会科学演習 ・ (専門ゼミ) | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | H1020 | 担当教員 | 専任教員複数名 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。 |
| 授業の進め方 | 10名程度の少人数で双方向的に進める。 |
| 達成目標 | |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 開講時に担当教員が説明する。 |
| 履修上の注意 | 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 各担当教員から説明がある。 |

| | | | | | |
|-------|------------------|------|---------|----|--------|
| 科目名 | 社会科学演習（文章能力養成ゼミ） | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | H1030 | 担当教員 | 専任教員複数名 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理性を持ちつつ問題に対する自己の見解を展開し、比較的長い文章を書く能力を育成する。これは社会において必要とされる文章作成能力を養成することになる。 |
| 授業の進め方 | 受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行う。 |
| 達成目標 | (1) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (2) 基礎知識を基に問題に対する合理的な考察を行えるようになること (3) ある程度の読解力を前提とし、レポートなどの比較的長い文章を論理的に書けるようになること |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 演習は概ね次の3つの要素で構成される。 現代社会の基礎知識理解 レポート等の書き方講座 学生による文章作成と教員による添削・講評 がある程度養成されていることを前提としつつ、更なる知識の深化を目指す。この演習では が基本となる。教員がテーマを提示し、或は学生自身がテーマを選択し、学生がそれに関して文章を作成し、教員がその添削、講評を行う。最終的には、ある程度の長さのレポートの作成を目指す。 では句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説しつつ、論理的な文章を整理して作成できるよう指導する。 この3つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。 |
| 履修上の注意 | 募集についてはゼミ掲示板に掲示する。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 各担当教員から説明がある。 |

| | | | | | |
|-------|------------------|------|---------|----|--------|
| 科目名 | 社会科学演習（2年前期進路ゼミ） | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | H1040 | 担当教員 | 専任教員複数名 | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。 |
| 授業の進め方 | 受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | <p>演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。</p> <p>がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。</p> <p>では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。</p> <p>では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。</p> <p>この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。</p> |
| 履修上の注意 | 募集についてはゼミ掲示板に掲示する。 |
| 教科書 | 演習で適宜指示する。 |
| 参考書 | 演習で適宜指示する。 |
| 成績評価方法 | 各担当教員から説明がある。 |

| | | | | | |
|-------|-------------------|------|------|----|----|
| 科目名 | 社会科学演習 (2年前期進路ゼミ) | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | H1041 | 担当教員 | 新谷 茂 | 所属 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 自分らしい生き方、働くことの意味を考え、自己への気づきを通して主体的なキャリア形成を図れるよう学びを深めてまいります。また、適切な就職活動のための自己分析・仕事の理解・職業選択・履歴書の書き方・面接対策など実践的な指導をまいります。 |
| 授業の進め方 | 演習形式で進めます。就職活動のための知識・情報を提供し、個々人の就職を取り巻く課題の解決に向けて必要な情報を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。 |
| 達成目標 | (1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、就職のための基礎知識・心構えを養い、社会人としての基礎力の向上を図る。 (2) 自分の将来を深く考察し、主体的にキャリアを形成する力を育てる (3) 職業生活の設計を行うための機会を提供し、就職力を高める。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション、就活とは 第2回 パーソナリティの発達とキャリア 第3回 自己分析 - 職業興味(適職) 第4回 自己分析 - 長所・短所 第5回 仕事の理解、職業選択 第6回 自分らしい生き方、働くことの意味 第7回 キャリアプラン作成・指導 第8回 履歴書の書き方と自己PR 第9回 面接対策・模擬面接 第10回 コミュニケーション、対人スキルの向上 第11回 労働市場の動向、働く人の意欲(動機)と意識 第12回 メンタルヘルス、レジリエンス 第13回 就職の基礎知識(法律・制度) 第14回 社会人としての心構え 第15回 私のチャレンジ - 未来を切り拓く |
| 履修上の注意 | 主に就職希望者を対象としています。 |
| 教科書 | プリント等の配布 |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する |
| 成績評価方法 | レポート(70%)・発表(30%)等を総合的に評価する |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 地域政策特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | SA021 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 日本では少子化の進行が深刻な社会問題となっています。この背景や対策について、世界の国々と比較して考えていきます。また、日本国内における少子化進行の差異についても検討し背景と対策を考えていきます。 |
| 授業の進め方 | レジュメと資料プリント等を使い説明していきますが、個々の論点については研究論文・著書・報告等を輪読し演習形式で進めていきます。受講者の希望や関心に応じ発表する機会等を設けます。 |
| 達成目標 | (1) 日本の少子化に関する基礎知識と議論を理解する。 (2) 世界諸国の出生率の動向と大まかな背景を理解する。 (3) 少子化とその背景に関する議論を整理できる。 (4) 少子化の対策に関し問題意識を持つことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 特殊講義の内容説明 第2回 日本の少子化と時代背景 第3回 世界の少子化と諸類型 第4回 福祉国家類型と少子化 第5回 北欧の少子化動向と背景 第6回 西欧の少子化動向と背景 第7回 南欧の少子化と背景 第8回 東欧の少子化と背景 第9回 東アジアの少子化と背景 第10回 日本における少子化動向の地域差 第11回 女性の就業と少子化 第12回 子育て支援と少子化 第13回 教育と少子化 第14回 国家財政支出と少子化 第15回 少子化改善の方策 概ね、上記内容を考えていますが、受講生の希望等により内容や順序等に変更が加えられる可能性があります。また、受講生による発表等を採用する予定です。 |
| 履修上の注意 | できればジェンダー論を受講しておいてほしい。社会保障・福祉論とも関係が深い。日頃から、ニュース、新聞等に目を通し、問題関心を養っておくよう期待する。 |
| 教科書 | レジュメと資料を配布する。また、適宜、映像資料を使用する。 |
| 参考書 | 『日本の人口減少社会を読み解く』京極高宣・高橋重郷編、中央法規(2008年)、『国際比較にみる世界の家族と子育て』牧野カツコ等編著、ミネルヴァ書房(2010年)、その他、授業中に紹介する。 |
| 成績評価方法 | レポート(70%)、発表(30%)等を総合的に評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------|
| 科目名 | 地域財政論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | SA040 | 担当教員 | 霜田 博史 | 所属 | 高知大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 地方財政を考える上では、地域経済、地域社会とのかかわりのなかで見なければならぬ。そこで本講義では、地方財政の持続可能性を考えるうえで必要な条件について考察していくことを目的とする。 |
| 授業の進め方 | 講義形式とする。 |
| 達成目標 | (1) 現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。 (2) 地方財政の現状に関する歴史的背景を理解する。 (3) 地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 地方財政と地域社会 第3回 「地域経営」という考え方 第4回 地方自治体の現状をめぐる歴史的背景 第5回 地方自治体の現状をめぐる歴史的背景 第6回 地方財政と地域政策 第7回 地方財政と地域経済 第8回 地方税と課税自主権 第9回 地方財政を分析するために 第10回 地方財政を分析する 決算 第11回 地方財政を分析する 歳入と地方税 第12回 地方財政を分析する 目的別歳出 第13回 地方財政を分析する 性質別歳出と経常収支比率 第14回 地方財政を分析する 決算関連諸指標 第15回 まとめ |
| 履修上の注意 | 内容の順序については、事情により変更することもある。 |
| 教科書 | 特になし。レジュメおよび資料を配布する。 |
| 参考書 | 必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。 |
| 成績評価方法 | 期末試験(100%)により評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|------------------------|
| 科目名 | 貿易論特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | SA060 | 担当教員 | 細居 俊明 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7191 (研究室) |
| | E-mail | | | | | hosoi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|--------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | <p>貿易論特講は、地域経済にとって、地域外との交易（地域間交易）の意味を検討します。地域間交易には、その地域と外国との交易（貿易）を含むだけでなく、その地域と同じ国内の、他の地域（都道府県など）との取引を含みます。地域間交易の視点から、グローバル化の中での、地域経済再生の条件を考えていきます。</p> <p>今年度はTPP（環太平洋経済連携協定）に焦点をあて、日本と地域経済にとってどのような意味をもつかをじっくりと考えていくことにします。</p> |
| 授業の進め方 | 演習形式で行います。主に受講生からの報告を中心に、議論しながら学習を進めます。 |
| 達成目標 | <p>(1) WTOルールと地域貿易協定との関連を整理してとらえる。</p> <p>(2) TPP（環太平洋経済連携協定）について基本的理解を深める。</p> <p>(3) 地域経済にとってTPPがどのような意味をもつか、検討すべき問題を理解する。</p> |
| 授業計画 (講義の具体的内容) | <p>概ね、次のような項目を取り上げて問題を深めていくことを候補の1つとします。しかし、内容的には地域とつながりの深いところを重視して進めます。また受講生と相談して学習内容を確定していきます。学ぶ方法としては、関連文献を取り上げ、それを受講生が持ちまわりでレポートをする形で進めます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 WTO(世界貿易機構)と地域貿易協定 第3回 WTOと地域貿易協定 第4回 TPP(環太平洋経済連携協定)とは何か 第5回 TPPとは何か 第6回 TPP賛成論 第7回 TPP賛成論 第8回 TPP反対論 第9回 TPP反対論 第10回 TPP参加国と日本 第11回 TPP参加国と日本 第12回 EU(欧州連合)とTPP 第13回 農業再生の課題とTPP 第14回 日本経済の課題とTPP 第15回 まとめ</p> |
| 履修上の注意 | 積極的に参加する姿勢が求められます。 |
| 教科書 | 特に指定しません。 |
| 参考書 | 文献は適宜紹介します。 |
| 成績評価方法 | 毎回の授業での受講生によるレポート(60%)を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 地方政治論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | SA080 | 担当教員 | 清水 直樹 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7188 |
| | E-mail | | | | | shiminao@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 地方政治を分析するための方法論について学び、その方法を活用して、受講生に、各自関心のある地方政治を分析してもらいます。 |
| 授業の進め方 | 演習形式で進めます。具体的には、毎回担当者を決めたとで、担当者が報告する、担当者の報告の後、全員で議論、教員の解説、という手順で進めます。詳しい進め方については、第1回の授業で説明します。 |
| 達成目標 | (1) 論理と根拠を持って地方政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 政治分析方法論について理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な地方政治、地方自治の知識を習得する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 説明という試み 第3回 説明の枠組み 第4回 科学の条件としての反証可能性 第5回 観察、説明、理論 第6回 推論としての記述 第7回 共変関係を探る 第8回 原因の時間的先行 第9回 他の変数の統制 第10回 分析の単位、選択のバイアス、観察のユニバース 第11回 比較事例研究の可能性 第12回 単一事例研究の用い方 第13回 政治学と方法論 第14回 地方政治の分析(1) 第15回 地方政治の分析(2) |
| 履修上の注意 | 担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくると思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。 |
| 教科書 | 久米郁男『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』（有斐閣、2013年）。教科書は授業で使用しますので、授業開始前に必ず購入しておくようにしてください。 |
| 参考書 | 高根正昭『創造の方法学』（講談社、1979年）、伊藤修一郎『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。その他は、授業中に紹介します。 |
| 成績評価方法 | 授業への参加態度（50%）と報告（50%）によって評価します。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|----------------------|
| 科目名 | 社会調査論 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 |
| 科目コード | SA085 | 担当教員 | 畠中 洋行 | 所属 | 参加のデザイン研究室・プロセスデザイナー |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 住民参加による住まいづくり・まちづくり・地域づくりの実践現場での経験をふまえ、子どもから高齢者まで、いろいろな人と人との関係性を紡ぎだしていくプロセスにおける、社会調査の意義やあり方を具体的に考察し、実践的な方策を見いだす力を養うことを目的とします。 |
| 授業の進め方 | 様々な事例を映像等で紹介し、その内容をふまえて、受講生と意見のやりとりをしながら、方向性を整理していく進め方を考えています。 |
| 達成目標 | (1) 地域・まちに存在するヒト・モノ・コトの魅力を発見、感じる視点の持ち方に気づいてもらう (2) 地域・まちに存在する様々な課題に対し、「何だろうか?」と疑問を持ってもらう (3) 上記の魅力をどうすればもっと魅力的なものにできるか、課題を解消するにはどのように取り組んでいけばいいかについて、少しでも理解が深まるようになる |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 オリエンテーション 第2回 北方地区のまちづくり(住民参加による住環境改善)事例にみる地域の魅力及び問題点の見つけ方、ならびにそれらをふまえたまちづくりの方向性について 第3回 県営住宅若草南団地の建て替えにみる、居住者参加方式による取り組みとコミュニティ形成のあり方について 第4回 赤岡のまちづくり(その1)モノ・ヒト・コトの魅力を見つけるしくみづくりについて 第5回 赤岡のまちづくり(その2)絵金蔵・弁天座が生まれるまでのプロセスについて 第6回 赤岡のまちづくり(その3)地域のキーパーソンの魅力について 第7回 赤岡のまちづくり(その4)絵金蔵蔵長が語る絵金と絵金蔵の魅力について 第8回 地域資源を活かすデザインのチカラについて 第9回 鹿児島県鹿屋市柳谷集落(通称「やねだん」)の取り組みにみる地域づくりのしくみについて 第10回 道の駅の魅力・可能性について 第11回 「子どもとまち、子どもの社会参画」(その1)ドイツミュンヘンにおけるミニ・ミュンヘンの取り組みについて 第12回 「子どもとまち、子どもの社会参画」(その2)ミュンヘン市における子ども議会等の取り組みについて 第13・14回 「子どもとまち、子どもの社会参画」(その3、その4)子どもが運営するまち「とさこタウン」の取り組みについて 第15回 授業のまとめ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | 講義レジュメ及び関連資料の配布 |
| 参考書 | 同上 |
| 成績評価方法 | 講義への参加姿勢(70%)、各事例を聞いたうえでのコメントあるいはレポート(30%)などから総合的に判断する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 公法特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | SB093 | 担当教員 | 小林 直三 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7183(研究室) |
| | E-mail | | | | | k-naozo@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 憲法及び行政法に関する正確な知識を修得し、かつ、そのことを前提に諸論点を考察していく。 |
| 授業の進め方 | 原則として、通常の講義形式で行う。受講生にテーマを課して、数回程度、報告を求める。ただし、受講生に人数次第で、柔軟に進め方を変更することもある。 |
| 達成目標 | (1) 憲法及び行政法に関する正確な知識を修得する。 (2) 憲法及び行政法の諸論点に関する判例・学説を理解する。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、憲法及び行政法に関する諸論点について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 司法審査の概念と限界について 第3回 国会及び内閣について 第4回 財政及び地方自治について 第5回 人権の概念について 第6回 信教の自由と政教分離原則について 第7回 表現の自由について 第8回 その他の人権について 第9回 行政法の基本原理について 第10回 行政組織法について 第11回 行政作用法について 第12回 行政救済法について(その1:国家補償法について) 第13回 行政救済法について(その2:行政争訟法について) 第14回 情報公開制度及び個人情報保護制度について 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題について |
| 履修上の注意 | 2012年度以前の「憲法特講」または「行政法特講」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。また、数回程度、「必ず」報告をしてもらいます。 なお、この科目は、本科での憲法・憲法・行政法・行政法の講義内容をきちんと理解できていることを前提として行いますので、注意してください。 |
| 教科書 | 『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) |
| 参考書 | 『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社(2013年) 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(2015年) |
| 成績評価方法 | 複数回の報告(20%)、および講義への参加姿勢など(80%)から総合的に評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 刑事法特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | SB130 | 担当教員 | 田中 康代 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7190 (研究室) |
| | E-mail | | | | | yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 責任能力と責任無能力者への処遇について講義を行います。 |
| 授業の進め方 | 初回の授業で受講生と協議して、決定しますが、現段階では講義をするだけでなく、様々な文献を読み、学生と教員の間で討論しようと考えています。 |
| 達成目標 | (1)責任能力意義について理解すること。 (2)精神障害者と犯罪の問題について理解すること。 (3)望ましい心神喪失者の処遇とはどのようなものかを各自考えること |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | <p>第1回 はじめに 授業方法の確認 第2回 責任能力とは何か 第3回 触法行為を行った責任無能力者の処遇(1) 第4回 触法行為を行った責任無能力者の処遇(2) 第5回 保護処分 第6回 精神保健福祉法の問題(1) 第7回 精神保健福祉法の問題(2) 第8回 心神喪失者等医療観察法の問題(1) 第9回 心神喪失者等医療観察法の問題(2) 第10回 国連総会決議「精神病者の保護及び精神保健ケアの改善のための原則」 第11回 障害者の権利条約と日本 第12回 諸外国の試み(1) 第13回 諸外国の試み(2) 第14回 諸外国の試み(3) 第15回 責任無能力者へのあるべき処遇とは</p> <p>これはあくまでも目安に過ぎず、受講者の希望によっては別の刑事法に関する問題(例えば、死刑、有罪確定後の犯罪者の処遇問題、国家秘密法制など)を取り扱ったり、刑法や刑事訴訟法の問題を取り扱ったり、法学検定の問題に挑戦する場合もあります。</p> |
| 履修上の注意 | できるだけ、出席し、発言してください。 |
| 教科書 | プリント等を配布します。 |
| 参考書 | 特になし。 |
| 成績評価方法 | 報告内容(80%)、受講への参加姿勢(20%)を総合して評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|------|----|--------|--------------------------|
| 科目名 | 社会法特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | SB140 | 担当教員 | 根岸 忠 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7184 (研究室) |
| | E-mail | | | | | negishi@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 社会法を構成する法分野のうち、労働法と社会保障法に関して、これら法領域に関する最新の論文を読むことをとおして、どのようなことがいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。 |
| 授業の進め方 | 今年度はワーク・ライフ・バランスなど家族にかかわることがらをテーマにして授業を行う。具体的には、教員が指定した又は各自が選んだ論文を報告者が報告し、議論するという形で授業を進める。 |
| 達成目標 | (1)論文の内容を正確に読むことができるようになる。 (2)相手の意見を理解した上で、議論に参加できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 はじめに 第2回 労働と家族 第3回 ワーク・ライフ・バランスに関する法(1) 第4回 ワーク・ライフ・バランスに関する法(2) 第5回 育児休業及び介護休業をめぐる法制度(1) 第6回 育児休業及び介護休業をめぐる法制度(2) 第7回 配転と労働契約(1) 第8回 配転と労働契約(2) 第9回 社会保障と家族 第10回 医療保険と被扶養者 第11回 遺族給付をめぐる問題 第12回 保育所と待機児童 第13回 単身家庭と貧困(1) 第14回 単身家庭と貧困(2) 第15回 生活保護と私的扶養 |
| 履修上の注意 | 労働法や社会保障法に関して十分な知識を有していることを要する。 |
| 教科書 | とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してもらいたい。 |
| 参考書 | 『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(平成27年) |
| 成績評価方法 | 報告の内容及び議論への参加の度合いによって評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|-------------------------|
| 科目名 | 商事法特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 | |
| 科目コード | SB161 | 担当教員 | 菊池 直人 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7185 |
| | E-mail | | | | | na0to3@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 私たちは、様々な企業から商品やサービスを購入・利用して、日常生活を営んでいます。商事法特講では、このように日常生活と密接な関係のある、企業取引について学んでいきます。本科での学びをベースに、具体的な商取引と法規制および課題について考えていきます。 |
| 授業の進め方 | 講義・演習を併用した形式で進めます。毎回、担当者に報告を求められることがあります。 |
| 達成目標 | (1) 企業取引法とは何か理解できるようになる。 (2) 各種企業取引とその法規制について理解できるようになる。 (3) 積極的に議論に参加し、自分の意見を述べるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 企業と取引 第2回 商品の流通 第3回 決済 第4回 企業の組織 第5回 企業グループ 第6回 企業の資金 第7回 投資と利殖 第8回 企業の失敗 第9回 企業責任 第10回 企業と権利 第11回 知的財産権 第12回 競争と独占 第13回 紛争解決 第14回 国際社会と企業 第15回 企業法の生い立ち * 以上は一応の目安であり、講義の進捗状況や受講者の希望などにより、テーマを変更する場合があります。 |
| 履修上の注意 | 特にありません。 |
| 教科書 | 企業法入門(第4版) 龍田節/杉浦市郎著 悠々社(2008年) ISBN: 978-4-86242-007-7 |
| 参考書 | 六法(何でも良い)を持参してください。 |
| 成績評価方法 | 報告内容(60%)、講義への参加姿勢(40%)により評価します。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 会計学特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | SB214 | 担当教員 | 梶原 太一 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7187 (研究室) |
| | E-mail | | | | | kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業では、現代の会計について、歴史と世界の視野から学びます。現代の会計は、投資者の意思決定に役立つ情報の提供を最高規範として行われています。その結果として、従来に比べると、投資家に向けて開示される情報の量も年々拡大し続けています。また、世界中の会計の規則を統一する動きも進んでいます。この授業では、このような現代の会計の姿を浮き彫りにするために、歴史の視点と世界の視点から考えていきます。 |
| 授業の進め方 | この講義では、現代の会計を広い視野から論じた文献を取り上げ、輪読を行います。 |
| 達成目標 | (1) 現代の会計の姿を理解すること (2) これまでの会計の歴史を理解すること (3) 会計士などの会計専門職の役割について理解すること (4) 国際的な会計基準設定の動向を理解すること (5) この授業の内容を理解しようとするをきっかけとして、会計実践の学習を深め、将来の職業生活へと役立てられることを期待します |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 第1回 講義の内容解説 第2回 現代の会計の解説 第3回 購読課題 『Double Entry』 Preface (邦訳「ロバート・ケネディと富の測定」) 第4回 購読課題 『Double Entry』 ch.1 (邦訳「会計 コミュニケーションの始まり」) 第5回 購読課題 『Double Entry』 ch.2 (邦訳「商人と数学」) 第6回 購読課題 『Double Entry』 ch.3 (邦訳「ルカ・パチョーリ、有名人になる」) 第7回 購読課題 『Double Entry』 ch.4 (邦訳「パチョーリの簿記論」) 第8回 購読課題 『Double Entry』 ch.5 (邦訳「複式簿記の普及」) 第9回 購読課題 『Double Entry』 ch.6 (邦訳「産業革命と会計士の誕生」) 第10回 購読課題 『Double Entry』 ch.7 (邦訳「複式簿記と資本主義 卵が先か、鶏が先か」) 第11回 購読課題 『Double Entry』 ch.8 (邦訳「ケインズ 複式簿記と国民の富」) 第12回 購読課題 『Double Entry』 ch.9 (邦訳「会計専門職の台頭とスキャンダル」) 第13回 購読課題 『Double Entry』 ch.10 (邦訳「会計は地球を救えるか」) 第14回 購読課題 『Double Entry』 Epilogue (邦訳「終章」) 第15回 講義のおさらい |
| 履修上の注意 | 前提となる知識は必要ありません。語学(英語)に興味のある方や歴史に興味のある方も歓迎します。 |
| 教科書 | 『Double Entry: How the Merchants of Venice Created Modern』 Jane Gleeson-White著、Allen & Unwin社(2013年) / 日本語訳 『バランスシートで読みとく世界経済史 ヴェニス商人はいかにして資本主義を発明したのか?』 川添節子訳、日経BP社(2014年)。 |
| 参考書 | 『The General Theory of Employment, Interest, and Money』 J. M. Keynes著(1936年) / 日本語訳 『雇用、利子、お金の一般理論』 山形浩生訳、講談社学術文庫(2012年)。 『More Than a Numbers Game: A Brief History of Accounting』 Thomas A. King著、Wiley社(2006年) / 日本語訳 『歴史に学ぶ会計の「なぜ?」』 アメリカ会計士入門』 友岡賢訳、税務経理協会(2014年)。 |
| 成績評価方法 | 講義への参加姿勢(50%)、期末の課題提出(50%)。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------------|
| 科目名 | 税務会計論 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | SB220 | 担当教員 | 梅田 昭彦 | 所属 | 梅田昭彦税理士事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 税務会計を理解するための前提となる法人税法を習得し、財務会計と税務会計の差異を理解する。 |
| 授業の進め方 | 受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。 |
| 達成目標 | (1) 法人における税務会計の基礎知識を習得する。 (2) 財務会計と税務会計の違いを理解する。 (3) 税制の最新動向を把握する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 毎回、テキストを用いて講義した後、財務会計と税務会計の処理方法の違いを伝票イメージで解説します。 さらに、財務会計と税務会計の差異を調整する方法を、別表四と別表五(一)を用いて解説します。 第1回 オリエンテーション 第2回 財務会計・税務会計・管理会計の違い 第3回 損益の期間帰属 第4回 棚卸資産 第5回 減価償却 第6回 繰延資産の償却、圧縮記帳 第7回 役員の給与等 第8回 租税公課等、寄付金 第9回 交際費等 第10回 貸倒損失と貸倒引当金 第11回 受取配当等の益金不算入、有価証券の譲渡損益・時価評価損益 第12回 別表四と五(一)の作成方法 第13回 税率、所得税額の控除、申告と納税 第14回 税制改正等 第15回 法人税と所得税の違い |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | 開講時に指定します。 |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価方法 | 講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%) |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------------|
| 科目名 | 税法特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | SB230 | 担当教員 | 梅田 昭彦 | 所属 | 梅田昭彦税理士事務所 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 我が国の代表的な税法の基礎知識を習得する。 |
| 授業の進め方 | 受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。 |
| 達成目標 | (1) 租税の目的、及び租税法の基本原則を理解する。 (2) 所得税法・法人税法・相続税法・消費税法の構造を理解する。 (3) 税制の改新動向を把握する。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 租税法 第1回 税(租税)とは何か? 第2回 税金が決まるまで 所得税法 第3回 所得の種類 第4回 課税所得の計算方法(収入～経費) 第5回 所得税額の計算 法人税法 第6回 企業会計と税法会計の違い 第7回 課税所得の計算方法(益金) 第8回 課税所得の計算方法(損金) 第9回 法人税額の計算 相続税法 第10回 相続税の課税財産 第11回 相続税額の計算 第12回 贈与税額の計算 消費税法 第13回 課税の対象 第14回 消費税額の計算 その他 第15回 税制改正の動向 |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 教科書 | 開講時に指定します。 |
| 参考書 | 特になし |
| 成績評価方法 | 講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%) |

| | | | | | |
|-------|--------|------|-------|----|------|
| 科目名 | 経営学特講 | 単位数 | 2 | 期別 | 後期 |
| 科目コード | SB240 | 担当教員 | 中道 一心 | 所属 | 高知大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | この授業では、経営学における「競争」に関する基礎知識を学びます。 |
| 授業の進め方 | 通常の演習形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。 また、個別産業・個別企業の競争環境に関する資料作成が授業時間外に必要です。 授業時間内に質問を投げかけますので、積極的に答えてください。 |
| 達成目標 | (1) 経営学についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (2) 競争についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (3) 特定産業・企業の競争を把握し、分析できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 良い企業とは何か？ 第2回 競争を読み解くツール(1) 第3回 競争を読み解くツール(2) 第4回 競争環境を知る 第5回 「競争」に関する基本文献読解(1) 第6回 「競争」に関する基本文献読解(2) 第7回 「競争」に関する基本文献読解(3) 第8回 「競争」に関する基本文献読解(4) 第9回 個別産業・個別企業の競争環境(1) 第10回 個別産業・個別企業の競争環境(2) 第11回 個別産業・個別企業の競争環境(3) 第12回 個別産業・個別企業の競争環境(4) 第13回 個別産業・個別企業の競争環境(5) 第14回 最終報告(1) 第15回 最終報告(2) |
| 履修上の注意 | |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。 |
| 成績評価方法 | ・授業への貢献(50%) ・最終報告会(50%) |

| | | | | | | |
|-------|----------|------|-------|----|--------|---------------------------|
| 科目名 | 情報処理応用演習 | 単位数 | 2 | 期別 | 前期 | |
| 科目コード | SC280 | 担当教員 | 大井 方子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7189 (研究室) |
| | E-mail | | | | | oimasako@cc.u-kochi.ac.jp |

| | |
|------------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 自力でデータを分析できる力と、データの分析結果を読み解く力を養う。 |
| 授業の進め方 | 教科書の講義と実習。また、受講生は、自分で分析したいデータを用いてその分析経過や分析結果を授業内で報告する。 |
| 達成目標 | (1) データを分析できるようになる。 (2) データの分析結果を読み解くことができるようになる。 (3) データ分析の背景にある統計学の理論を理解できるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 第1回 はじめに：何を分析したいのか 第2回 アンケート調査票の作成 第3回 データの入力とチェック 第4回 受講生からの報告(1) 第5回 グラフ 第6回 2つの関係性 第7回 受講生からの報告(2) 第8回 相関関係があるのか 第9回 2つの相関関係に差があるのか 第10回 クロス集計 第11回 2つに関連があるのか 第12回 受講生からの報告(3) 第13回 比率に差があるのか 第14回 平均値に差があるのか 第15回 受講生からの報告(4) ただし、受講生の希望や理解度により進度を変えることがある。 |
| 履修上の注意 | データを使って分析したいことがあることが望ましい。 |
| 教科書 | 『Excelで学ぶアンケート処理 - 統計学って意外とやさしい?』石村貞夫・劉 晨・加藤千恵子、東京図書(2009年) |
| 参考書 | 特になし。 |
| 成績評価方法 | 課題や授業への取り組み方(50%)と報告(50%)により評価する。 |

| | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|----|--------|-----------------------|
| 科目名 | 消費生活論 | 単位数 | 2 | 期別 | 集中 | |
| 科目コード | SC290 | 担当教員 | 池谷 江理子 | 所属 | 高知短期大学 | |
| 連絡先 | 電話 | | | | | 088-821-7195 |
| | E-mail | | | | | ikeya@cc.u-ochi.ac.jp |

| | |
|---------------------|---|
| 授業概要 (テーマ等) | 消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。 |
| 授業の進め方 | 講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。 |
| 達成目標 | (1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力が養成される。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量が身につくようになる。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解することができるようになる。 |
| 授業計画 (講義の具体的な内容) | 講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識 講義の順序に変更がある場合もあります。 |
| 履修上の注意 | 公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。 |
| 教科書 | 毎回、講義レジュメを配布します。 |
| 参考書 | 講義のなかで紹介します。 |
| 成績評価方法 | 毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|---|----|--------|
| 科目名 | 特別研究 | 単位数 | 4 | 期別 | 通年 |
| 科目コード | SC291 | 担当教員 | | 所属 | 高知短期大学 |
| 連絡先 | 電話 | | | | |
| | E-mail | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| 授業概要 (テーマ等) | 学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う |
| 授業の進め方 | 教員による個別指導 |
| 達成目標 | (1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする |
| 授業計画 (講義の具体的 内容) | 専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。) |
| 履修上の注意 | 指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる |
| 成績評価方法 | 調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価 |